

第6章 出土人骨の分析

本章では調査で出土した人骨についてその詳細を述べる。今次の子の方原地区から出土した人骨は全体的に遺存状態が良好であり頭蓋骨や四肢骨が完存かそれに近い程度で残存しているものが多数見られた。これまで前田・経塚近世墓群の出土人骨に関しては「首里大名地区」「前田真知堂B丘陵・C丘陵」の資料を分析・報告しているが、これらに比べて形態を保った状態で残存する資料が多数出土している。出土人骨の観察は、言うまでもなく本遺跡に埋葬された人々そのものの様子を窺うことのできる重要な作業である。ここでは、人骨の出土構成やサイズなどの基礎的な情報を提示し、既報告の人骨資料とも合わせて本遺跡の被葬者集団に関する特徴についてまとめる。

第1節 資料の概要

子の方原地区の今次調査で検出された61基の墓遺構のうち、35基から人骨が検出されている。014・016・019・029・030・039・042・050号墓では埋土中からのみ出土し、それ以外では蔵骨器に納められた状態の人骨が出土している。また、002・008・027・057号墓からは一次葬人骨が原位置で検出されている。

本報告に際しては、部位同定可能な人骨を対象資料として扱った。資料整理は部位同定・個体識別(性別・年齢推定を含む)・骨長計測・肉眼による形態観察・写真撮影の作業を基本とした。

人骨の個体識別及び個体数のカウントは蔵骨器ないし原位置を保つ一次葬のまとまりの単位で行うことを基本とした。そのため、蔵骨器の出土している墓において埋土中から出土した散乱人骨は、一覧表に出土部位と計測値の記載のみを行い、個体数の算出及び分析の対象外とした。蔵骨器が出土せず、埋土中からのみ人骨が出土している墓については、出土レベルを問わず全て一括した上で個体数の算出のみを行っている。

個体の性別判定は寛骨形状・頭蓋骨形状の観察に基づく。ただし、両者が形状を留めていない場合は、四肢骨骨端サイズ・四肢骨骨体サイズを本地区出土人骨の内、前者により性別の決定できた個体と比較観察して推定した。

第2節 出土人骨の記載

本節では出土した人骨の部位同定結果と個体別の観察所見について記載する。ただし、出土量が多数にのぼることと紙面の都合上、残存状態の良好なもの及び特記すべき観察所見の得られた個体に焦点を絞り記載を行いたい。

001号墓脇墓(013号墓)－蔵骨器1－No.1

概ね全身の部位が出土しているが、四肢骨等の長骨は部分的な残存状態である。頭蓋は破片となっているため詳細を観察することはできず、寛骨形状や四肢骨骨端サイズから成人女性1体分と判断さ

れるが、年齢段階については判断が困難である。左右の鎖骨で胸骨関節面近くの骨体に上下方向への肥大が認められたほか、頸椎・胸椎の椎体腹縁および足第1基節骨近位端に骨棘形成が観察された。

002 号墓—一次葬—No.1

概ね全身の部位が形状を保って出土している。頭蓋骨や寛骨の形状から成人女性と判断される。四肢骨も全体的に細身であるが、大腿骨の粗線の発達に強い。鎖骨や脛骨に形質変異が見られるほか、寛骨に比較的浅い前耳状溝が観察された。左橈骨の骨幹外側面に炎症痕と思しき変異が認められる。大臼歯を中心に歯槽閉鎖が進んでおり、残存歯も咬耗が進行している。また、P₂Lは齶触により歯根のみが残存している。冠状縫合は中心から癒合が進行しているが、矢状縫合は癒合開始段階、ラムダ縫合は未癒合の状態である。以上の所見から年齢段階は熟年～老年と推定される。

008 号墓—一次葬—No.1

部位同定可能な資料は多数見られるが、長骨は欠損しているものがほとんどを占める。乳様突起や寛骨の形状から男性、頭蓋縫合は一部を除き癒合が完了しており、上下の歯槽も大半が閉鎖済であることから老年段階であると判断される。また、外後頭隆起が非常に強く発達している。また、左の肩甲骨関節窩に変異が認められることから関節症を発症していたことを窺わせる。

008 号墓—蔵骨器 5—No.1

劣化が進行しており頭蓋骨は破片が認められるのみである。四肢骨なども表面が劣化しており詳細な形態観察は難しいものの、上腕骨・大腿骨骨端形状などから成人女性であると推測される。

014 号墓—蔵骨器 1—No.1・No.2・No.3

全体的に残存状況が悪く、部位同定可能な資料も欠損ないし風化の激しい資料が多いが、成人2体・未成人1体が含まれる事が窺える。成人は寛骨・大腿骨・距骨が部位重複しており骨の残存状態などから個体の類別を行った。No.2は寛骨形状や大腿骨頭サイズから女性と推定されるが、No.1は欠損が激しいため判断を保留した。No.3は未成人で、残存する遊離歯のほとんどを占める未萌出の永久歯が全て歯根未形成である点や四肢骨のサイズが057号墓—蔵骨器3—No.1の個体よりやや大きく、057号墓—蔵骨器9—No.1の個体よりはだいぶ小さいことから幼児段階と考えて良いと思われる。

014 号墓—蔵骨器 2—No.1

頭蓋骨を含む主要な部位が同定でき、乳様突起や四肢骨骨端サイズなど全体的にみて男性と判断できる要素が多いことから、少なくとも男性1体分であることが窺える。上顎残存歯の咬耗も比較的進行していることから成年後半から熟年の年齢段階と推定される。上腕骨の小結節稜の一部が突起状の発達をしている点が特記される。

014 号墓—蔵骨器 3—No.1・No.2

多量の微細骨片となって検出されている資料が多く得られた蔵骨器であったが、同定された部位の重複から成人2体分が含まれるとみられる。重複する上腕骨や尺骨・大腿骨・膝蓋骨・距骨を比較すると長さや骨端サイズ等に大小差が認められたことから、それぞれを一群として個体を識別した。欠損が多いことから計測値としては数値化できないものの、性別が明瞭な他の人骨と比較するとNo.1は男性、No.2は女性であろうと思われる。加えて、両者とも上腕骨や大腿骨の全長が比較したそれぞれの男性・女性人骨よりも長い形状となる事が窺われる。下顎骨が2点残存しており、No.1・2への識別不能であるが、1点は大半の歯槽が閉鎖済、1点の一部の歯槽閉鎖が進行中である様子が見られることから、

熟年から老年のいずれかの年齢であると想定できる。

014 号墓—蔵骨器 4—No.1・No.2

ほぼ完形の頭蓋骨 1 点と脳頭蓋の破片、概ね全体が残存している下顎骨が 2 点検出されたことから成人 2 体が納骨された事が窺えるが、その他の椎骨や四肢骨などの部位には重複が見られない。完存する頭蓋をNo.1、脳頭蓋の破片をNo.2 として類別し、関節突起と下顎窩との位置関係から対応する下顎骨を判別した。No.1 は乳様突起や眉弓の発達から女性、これとの比較によりNo.2 は男性と判断した。一方で、その他の部位をみると、寛骨は女性の形状を呈し、主要長骨の骨端・膝蓋骨・踵骨・距骨サイズは女性と判断される人骨のそれと同程度かやや小さいと認められることから、一群全てNo.1 の女性に属する部位であろうと推定される。また、腰椎及び第 1 仙椎の椎体腹縁に変形性関節症と見られる骨棘形成が観察される。

014 号墓—蔵骨器 5—No.1・No.2・No.3

本蔵骨器からは成人 2 体・未成人 1 体分が同定されている。成人骨は概ね全身の部位が同定されている。二組の寛骨が同定され、一組は女性の形状を呈すると観察されるが、もう一組は欠損が激しく判断に至らない。一方、頭蓋骨では眉弓・乳様突起の発達には男女それぞれの特徴を窺う事ができたため、女性と想定される一群をNo.1、男性のそれらをNo.2 として識別し、分類不能部位については一括した。2 点の頭蓋骨を比較すると、全体的なサイズはNo.1 の方が大きい。また、橈骨・大腿骨・脛骨など四肢骨は骨端サイズや筋粗面の発達などが比較的小さいあるいは弱いものをNo.1 の女性、そうではないものをNo.2 の男性と推定したが、骨長は概してNo.1 の方が大きい傾向が見て取れた。なお、上下の顎骨も 2 点ずつ同定され、いずれも全ての歯槽が閉鎖していることから両者とも老年段階の個体である。形態的にはNo.2 の左脛骨骨体下半外側に骨増殖が見られ、腓骨にも同様の変異が見られる破片があり、骨折治癒痕ではないかと想定される。その他、いずれの個体に属するものであるか不明の腰椎に著しい骨棘形成が見られる点や、中手骨 1 点の骨体に径 3~4 mm 程度の凹みが観察される点などが特記される。

未成人骨はNo.3 として識別し、上下顎骨の残存歯の観察では切歯及び第 1 大臼歯が萌出完了、犬歯・第 1 小臼歯・第 2 大臼歯が萌出中である点から小児（10~11 歳）段階程度であろうと推測できる。萌出中の永久歯にはエナメル質減形成が観察される。

014 号墓—蔵骨器 6—No.1・No.2

2 体の成人骨が納められた状態で出土が確認された。男性と女性が 1 体ずつで、男性をNo.1・女性をNo.2 として識別した。明確なサイズの大小が認められる部位については分類可能であるが、肋骨・椎骨・手根・足根・指骨などについては一括している。また、両者とも骨の表面に風化と思しき様相が窺える。

No.1 は頭蓋骨以外の四肢骨等の主要部位が概ね完形で残存している。頭蓋では上下の顎骨のみが形状を保っており、残存歯の咬耗がそれ程進行していない点、第 3 大臼歯が萌出完了している点などから成年段階ではないかと推定される。

No.2 は眉弓や乳用突起、寛骨形状から女性であると判断できる。冠状縫合は概ね癒合が完了しており、矢状縫合・ラムダ縫合は進行中である。四肢骨は長さ・径ともにサイズが小さいものの、筋粗面は比較的発達している。また、左右の腸骨に極めて明瞭な前耳状溝を呈する。顎骨に残存する切歯・犬歯にエナメル質減形成が確認できる。大臼歯の咬耗をみると M₃ が最も進行している点が注視されるが、

全体的にはNo.1と同程度の成年段階であろうと思われる。

014号墓—蔵骨器8—No.1・No.2

頭蓋骨を含む成人2体分の全身骨が比較的良好な状態で残存している。ほぼ同じサイズの2点の頭蓋骨のうち、1点は前頭骨及び顔面頭蓋・下顎骨が欠失しているが発達形状から男性、1点は下顎骨までを含め完存しており形状から女性とそれぞれ判断できる。一方で四肢骨は主要部位骨が2点ずつ同定されており、そのサイズに明瞭な大小差が認められる。大きな一群は男性、小さな一群が女性であると推定され、頭蓋骨と併せ男性をNo.1、女性をNo.2に分類した。No.1は上顎臼歯の咬耗から成年段階程度と推定されるが、前頭縫合が未癒合で残存している状態が観察される。No.2は上顎歯槽がすべて閉鎖していることから老年と推定され、右の脛骨上部骨体と腓骨が外側面を中心に骨増殖を呈しており、骨折治癒痕ではないかと思われる。また、どちらのものかは検討を要するが、同定された腰椎のうち3点の椎体腹縁ないし側縁に骨棘形成が認められる。

022号墓—蔵骨器1—No.1

四肢骨を中心に概ね全身の部位が同定されており、寛骨形状などから成人女性1体分であると考えられる。頭蓋は前頭骨から顔面部にかけて激しく欠損して破片になっていることから詳細な形態を窺う事はできないが、断片的に残存する上下顎骨の大半の歯槽が閉鎖済である点から老年段階に達しているものと思われる。上肢・下肢の長骨の粗線や筋粗面などの発達はそれ程強くないものの、鎖骨の発達は左右とも強く、特に左鎖骨の骨体には鉤状の突起が形成されるなどの変異が見受けられる。また、腰椎2点の椎体にさほど強硬度ではないものの骨棘形成が観察される。また、第1・2仙椎間が未癒合である。

022号墓—蔵骨器2—No.1・No.2・No.3

四肢骨を中心に同定が可能であるものの、分析不可の細片も多く含まれた骨が検出されている。頭蓋骨は全て破片となっているものの、寛骨の形状から男性であることは明瞭で、主要な部位骨も骨体径や骨端サイズなどから男性のものであろうと思われる。ただし、腓骨遠位端近くの骨体部分に部位重複が確認され、残存状態が上記の成人男性のものとは異なると判断できたことから、別個体が残存しているものとして類別した。

また、これらに混じって明らかに未成人と考えられる椎骨と腓骨・遊離歯が同定されたため、これらをNo.3として識別した。遊離歯は下顎第1乳臼歯および歯根未形成の上顎第1切歯であることから小児段階程度であろうと推定される。

023号墓—蔵骨器1—No.1・No.2

多数の部位同定不明の破片を中心とする骨の出土が見られる蔵骨器である。部位同定可能資料も残存状態は悪く、詳細な形態観察は困難であるが、成人骨と未成人骨が最少で各1体ずつ含まれる事が確認出来た。未成人骨をNo.1とし、他の未成人骨との比較から概ね幼児段階であろうと想定される。

023号墓—蔵骨器2—No.1

部位不明の破片が多数を占めながら、一部に同定可能な程度残存している部位が見られた蔵骨器である。形態的に詳細を窺うことは難しいが、部分的に残存する骨端部が癒合済みである点や部位重複しないことから成人1体分ではないかと思われる。また、骨端サイズからは女性の可能性が高いと推測できる。

023 号墓—蔵骨器 3—No.1・No.2

大半が部位不明破片である資料である。頭蓋骨破片や一部の四肢骨が同定されるものの、少なくとも成人 1 体分があることに加え、形成初期の大白歯が混在していることから乳幼児も含まれていることを窺うことができるが、それ以上の詳細は不明である。

024 号墓—蔵骨器 1—No.1・No.2・No.3

本蔵骨器からは、3 体分の未成人骨が検出された。頭蓋骨を含めた主要な四肢骨がそれぞれ 3 つずつ同定され、サイズが大中小と明瞭に異なることから発達段階の異なる個体として識別することが容易である。ただし、椎骨や肋骨等は分類不能として一括した。各個体の発達段階は上下顎骨の観察により、3 体とも乳歯が未萌出状態であることから乳児（1 歳以下）段階であると推定できる。加えて第 1 大白歯の歯槽サイズを比較すると、No.2 に比べ No.1 がより大きく形成されており、No.3 では第 2 乳歯部分の歯槽までしか形成されていない。3 体のうち、No.1 が最も月齢が高く、No.3 が低いことが窺えることから、No.1 から順に大きなサイズの四肢骨をあてはめ、個体の識別を図った。

024 号墓—蔵骨器 2—No.1・No.2

部位重複から成人 2 体分の全身骨が出土しており、寛骨及び頭蓋骨形状から男女各 1 体ずつと判断され、男性を No.1、女性を No.2 として個体を識別した。主要な四肢骨なども骨端や骨体の長さに明確な大小差が認められることから分類は容易であるが、椎骨や指骨などサイズでの判断が困難な部位については一括した。

No.1 とした頭蓋骨は眉弓・乳様突起の発達に加え外後頭隆起の発達が非常に強く、第 1・2 大白歯の咬耗が比較的進行していることから成年後半から熟年前半程度の年齢段階ではないかと推定される。四肢骨の長さや骨端サイズは本地区の中でも大きな値を示すが、大腿骨の骨体長幅値などや粗面などの発達はそれ程強くない印象である。右鎖骨の肋鎖靭帯圧痕部が陥没して大きく凹んでおり骨髓炎の発症が疑われる。

No.2 は No.1 に比べて骨の残存状況が悪く、同定は可能であるが完存している部位はほとんど見られない。下顎骨が断片的に残存しており、歯槽がほぼすべて閉鎖しているとみられることから老年女性であると考えられる。冠状縫合は癒合が進行しているが、矢状・ラムダ縫合はほぼ未癒合である。本個体は腰椎及び下肢骨の一部に変形が認められる。右大腿骨の骨体上部背面側の筋粗面が炎症によるものと思しき骨増殖、右脛骨のヒラメ筋線部に陥没が観察された。また、腰椎のうち 2 点の椎体が板状に退縮しており、他 2 点の腰椎にも変異が認められる。腰椎の変形としては本地区出土資料中で最も著しく、腰から下肢にかけて生活に支障をきたす程度の症状が生じていたのではないかと想像される。

また、いずれの個体に属するか判断保留とした頸椎にも変形性関節症とみられる骨棘形成が認められた。

024 号墓—蔵骨器 3—No.1

成人 1 体分の全身部位が概ね残存している。四肢骨は全体的に華奢で小柄な印象であるとともに、寛骨形状から女性と判断できる。冠状・矢状・ラムダ縫合いずれも未癒合であるが、下顎歯槽の殆どが閉鎖済であることから老年と推定した。肋骨の内の一変形が見られ、肋骨体に複数の孔が開いている様子が観察される。その他、腰椎 2 点の腹縁に若干の変形、寛骨に前耳状溝が観察される点が特記事項として挙げられる。

024 号墓—蔵骨器 4—No.1

未成人骨 1 体が検出された蔵骨器である。完存する部位は少ないものの、概ね全身の部位が同定されている。頭蓋骨は顔面部が欠損しているが、上顎・下顎は形状を有しており、乳歯の萌出状況（第 1 乳切歯～第 1 乳臼歯萌出済、第 2 乳臼歯・第 1 大臼歯未萌出）から幼児（1～2 歳）段階と推定される。萌出済の上顎歯のほとんどには齶触が見られるが、下顎歯には観察されない。大泉門は未癒合で、前頭縫合の痕跡もいくらか残存する。

027 号墓—蔵骨器 1—No.1

頭蓋骨を含む全身の骨が形状を保って残存している様子が確認できる。椎体関節面・肩甲骨内側縁・上腕骨近位端・寛骨腸骨稜・大腿骨遠位端などが未癒合である点や、第 1・2 大臼歯がほとんど未咬耗である点などから若年段階の個体であることが窺える。また、寛骨形状や四肢骨サイズなどから男性と推定される。上顎には歯槽性突顎が、また、上下残存歯の全てにエナメル質減形成が認められる。

全体的には骨の残存状況などは良好であるにもかかわらず、前頭骨及び頭頂骨の表面に著しい凹凸不整が見受けられ、また、眉間や前頭骨に星芒状癩痕と思しき凹みが見られることから梅毒性の病変による変異の可能性が疑われる。

27 号墓—蔵骨器 3—No.1・No.2

主に遊離歯の歯冠が残存しているのみで、それ以外はほぼ細片となっており分析不能である。遊離歯は大半が未萌出ないし萌出中と見られる永久歯で、上顎中切歯や第 1 大臼歯などが重複することから、本蔵骨器には未成人 2 体分が含まれていたものと思われ、歯冠形成の状態から No.1・No.2 として識別した。No.1 は上顎中切歯と上下第 1 大臼歯の歯冠先端のみが残存し、それ以下は未形成であることから乳幼児段階であると考えられる。一方で No.2 とした一群の遊離歯は切歯および第 1 大臼歯が萌出中ないし萌出直後、小臼歯および第 2 大臼歯が歯根未形成であることから、幼児ないし小児段階であろうと考えられる。なお、上腕骨・橈骨・指骨が断片的に同定されたが、これはサイズ・発達から No.1 に属すると判断される。

027 号墓—蔵骨器 4—No.1・No.2

部位重複から最低成人 2 体分が含まれていることが窺えるが、残存状態が明らかに異なることから、蔵骨器内に納骨されていた期間の差を反映するものであると考えられる。そのため残存状態の比較的良好な一群を No.1、劣化の著しい一群を No.2 として個体を識別した。No.2 が当初納骨されていた本蔵骨器に、No.1 が追葬された状況が推測される。

No.1 は頭蓋骨をはじめ、主要な部位骨がある程度形状を保って残存している。寛骨の形状および前耳状溝が認められたことから女性であると判断され、頭蓋骨形状や四肢骨サイズなども概ねこれを追認する。右の脛骨のヒラメ筋線が比較的強い発達を見せる点が注視される他、腰椎に強度の骨棘が形成されていることから重度の関節症を患っていたことを窺わせる。

No.2 は表面の風化が激しく進行しており、一部の四肢骨の骨体がかろうじて残存している状態である。形質的な詳細は不明で、僅かに No.1 と別個体である点・サイズから男性ではないかと推測できるのみが窺うことができる。

本蔵骨器の蓋には「かん豊三年」に「死去」した「新垣にや」が納骨されたことと、「光緒二十年」に「妻喜名加那」を「入れ合さした」事が記載されており、上記の人骨観察の所見と一致するものと

見られる。

027 号墓—蔵骨器 8—No.1・No.2

残存状況はそれ程良くないものの、部位重複により成人2体分が含まれると推定される。重複していた部位の内、尺骨・大腿骨・脛骨にサイズ差が認められた。そのため大きなサイズの一群をNo.1として成人男性、小さなサイズの一群をNo.2として成人女性へ識別した。また、頭蓋骨は乳様突起の発達から女性と推測されたためNo.2に含め、これに伴う下顎骨の歯槽が閉鎖していることから老年段階とした。

027 号墓—蔵骨器 9—No.1

成人1体分の全身骨が概ね形状を保って出土している。寛骨の形状からは女性と判断され、下顎骨の歯槽の大半が閉鎖済である点などから老年段階であると推定される。腰椎の1点には変形性関節症と思われる骨棘形成が確認されており、本個体が老年であることを考慮すれば加齢を一つの要因とする変形である可能性が窺える。また、寛骨には前耳状溝が観察でき、本地区の他事例に比べると中程度の幅・深さであると言える。

027 号墓—蔵骨器 10—No.1

未成人骨1体分が検出された蔵骨器である。未癒合の骨端部などを除けば概ね全身の部位が形状を保って残存している。頭蓋は顔面部が破損しているものの、上下の顎骨が残存しており、第1大臼歯が未萌出であることから小児(4~5歳)段階であると推定される。また、萌出済の歯の大半が齶触が見られる点が注視される。なお、この蔵骨器の蓋には「長男亀死亡時7才」と記載されており、数年であるとすれば、形態観察の所見とも矛盾はしないと考えられる。

027 号墓—一次葬—No.1・No.2

027号墓のシルヒラシからは2体の一次葬人骨が概ね原位置を保った状態で検出された。この内、シルヒラシ中央に安置されていた一群をNo.2、右隅に置かれていた一群をNo.1として取り上げており、このまとまりがそれぞれの個体ごとであると判断し、個体識別とした。

No.1は脳頭蓋こそ残存しているものの、顔面頭蓋は破片となり上顎・下顎が一部残存するのみである。その他の部位も、椎骨・鎖骨・上腕骨・橈骨などが一部出土している以外は、残存していない。眉弓・乳様突起・外後頭隆起が強く発達することから男性、上顎と下顎の歯槽の大半が閉鎖済であることから老年段階と判断される。左の鎖骨骨体に骨増殖が見られ、その形状から骨折治癒痕ではないかと推察される。

No.2はほぼ全身の部位が形状を保って検出された。上下の顎骨とも全ての歯槽が閉鎖していることから老年段階と判断される。寛骨及び四肢骨骨端サイズなどをみると女性であると考えられるが、頭蓋形態の眉弓や乳様突起の発達が強いことから検討を要する。右の尺骨の肘頭に棘状の突起が見られることから、関節症を疑わせるが、上腕骨遠位端に明瞭な痕跡は見られない。その他、頸椎・胸椎・腰椎の椎体腹縁に骨棘形成が見られ、特に腰椎のものが顕著に発達している。

045 号墓—蔵骨器 1—No.1

本蔵骨器のみが検出されている遺構で、未成人骨1体分が出土している。頭蓋骨は概ね残存しており、主要な四肢骨も骨体を中心に部位同定可能であったが、手根骨・足根骨・指骨などは確認することが出来なかった。第1大臼歯や切歯が萌出完了しないし萌出中であるとみられることから、小児(7~8歳)段階程度と推定できる。

046 号墓—蔵骨器 1—No.1

主要な四肢骨が部分的に残存して出土しており、同定部位に重複が無いことから 1 体分と考えられる。大腿骨近位端や腓骨遠位端は癒合済みである一方、腸骨稜は未癒合・下顎第 3 大臼歯が萌出済未咬耗・第 1 および 2 大臼歯の咬耗がやや進行していることなどから、若年後半から成年前半段階の年齢が想定される。

047 号墓—蔵骨器 1—No.1・No.2

全身の部位が同定されるものの、欠損資料が多く完存する部位はほとんど見られない。寛骨形状からは男性と判断する事ができるが、眉弓や外後頭隆起の発達はやや弱い。四肢骨の筋粗面や粗線などの発達はそれ程強くないものの、骨体径の値は大きい。男性であっても骨体径がそれ程女性と変わらない個体が多い中で、本個体は珍しい例であると思われる。また、ブregma周辺が平坦かやや窪んでいる様子が観察される。

なお、本蔵骨器に含まれていたもので左尺骨が部位重複していたが、全体的な形態等の検討から、この尺骨以外は同一個体である可能性が高いと思われた。そのため、同一個体では無いと考えられる 1 点を別個体として No.2 とした。ただし、紛れ込みである可能性も否定できない。

047 号墓—蔵骨器 2—No.1

ほぼ全身の部位が完存する成人骨が 1 体分検出されている。寛骨形状から男性と判断されるが、頭蓋骨の眉弓や外後頭隆起などの発達は本地区の他の男性と比較するとやや弱い。大臼歯の咬耗が進行していることから熟年段階と推定される。下顎の第 3 大臼歯は萌出済であるが、上顎には見られないことから未萌出ないし萌出後の歯槽閉鎖いずれかの状態である。その他、下顎の小臼歯から大臼歯類側面の歯根部に齶蝕が集中している点が注視される。

047 号墓—蔵骨器 3—No.1・No.2・No.3

部位同定の結果成人 2 体、未成人 1 体の骨が含まれていることが確認された。成人骨 2 体は頭蓋骨が完存しており、四肢骨も概ね全身の部位が認められた。成人 2 体の主要部位には明瞭なサイズ差が見て取れることから個体識別は容易で No.1・No.2 とそれぞれ分類し、未成人骨を No.3 とした。

No.1 は寛骨が完存していることから男性の形態であると判断される。頭蓋骨の眉弓や乳様突起の発達強度や、四肢骨についても骨端サイズや骨体径が大きいことから窺える。上下合わせて約半分の歯槽が閉鎖していることから老年段階とした。本個体の特徴として大腿骨の骨体上部の横径や殿筋粗面の発達が強い点や頭蓋上面観や頭蓋底の左右非対称性などが挙げられる。

No.2 は女性と推定される。寛骨が完存していないものの、頭蓋骨形状などとも併せて推察している。No.1 に比べて四肢骨の残存状態がやや不良である様子が見て取れる。頭蓋骨に形質変異が観察され、矢状縫合が周辺に比べて凹んでいるとともに、1 mm 以下の小孔が頭頂骨から後頭骨にかけて多数認められる。また、矢状・ラムダ縫合が全くの未癒合である中、左の冠状縫合の癒合が進行していることから、冠状縫合早期癒合症及びそれに伴う障害を発現している可能性が窺われる。その他、第 5 中足骨近位端に変形が見られる。また成人いずれかの頸椎突起関節面にも関節症と思しき痕跡が窺える。

No.3 は未成人骨であるが、上顎骨や下顎骨・大腿骨など一部の部位が断片的に残存するのみである。下顎歯の萌出状況を見ると乳歯が萌出を完了しており、遊離歯となっている永久歯はいずれも歯根が未形成であることから、幼児段階であると判断できる。

047 号墓—蔵骨器 4—No.1・No.2

成人 1 体分の全身骨と未成人骨が部分的に残存しており、成人をNo.1、未成人をNo.2 として個体を識別した。No.1 は寛骨形状から女性であると判断できる。四肢骨等には取り立てて変異は見当たらないものの、頭蓋骨にいくらかの変異が見受けられる。頭頂骨や側頭骨が一部欠損しているが、全体形の歪みや頭頂骨の扁平化、頭頂骨～後頭骨にかけて微細な孔が散布している点などが注視される。

No.2 は極断片的に残存しているのみであるため詳細を窺うことは難しい。ただし、萌出済の乳切歯及び乳臼歯が遊離歯として出土していることから幼児から小児の年齢段階であったことが推定できる。

048 号墓—蔵骨器 2—No.1

全身骨がほぼ完形で残存しているものの、頭蓋骨のみが大きく欠損しており、側頭骨・上顎骨・下顎骨などが部分的に残存している状態である。寛骨形状から男性と判断され、顎骨の歯槽閉鎖の状態から老年段階であろうと推定される。しかしながら、第 1 仙椎と第 2 仙椎の椎体同士が未癒合である点やラムダ縫合が全くの未癒合である点などが注視される。また、突起に異常のある腰椎が 1 点見られる。突起全体が上関節突起と下関節突起の中央付近で剥離し二つに分かれた状態となっている。同時に椎体腹縁にも骨増殖の形跡が見受けられる。

048 号墓—蔵骨器 3—No.1

骨のほとんどが細片となっており、一部の部位が半分程度の形状を保って残存している一群である。腸骨に前耳状溝が観察された点、上腕骨・橈骨・尺骨の骨端サイズなどから女性であると推定できる。骨端が癒合していることから成人であるものの、それ以上の詳細な年齢段階は推定することが難しい。

048 号墓—蔵骨器 4—No.1

距骨などのごく一部の部位がかろうじて同定されたものの、部位不明の破片が少量残るのみである。

048 号墓—蔵骨器 5—No.1

基本的に全身の部位が残存しているが、完存しているものは少なく、特に長管骨や扁平骨で骨端などを残すものは少ない。頭蓋骨も顔面部は破損して細片となっており、接合不能であった。それでも残存している内の、寛骨形状や前頭骨・後頭骨の発達形状などからは成人男性の特徴が窺える。残存歯を観察すると大臼歯を中心に歯槽閉鎖が進行しており、残存歯の咬耗も比較的進行している事を鑑みると、老年段階と推定される。頭蓋骨の縫合は、内側は全て癒合済であるのに対し、外側の冠状縫合が癒合進行中で、矢状・ラムダ縫合は明瞭に残存したままの状態である。腰椎には変形性関節症の痕跡と考えられる骨棘形成が観察されるが、他の例に比べるとその程度は比較的小さく、形成初期段階とみられる。

048 号墓—蔵骨器 6—No.1

頭蓋骨は残存しておらず、主要四肢骨がある程度形状を留めている状況の蔵骨器である。破片ながら腸骨に前耳状溝が認められることから女性と判断され、四肢骨も比較的華奢なサイズであることから 1 体分のまとまりと考えられる。上顎歯槽の半分程度が閉鎖していることから老年段階と推定した。本個体には左の脛骨および腓骨に重度の変形が観察された。脛骨は残存している骨体全体が膨張しており表面にも小孔や筋状の溝が集中する。腓骨も近位端近くの骨体は変化がないが、遠位端に近づく程に脛骨同様の変形が激しくなる。一方で、大腿骨や膝蓋骨、右の脛骨・腓骨、距骨・踵骨・その他足根骨に特に変異は見られない。

049 号墓—蔵骨器 1—No.1・No.2

成人の頭蓋骨及び主要四肢骨、未成人頭蓋骨の一部が同定されており、前者をNo.1・後者をNo.2とした。No.1の頭蓋は顔面部が欠質しているが下顎骨は概ね残存しており、残存歯の咬耗から成年段階と推定される。殆どの骨が欠損資料であるものの、寛骨は女性の形状を呈する事が読み取れる。

No.2は前頭骨・頭頂骨を中心とした頭蓋骨の破片が数点出土するのみであるため、詳細を窺うことは難しいが、他の未成人骨と比較すると幼児段階程度ではないかと推測される。眼窩上面に小範囲のクリブラオルビタリアが生じている点、前頭縫合が部分的に残存している点などが特記される。

049 号墓—蔵骨器 2—No.1・No.2

未成人骨の全身骨が出土している蔵骨器である。基本的には頭蓋骨を始めとした1体分の各部位で構成されるが、頭頂骨・側頭骨および脳頭蓋の破片が重複して同定された。厚みや側頭骨形状から両者の年齢段階は明瞭に異なる事が見て取れ、年上の個体をNo.1、年下で頭蓋破片のみ出土した個体をNo.2として識別した。No.1は上下顎骨の永久歯が第2大臼歯まで萌出を完了しており、第3大臼歯が萌出直前段階である点や、四肢骨の骨端がほぼ全て未癒合であることなどから小児末から若年段階と推定される。クリブラオルビタリアやエナメル質減形成が殆どの永久歯に観察されるなどのストレスマーカーが観察された他、上顎犬歯が口腔内に向けて歪んで生えている点が特筆される。

No.2は頭蓋破片のみであることから詳細を窺うことは難しいが、他の未成人骨と側頭骨の形態・サイズ、頭頂骨破片の厚みなどを比較すると幼児から小児段階程度の個体ではないかと推測できる。本蔵骨器内の未成人骨はいずれもこの年齢段階の個体のサイズでは無いと判断できることから、識別が可能である。

049 号墓—蔵骨器 3—No.1・No.2・No.3

本蔵骨器には成人2体・未成人1体が含まれていることが窺える。成人は寛骨の形状から男女各1体ずつであると判断される。主要な四肢骨は明瞭に骨長・骨端サイズの差が認められ、大きなものを男性、小さなものを女性として識別した。頭蓋骨は破損が激しいことから判断に迷うが、単体で残存する前頭骨は眉弓の発達から男性とし、このことから前頭骨～後頭骨にかけて残存する破片は女性と推測される。男性をNo.1、女性をNo.2として識別の上、一覧表には記載した。男性の下顎骨の左下顎体内側に短軸7mm・長軸10mm程の凹みが形成される一方、女性の右鎖骨肋鎖靭帯圧痕に強度の発達が見受けられた。両者の年齢段階は共に下顎残存歯の咬耗から判断している。ただし、No.2は第3大臼歯まで程度咬耗が進行しているため成年段階後半と推定され、矢状・ラムダ縫合は極めて明瞭に残存している。No.1も成年段階と推定されるが、No.2と比較すると咬耗度は浅いと言える。

No.3は上腕骨・尺骨・大腿骨・脛骨で構成される未成人である。僅かな部位が残存するのみであることから詳細を窺うことは難しいが、年齢段階推定可能な未成人骨と上記部位の比較をすると、概ね乳児段階ではないかと推定される。

057 号墓—一次葬—No.1

シルヒランに頭位を北西に向け、屈葬の状態で検出された成人骨である。寛骨および前頭骨・側頭骨の形態から男性であると判断される。上顎の一部と下顎骨が残存しており、歯の大半が脱落し、歯槽閉鎖が進行していること、冠状縫合・矢状縫合の一部が癒合していることなどから熟年から老年段階であると思われる。頸椎・胸椎・腰椎の一部にそれぞれ変形性関節症と見られる骨棘形成が観察さ

れ、腰椎が最も顕著で、胸椎は比較的軽度である。その他、脛骨のヒラメ筋線に強度の発達が見られる。

057 号墓—蔵骨器 1—No.1・No.2

成人及び未成人骨各 1 体分が検出されており、成人をNo.1、未成人をNo.2 として類別した。No.1 は寛骨の形状から女性と判断される。冠状縫合が癒合済であり、矢状・ラムダ縫合も癒合中であるが、歯の咬耗はそれ程進行しておらず、年齢段階の判断が難しい。ただし、左の $M^1 \cdot M_1$ の咬耗は激しく進行しており、噛み合わせも不良である。また、腰椎の 1 点に骨棘形成と椎体退縮が観察された。

No.2 は肩甲骨・上腕骨・尺骨・腸骨・大腿骨・脛骨が未癒合の骨端を除いて概ね完存しており、頭蓋骨は破片となっているものの、左の下顎骨が残存していた。歯は残存していないが、歯槽の状態から乳歯がいずれも未萌出段階にあると見られることから、乳児（1 歳未満）段階と推定される。

057 号墓—蔵骨器 2—No.1・No.2

成人と未成人の各 1 体分ずつと考えられる部位骨が同定されており、年齢差が明確であることから両者の分類が可能である。

No.1 は全身の部位が良好な状態で残存する成人骨である。寛骨の形状および前耳状溝が観察されることから女性であると判断され、頭蓋骨の形状・四肢骨のサイズからも同様の所見が得られる。縫合の癒合進行および上下大臼歯の歯槽が閉鎖していることから熟年から老年段階と推定される。

No.2 は比較的成長の進んだ未成人で、骨端や椎体関節面が未癒合の四肢骨や椎骨が良好な状態で残存している。顔面頭蓋は部分的に破損しているが、概ね頭蓋骨も残存しており、それ程密度が濃いものではないがクリブラオルビタリア・クリブラクラニイが前頭骨及び頭頂・後頭骨に認められる。下顎の残存歯には萌出中の歯を含めエナメル質減形成が認められる他、右の第 1 大臼歯が上下ともに咬合面にエナメルを除く歯冠の大部分を浸食されるほどの重度の齶触が観察されている。第 2 大臼歯が萌出開始直前であることなどから小児（9～10 歳程度の）段階ではないかと推定される。

057 号墓—蔵骨器 3—No.1

頭蓋骨を含め主要な部位の骨は四肢骨の骨端を除き、ほぼ完存している未成人骨である。乳切歯の萌出が完了し、乳臼歯が未萌出ないし萌出直前であることから概ね乳幼児（1～2 歳）段階であると思われる。前頭縫合および大泉門が未癒合である点とも合致する。また、左の頬骨外側面が網目状の表面形状を呈している。

057 号墓—蔵骨器 4—No.1

頭蓋骨を含め主要な部位の骨が、四肢骨の骨端を除き同定されている未成人骨である。第 1 乳臼歯までが萌出を完了しており第 2 乳臼歯が萌出中であることから、幼児（3～4 歳）段階であると考えられる。前頭骨及び頭頂骨の右半を中心に小孔が散見され、右頭頂骨のラムダ縫合付近ではクリブラクラニイが発現している。

057 号墓—蔵骨器 5—No.1

頭蓋骨及び主要四肢骨がある程度形状を留めている一方、細片となり部位同定不能な資料も多いが、未成人骨 1 体分が含まれていることが窺える。顔面部の大半は欠損しているが、下顎骨歯列が残存しており、乳歯が概ね萌出完了・第 1 大臼歯が歯根未形成の未萌出状態であることから、小児（3～4 歳）段階ではないかと推定される。眉弓近くで前頭縫合がわずかに残存する。四肢骨等に大きな変異等は

見当たらないが、乳歯の齲蝕が激しい点が注視される。

057号墓—蔵骨器6—No.1

頭蓋骨を含め主要な部位骨が概ね残存している未成人骨である。下顎第2乳臼歯残存・第1大臼歯萌出完了・第2大臼歯未萌出・上顎乳犬歯及び第2乳臼歯残存・第2大臼歯未萌出の各歯の状態から、小児（9～10歳前後）程度ではないかと推定される。クリブラオルビタリア・クリブラクラニイが比較的密に発現していることに加え、萌出済の永久歯にエナメル質減形成が認められることから、発達に際してかなりのストレスを受容していたことが窺える。また、残存歯の大半が齲蝕に冒されており、殊に第1大臼歯が既に歯冠の大部分を失っているなど、重篤な症状を呈している。この他、胸椎椎体腹面に溝状の凹み・右第1基節骨の骨体に孔が貫通するなどの形質異常が観察された。

057号墓—蔵骨器7—No.1・No.2

この蔵骨器からは成人の全身がほぼ完存ないしそれに近い状態の骨が2体分検出された。頭蓋骨も2体分が確認されたものの、そのうちの1つは細片となっており下顎のみが形状を保った状態であった。頭蓋骨と寛骨の形状などから男女各1体分であることが想定され、その他の部位にも比較的明瞭なサイズ差が認識される。頭蓋がほぼ完存し大きなサイズの四肢骨を持つ一群を男性と推定しNo.1、小さなサイズの一部を女性としNo.2とした。No.2の四肢骨は骨端まで含めてほぼ完形であるが、No.1については骨端が概ね残存するものの端々が欠損している傾向が見てとれる。

No.1の橈骨・尺骨の遠位端、中手骨の近位端には骨増殖による著しい変形が認められ、手根骨同士は癒合し一つのブロック状を呈していることから、左右の手首に重度の関節症を患っていたものと思われる。その他、No.1の下顎角が強度に発達していることが特記事項として挙げられる。一方、No.2についても右の寛骨臼及び大腿骨頭に骨増殖が認められることに加え、脛骨・腓骨の遠位関節面及び距骨上面にも骨増殖による変形が生じていることから、右脚に重度の負荷をかける要因を有していたと見られる。

また、個体識別はできなかったものの、椎骨のうち数点に変形性関節症と見られる骨棘形成が見受けられた。

057号墓—蔵骨器8—No.1・No.2

蔵骨器8から出土した人骨中からは通常通り洗骨後に納骨されたものに加え、被熱・変形している火葬骨が含まれていることが確認された。細片となっているものの、頭蓋骨や椎骨の一部などが同定可能であり、その結果両者が別個体であることが窺えた。前者をNo.1、後者をNo.2として個体識別している。

No.1はほぼ全身骨が残存している成人である。寛骨及び頭蓋骨の形状から男性と判断され、四肢骨のサイズなどからも窺うことが出来る。鎖骨の骨端が未癒合であること、大臼歯の咬耗がそれ程進行していないことから成年段階ではないかと思われる。また、下顎角が強度に発達している。

No.2は前述の通り火葬骨であるため、全体が収縮した破片となっており形態的に詳細を窺うことが難しいが断片的に残存する部位から成人であることが窺える。057号墓から出土した蓋（第79図284）に書かれた銘書の一つに、「火葬ス朝雍妻マカト」との記載があり本個体を示すものと考えられることから、No.2は女性と推察した。

057号墓—蔵骨器9—No.1

頭蓋骨を含め全身の部位が概ね完形で残存している未成人骨である。ただし、四肢骨等の骨端は全て未癒合であるため、脱落した端部の一部は失われている。上下の顎骨ともに乳歯は全て萌出を完了しており、中切歯・側切歯・第1大臼歯などが未萌出で歯槽内に残存している様子が観察できることから幼児段階（4～5歳）と判断される。眼窩上孔にはクリブラオルビタリアが発現しており、左眼窩に見られる小孔の密度が右に比べてやや高い。上腕骨近位端側の骨体後面に突起状の飛び出しが見られる。

その他

上記に述べてきた出土資料以外にも蔵骨器内に人骨が断片的に残存するものが確認されているが、残存状況が極めて悪く、骨体の一部ないしほぼ全てが細片となっている資料であることから、紙幅の都合上もあり一覧表への記載に留め、本項への記載の対象外とした。可能な限りの部位同定の結果は第72～78表に記載したが、年齢・性別判定についてはほぼ骨体サイズからの推測であるため、詳細な観察のできた一群に比べ、精度が落ちている可能性のある点はご了承ください。

また、人骨の出土地点が埋土中のみである036号墓・039号墓・042号墓・049号墓・050号墓については、個体識別は行わず、資料を全て一括で取り扱い最小個体数を算出するのみに留めた。

第3節 人骨に見られる形態変異

（1）エナメル質減形成

上下顎骨の残存歯ないし遊離歯を観察していると、歯冠表面にエナメル質減形成が頻繁に認められる。その形状は基本的に「線状」に分類される（1976山本）ものが主体を成しており、一つの歯について複数の減形成がみられる例が多い。

（2）齲歯

多くの個体に永久歯・乳歯などの歯種を問わず様々な程度の齲蝕が観察される。出現頻度の差はあれども咬合面・唇側・頬側・舌側・近心・遠心面のいずれにも事例が見受けられ、歯冠あるいは歯根上部のいずれかを浸食する傾向が窺われる。また、歯冠に1mm以下の小孔が穿たれるものから、歯冠がほぼ全て消失するもの、歯根上部が半分以上浸食されるものなど重傷化している個体も珍しくない。同一歯種に対して複数面に齲蝕が存在している場合や、残存している歯の半分近くが罹患している個体もある。また、027-4-1や027-10-1・057-5-1・057-6-1・057-9-1などの小児では乳切歯や乳臼歯に重度の齲蝕が観察され、萌出直後と思しき大臼歯にも影響が及んでいる。

これらの齲蝕の状況から考えると、歯髄や神経を浸食していると思われることから相当の歯痛を自覚していたであろう事が窺われるものの、これらに対する処置を行っていた様子は認められない。

(3) 変形性関節症

本地区の人骨に見られる形態変異の中で最多の観察数を示す症状である。主に四肢骨関節面・指骨関節面・椎骨などの関節面の縁辺や椎体腹縁に、関節の炎症に起因して骨棘が形成されるものとされる。特に腰椎の椎体腹縁への観察数が最多であり、その程度は椎体腹縁に僅かに骨増殖が認められるものから、大きく飛び出す棘を形成するものまで多様である。全体的に俯瞰すると比較的高齢の個体ほど骨増殖が進行しており、また、その部位も腰椎に集中する傾向が認められることから、突発的な疾病に起因するというよりは、加齢に伴う症状が主な要因であろうと思われる。

一方で、椎骨以外の部位に関節症と思しき変異が認められるものについては、加齢以外の要因ではないかと考えられる事例が観察される。057-7-1では橈骨および尺骨遠位端および第3・4中手骨近位端に骨増殖が見られることに加え、左右の手根骨が互いに癒合している状態であった。熟年から老年段階の年齢にあると推定される個体であることものの、加齢を一つの要素と考えられる可能性もあるが、手首に重度の疾病を抱えていた可能性が高いのではないかとと思われる。

(4) 前耳状溝

寛骨が形状を残している女性の個体について、12例の前耳状溝が観察されている。その程度は様々であり、極めて明瞭な痕跡を持つものから、微弱に溝状の痕跡を呈するものまで個別に異なる形態を呈しており、長さ・幅・深さが相関的に増大するわけではない様子が見てとれる。一般的に妊娠痕であると解され、強度のものほど回数が多さを反映しているとすれば、多様な強度の前耳状溝が出現していることは、出産の多寡が様々な状況であったことが示唆される。

(5) クリブラオルビタリア・クリブラクラニイ

049-1-2・049-2-1・057-6-1の人骨にはそれぞれ眼窩孔の上部に小孔群が密集するクリブラオルビタリアの形成が観察された。また、057-4-1および057-6-1には後頭骨に同様の小孔群が観察されるクリブラクラニイの症状が認められる。このうち、049-2-1と057-6-1に表出されるものが比較的密度の高い小孔群を生じている。これらは一般的に栄養の欠乏によるものと解釈され、当該個体がいずれも未成人骨であることから、成長過程に際して障害を生じていたものと思われる。

栄養不足による発達形成不全には前述のエナメル質減形成による分析も挙げられるが、エナメル質減形成の出現率に比べると、同じ栄養障害に起因する本変異の観察数は微少であると言えよう。両者には直接的な関連はなく、クリブラオルビタリアなどは栄養状態の改善で消失するなどとされることから、本地区の被葬者集団は、未成年期にはおしなべて栄養不足の状態に陥っているものの、青年期以降は回復する生活様態が構築されていたものと考えられる。

第4節 まとめ

今回の調査区から出土した人骨は残存状態の良好な資料が多く、基礎データや観察所見など様々な情報を得ることが出来た。ただ、時間等の都合上、本稿では基礎的情報の提示のみに留まらざるをえ

なかったが、形質人類学等のより専門的な知見の下でより詳細な分析をしていくことで、前田・経塚近世墓群における被葬者集団や葬送儀礼の実態について、言及してゆくことが可能であろうと思われる。

<引用・参考文献>

- 浦添市教育委員会 2011『前田・経塚近世墓群2 首里大名地区—那覇広域都市計画道路事業3・3・16号国際センター線に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』浦添市文化財調査研究報告書
- 浦添市教育委員会 2012『前田・経塚近世墓群3 前田真知堂B丘陵(1)・前田真知堂C丘陵(1)—都市計画街路国際センター線及び沢岬石嶺線工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』
- 江藤盛治編 1991『人体計測法2』人類学講座別巻1 雄山閣
- 小橋川剛ほか 2009「沖縄県読谷村大当原貝塚出土人骨について」『沖縄埋文研究』紀要6 沖縄県立埋蔵文化財センター
- 谷畑美帆・鈴木隆雄 2004『考古学のための古人骨調査マニュアル』学生社
- 土肥直美・北條真子 1998「那覇市銘苺古墓群(B・E)地区出土の人骨」『銘苺古墓群(Ⅰ)—那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告V一』那覇市教育委員会 那覇市文化財調査報告書第39集
- 土肥直美・譜久嶺忠彦 1999「那覇市銘苺古墓群南(A・C・D)地区出土の人骨」『銘苺古墓群(Ⅱ)—那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告VI一』那覇市教育委員会 那覇市文化財調査報告書第40集
- 徳嶺里江ほか 2009「沖縄県座間味村古座間味原シル地区砂丘地出土人骨について」『沖縄埋文研究』紀要6 沖縄県立埋蔵文化財センター
- 譜久嶺忠彦・土肥直美・石田肇 2000「那覇市ナーチャー毛古墓群出土の人骨」『那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告VII一』那覇市教育委員会 那覇市文化財調査報告書第44集
- 譜久嶺忠彦・土肥直美・石田肇・瑞慶覧朝盛・泉水奏・佐宗亜衣子・比嘉貴子 2001「ヤッチのガマ・カンジン原古墓群出土の人骨」『ヤッチのガマ・カンジン原古墓群—県営かんがい排水事業(カンジン地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書一』沖縄県立埋蔵文化財センター
- 藤田尚編 2013『古病理学事典』同成社
- 山本美代子 1988「日本古人骨永久歯のエナメル質減形成」『人類学雑誌』96 日本人類学会
- Knussman, R 1988 *Martin/Knussman Anthropologie*. Band1, Stuttgart, Gustav Fischer Verlag
- I. W. Cornwall 1964 *Bones for the Archaeologist*. Phoenix House LTD
- D. R. Brothwell 1981 *Digging up Bones*. Cornell University Press

第72表 人骨一覽表1

墓 No.	藏骨器 No.	人骨 No.	年齡	性別	同定部位
1	1	1	乳兒	不明	頭蓋骨、下顎骨、椎骨破片、肋骨破片、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨R、尺骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L、遊離齒
1	2	1	幼兒	不明	頭蓋骨破片、腸骨R、大腿骨L、脛骨L、遊離齒
1	2	2	乳兒	不明	頭蓋骨破片、上腕骨L、遊離齒
1	4	1	成人	—	大腿骨L·R
1	4	2	成人	—	大腿骨L
1	4	一括	—	—	前頭骨、軸椎破片、鎖骨R、上腕骨L·R、橈骨L·R、有鈎骨R、基節骨、腸骨R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨R、距骨L(2)·R、中手/中足骨(2)
1	取上1	1	—	—	頭蓋骨破片、上腕骨破片L/R、大腿骨L·R、脛骨L·R
1	1	1	成人	F	後頭骨、舌骨、軸椎、頸椎(5)、胸椎(2)、腰椎(3)、尾椎、椎骨(2)、肋骨L(4)·R(2)、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L、大菱形骨L·R、有頭骨L、有鈎骨L、舟狀骨L·R、月狀骨L、三角骨L·R、豆狀骨L·R、第1中手骨R、第2中手骨R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(7)、中節骨(6)、末節骨(5)、寬骨L·R、大腿骨、膝蓋骨、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、外側楔狀骨R、中間楔狀骨L·R、內側楔狀骨L、立方骨L·R、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L、第5中足骨L·R、第1基節骨L、基節骨(5)、中節骨(3)、末節骨(5)
2	一次葬	1	熟年 ~老年	F	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(4)、胸椎(9)、腰椎(5)、仙椎、椎骨(2)、胸骨體、肋骨L(9)·R(11)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、第1中手骨R、第4中手骨R、第1基節骨R、基節骨(5)、中節骨(2)、末節骨、腸骨+坐骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、內側楔狀骨R、立方骨R、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L·R、第5中足骨L·R、末節骨
2	埋土中	一括	—	—	肋骨破片、有頭骨L、第3中手骨L、基節骨(3)、中節骨、遊離齒
4	1	1	成人	—	大腿骨R、脛骨R、腓骨L/R、遊離齒
4	2	1	—	—	大腿骨L·R
4	2	2	—	—	大腿骨L
4	2	一括	—	—	側頭骨R、上顎骨R、頰骨L、下顎骨、肋骨L(2)·R、肩甲骨L·R、上腕骨R、橈骨R、尺骨L、大菱形骨L、小菱形骨L、有頭骨L·R、有鈎骨R、月狀骨L、第2中手骨L、第3中手骨L、腸骨L、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L、踵骨L、距骨L·R、中間楔狀骨R、第1中足骨R、第3中足骨L、第4中足骨R、第1基節骨R、遊離齒
4	3	1	成人	—	大腿骨L、遊離齒
4	4	1	成人	—	頭蓋骨破片、遊離齒
4	5	1	—	—	椎骨(2)、大腿骨L·R、脛骨L·R、遊離齒
8	一次葬	1	老年	M	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(2)、胸椎(3)、仙椎破片、椎骨、肋骨L(2)·R(6)、肩甲骨L·R、鎖骨、上腕骨L·R、橈骨、尺骨L·R、大菱形骨L·R、有頭骨L·R、有鈎骨L·R、舟狀骨L·R、月狀骨L·R、豆狀骨R、第1中手骨L·R、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨L·R、第1基節骨R、基節骨(6)、中節骨、末節骨、腸骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、外側楔狀骨L·R、中間楔狀骨L·R、內側楔狀骨L·R、立方骨L·R、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L·R、第5中足骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(4)、中節骨、末節骨
8	1	1	成人	F	頭蓋骨破片、側頭骨L·R、仙椎、椎骨、胸骨體、肋骨L·R(3)、肩甲骨L、鎖骨R、上腕骨L·R、橈骨L、尺骨L·R、小菱形骨L、豆狀骨L·R、第2中手骨R、第1基節骨R、基節骨(3)、中節骨(5)、末節骨、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、距骨L·R、舟狀骨R、第1中足骨R、第2中足骨L、第5中足骨R、基節骨(3)、末節骨
8	埋土中	一括	—	—	頰骨L、頭蓋骨破片、肋骨破片、肩甲骨L、橈骨L/R
9	1	1	老年	—	下顎骨
9	1	2	老年	—	下顎骨
9	1	3	乳幼兒	不明	下顎骨L、鎖骨L·R、遊離齒
9	1	一括	—	—	前頭骨破片、側頭骨破片、後頭骨破片、軸椎、上腕骨L(2)·R(2)、橈骨L(2)·R、尺骨L·R、寬骨破片L/R、側頭骨R、下顎骨、上腕骨L·R、尺骨R、寬骨L、大腿骨L·R、膝蓋骨L、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨R、距骨R、舟狀骨R、第1中足骨R、基節骨
9	2	1	—	—	側頭骨R、下顎骨、上腕骨L·R、尺骨R、寬骨L、大腿骨L·R、膝蓋骨L、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨R、距骨R、舟狀骨R、第1中足骨R、基節骨
9	2	2	—	—	大腿骨L
11	1	1	乳兒	不明	肋骨破片、上腕骨L
11	2	1	乳幼兒	不明	遊離齒
11	3	1	乳幼兒	不明	側頭骨R、下顎骨、椎骨(2)、肋骨L(2)·R、鎖骨R、寬骨L/R、大腿骨L·R、脛骨L
11	4	一括	—	—	頭蓋骨破片、舌骨、胸椎、腰椎(2)、椎骨破片、胸骨、肋骨破片、上腕骨L·R、橈骨R、尺骨L·R、基節骨(4)、中節骨(3)、末節骨(3)、中手骨(4)、寬骨L+腸骨L、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、第1中足骨L·R、基節骨(3)、遊離齒
11	5	1	老年	F	頭頂骨、側頭骨L·R、下顎骨、軸椎、肩甲骨L·R、上腕骨L·R、橈骨R、尺骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、舟狀骨L/R、第4中足骨R、第5中足骨L·R、第1基節骨R、基節骨(2)、中手/中足骨L/R(4)、指骨(2)
11	6	1	—	M	頭蓋骨破片、舌骨、椎骨(2)、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、大菱形骨L、小菱形骨L·R、有鈎骨L、舟狀骨L、第1中手骨L、基節骨(4)、中節骨(2)、第1末節骨L、末節骨(3)、寬骨L、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨R、外側楔狀骨R、中間楔狀骨L、第2中足骨L、第4中足骨R、基節骨、中節骨(2)
14	1	1	成人	不明	寬骨L·R、大腿骨L·R、距骨R
14	1	2	成人	F	寬骨L·R、大腿骨R、踵骨L·R、距骨L·R
14	1	3	幼兒	不明	頭蓋骨破片、環椎、頸椎(2)、胸椎、腰椎、仙椎(2)、椎骨(10)、胸骨、肋骨L(6)·R(3)、橈骨L、尺骨R、寬骨L·R、大腿骨L·R、踵骨L/R、指骨(13)、遊離齒
14	1	一括	—	—	側頭骨R、後頭骨L、環椎、仙骨、椎骨破片、肋骨破片、上腕骨R、橈骨L、第4中手骨L、第5中手骨L、膝蓋骨R、脛骨L·R、腓骨R、外側楔狀骨R、中間楔狀骨R、內側楔狀骨R、立方骨R、舟狀骨R、第1中足骨R、第2中足骨R、第4中足骨R、第5中足骨L、遊離齒

第73表 人骨一覽表2

墓 No.	藏骨器 No.	人骨 No.	年齡	性別	同定部位
14	2	1	熟年	M	前頭骨、側頭骨L・R、後頭骨、頰骨L、上顎骨L、軸椎、椎骨破片、肋骨L(2)・R、上腕骨L・R、尺骨L、舟狀骨L・R、第2中手骨L、第3中手骨L、第4中手骨L、第5中手骨L、基節骨(3)、大腿骨L・R、脛骨L・R、腓骨L・R、舟狀骨L、第5中足骨L、第1基節骨R
14	3	1	熟~老年	M	上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、寬骨L、大腿骨L・R、膝蓋骨L・R、脛骨L・R、踵骨L・R、距骨L・R
14	3	2	熟~老年	F	上腕骨L・R、尺骨R、大腿骨L・R、膝蓋骨L、脛骨L・R、踵骨L、距骨L・R
14	3	一括	—	—	頭蓋骨、下顎骨(2)、環椎(2)、軸椎(2)、頸椎(5)、胸椎(9)、腰椎(3)、仙骨、椎骨(2)、頰骨、肋骨L(6)・R(8)、肩甲骨L(2)・R(2)、鎖骨L(2)・R、大菱形骨L・R(2)、小菱形骨R、有頭骨R(2)、有鈎骨L(2)・R(2)、舟狀骨L(2)・R(2)、月狀骨L(2)・R、三角骨L・R、第1中手骨L・R、第2中手骨L(2)・R、第3中手骨R、第4中手骨L・R、第5中手骨L、第1基節骨L(2)・R(2)、基節骨(17)、中節骨(3)、末節骨(4)、寬骨L・R、腓骨L(2)・R(2)、外側楔狀骨L(2)・R(2)、中間楔狀骨R、內側楔狀骨L(2)・R、立方骨L(2)・R、舟狀骨L(2)・R(2)、第1中足骨L(2)・R(2)、第2中足骨L(2)・R(2)、第3中足骨L(2)・R、第4中足骨L・R、第5中足骨L・R(2)、第1基節骨L・R、基節骨(7)、中節骨、末節骨(3)、中手/中足骨、指骨(7)、遊離齒
14	4	1	老年	F	頭蓋骨、舌骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(4)、胸椎(6)、腰椎(4)、仙骨、椎骨(4)、肋骨L(3)・R(2)、肩甲骨L・R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、大菱形骨R、有頭骨L・R、舟狀骨L、月狀骨R、第1中手骨L・R、第2中手骨L・R、第3中手骨R、第4中手骨L・R、第5中手骨L、基節骨(4)、中節骨(3)、寬骨L・R、大腿骨L・R、膝蓋骨L・R、脛骨L・R、腓骨L・R、踵骨L・R、距骨L・R、外側楔狀骨L、中間楔狀骨L・R、內側楔狀骨L、立方骨R、舟狀骨L・R、第1中足骨L・R、第2中足骨L・R、第3中足骨R、第4中足骨L・R、第5中足骨L、第1基節骨L・R、基節骨(2)、末節骨、指骨(5)
14	4	2	熟年	M	頭蓋骨、下顎骨
14	5	1	老年	F	前頭骨、頭頂骨L・R、後頭骨、側頭骨L・R、頰骨L・R、下顎骨、橈骨L・R、寬骨L・R、大腿骨L・R、脛骨L・R、腓骨L・R
14	5	2	老年	M	前頭骨、頭頂骨L・R、後頭骨、下顎骨、橈骨L・R、寬骨L・R、大腿骨L・R、脛骨L・R、腓骨L・R
14	5	3	小兒	不明	頭蓋骨、下顎骨、環椎、頸椎(3)、胸椎(3)、腰椎(2)、仙骨、椎骨破片、胸骨、肋骨L(7)・R(11)、肩甲骨L・R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、第1中手骨L/R(2)、中手骨L/R(4)、寬骨L・R、大腿骨L・R、膝蓋骨R、脛骨L・R、腓骨L・R、踵骨L・R、距骨L・R、外側楔狀骨L、立方骨L・R、中足骨L/R(5)、中手/中足L/R(7)、指骨(10)
14	5	一括	—	—	上顎骨(2)、環椎、軸椎、頸椎(7)、胸椎(15)、腰椎(2)、仙骨、椎骨(5)、胸骨、肋骨L(11)・R(14)、肩甲骨L(2)・R(2)、鎖骨L(2)・R(2)、上腕骨L(2)・R(2)、橈骨L・R、尺骨L(2)・R(2)、大菱形骨L(2)・R(2)、小菱形骨R、有頭骨L(2)・R(2)、有鈎骨L・R(2)、舟狀骨L(2)・R(2)、月狀骨L・R(2)、三角骨L・R(2)、豆狀骨R、第1中手骨L(2)・R(2)、第2中手骨L(2)・R(2)、第3中手骨L(2)・R(2)、第4中手骨L・R(2)、第5中手骨L・R、基節骨(15)、中節骨(9)、末節骨(6)、膝蓋骨L(2)・R(2)、踵骨L・R、距骨L・R、外側楔狀骨L・R(2)、中間楔狀骨L(2)・R(2)、內側楔狀骨L(2)・R、立方骨L・R(2)、舟狀骨L(2)・R、第1中足骨L(3)・R(2)、第2中足骨L(2)・R、第3中足骨L・R(2)、第4中足骨L(2)・R(2)、第5中足骨L(2)・R(2)、中足骨L/R(2)、第1基節骨L・R(2)、基節骨(17)、中節骨、末節骨(6)
14	6	1	成年	M	側頭骨L、上顎骨、下顎骨、仙骨、肩甲骨L・R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、寬骨L・R、大腿骨L・R、膝蓋骨L・R、脛骨L・R、腓骨L・R、踵骨L・R、距骨L・R、第1中足骨L・R
14	6	2	成年	F	頭蓋骨、下顎骨、仙骨、肩甲骨L・R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、寬骨L・R、大腿骨L・R、膝蓋骨R、脛骨L・R、腓骨L・R、踵骨L・R、距骨L・R、第1中足骨L
14	6	一括	—	—	環椎(2)、軸椎(2)、頸椎(6)、胸椎(13)、腰椎(6)、胸骨、肋骨L(17)・R(14)、大菱形骨L・R(2)、小菱形骨L・R、有頭骨L・R、有鈎骨R、舟狀骨L(2)・R、月狀骨L、三角骨L、豆狀骨L(2)・R、第1中手骨L(2)・R、第2中手骨L・R(2)、第3中手骨L(2)・R、第4中手骨L(2)・R(2)、第5中手骨L・R、第1基節骨L・R(2)、基節骨(16)、中節骨(6)、末節骨(4)、外側楔狀骨R(2)、中間楔狀骨L(2)・R(2)、內側楔狀骨L(2)・R、立方骨L(2)・R、舟狀骨L(2)・R(2)、第2中足骨L・R(2)、第3中足骨L・R、第4中足骨L・R、第5中足骨L(2)・R(2)、第1基節骨L(2)・R(2)、基節骨(10)、末節骨(3)
14	7	1	老年	M	側頭骨R、下顎骨、仙骨、尾骨、胸骨、肩甲骨L・R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、寬骨L・R、大腿骨L・R、膝蓋骨L、脛骨L・R、腓骨L・R、踵骨L・R、距骨L・R
14	7	2	老年	F?	下顎骨、鎖骨L、橈骨L・R、尺骨R、腓骨
14	7	一括	—	—	頭蓋骨破片、環椎、軸椎、頸椎(3)、胸椎(12)、腰椎(3)、椎骨、肋骨L(18)・R(18)、大菱形骨L・R、小菱形骨L、有頭骨R、有鈎骨L・R、舟狀骨L・R、月狀骨L・R、豆狀骨R、第1中手骨R、第2中手骨R、第3中手骨R、第5中手骨R、基節骨(5)、中節骨(8)、末節骨(8)、外側楔狀骨L・R、中間楔狀骨L・R、內側楔狀骨R、立方骨L・R、舟狀骨R、第1中足骨L・R、第3中足骨L、第4中足骨R、第5中足骨L・R、第1基節骨L、基節骨(8)、中節骨(6)、末節骨(5)、遊離齒
14	8	1	成年	M	前頭骨R、後頭骨、環椎、軸椎、仙骨、尾骨、肩甲骨L・R、鎖骨R、上腕骨L・R、大菱形骨L・R、小菱形骨L・R、有頭骨R、有鈎骨L・R、舟狀骨L・R、月狀骨L・R、三角骨L、第1中手骨L・R、第2中手骨L・R、第3中手骨L・R、第4中手骨L・R、第5中手骨L・R、第1基節骨L・R、末節骨、寬骨L・R、大腿骨L・R、膝蓋骨L・R、脛骨L・R、踵骨L・R、距骨R、中間楔狀骨L・R、內側楔狀骨L・R、立方骨L・R、舟狀骨L・R、第1中足骨L・R、第2中足骨L・R、第3中足骨L・R、第4中足骨L・R、第5中足骨R、第1基節骨R、末節骨、遊離齒
14	8	2	老年	F	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、仙骨、尾骨、肩甲骨L・R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、大菱形骨L・R、小菱形骨L・R、有頭骨L・R、有鈎骨L・R、舟狀骨L・R、月狀骨L・R、三角骨L・R、第1中手骨L・R、第2中手骨L・R、第3中手骨L・R、第4中手骨L・R、第5中手骨L・R、第1基節骨L・R、末節骨、寬骨L・R、大腿骨L・R、膝蓋骨L・R、脛骨L・R、腓骨L・R、踵骨L・R、距骨L・R、中間楔狀骨L・R、內側楔狀骨L・R、立方骨L・R、舟狀骨L・R、第1中足骨L・R、第2中足骨L・R、第3中足骨L・R、第4中足骨L・R、第5中足骨L・R、第1基節骨、末節骨、遊離齒
14	8	一括	—	—	頸椎(10)、胸椎(15)、腰椎(3)、椎骨(2)、胸骨、肋骨L(8)・R(3)、肩甲骨破片、豆狀骨L、基節骨(14)、中節骨(10)、末節骨(11)、外側楔狀骨R、基節骨(9)、中節骨(7)、末節骨、指骨(4)
14	埋土中	1	—	—	側頭骨L、下顎骨、胸椎(2)、椎骨、肋骨L(5)・R(4)、肩甲骨R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨R、第1中手骨R、第2中手骨L・R、第5中手骨L、基節骨(4)、大腿骨L・R、脛骨L・R、腓骨L・R、踵骨L、距骨L・R、中間楔狀骨R、第1中足骨L・R、第2中足骨L・R、第3中足骨L・R、第4中足骨L、第5中足骨L
15	1	1	不明	不明	破片
15	埋土中	1	成人	—	眼窩骨L、後頭骨、下顎骨、胸椎、肋骨破片、尺骨L、第2中手骨L、中節骨、大腿骨L、第1中足骨L・R、第3中足骨L、第4中足骨L、第1基節骨R
15	埋土中	2	幼兒	不明	眼窩骨R、下顎骨L

第74表 人骨一覽表3

墓 No.	藏骨器 No.	人骨 No.	年齡	性別	同定部位
16	埋土中	1	—	F?	前頭骨、側頭骨、後頭骨、眼窩骨、上顎骨、下顎骨、椎骨、肋骨破片、肩甲骨L、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L、舟狀骨L、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L、脛骨L·R、腓骨L·R、距骨L、內側楔狀骨L、舟狀骨R
22	1	1	老年	F	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(5)、胸椎(12)、腰椎(5)、仙骨、胸骨、肋骨L(8)·R(5)、肩甲骨L、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、大菱形骨L·R、小菱形骨R、有頭骨R、有鈎骨L·R、舟狀骨L·R、月狀骨L·R、三角骨L·R、第1中手骨R、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨L·R、基節骨(7)、中節骨(6)、末節骨(3)、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、外側楔狀骨L·R、中間楔狀骨L·R、內側楔狀骨L·R、立方骨L·R、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L·R、第5中足骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(8)、中節骨(3)、末節骨、遊離齒
22	2	1	熟年	M	頭蓋骨破片、上顎骨、下顎骨、環椎、軸椎、胸椎(4)、腰椎破片、仙骨破片、椎骨(9)、肋骨L(4)·R、肩甲骨L·R、鎖骨R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、大菱形骨R、有鈎骨L、舟狀骨L、月狀骨L·R、三角骨R、第1中手骨L·R、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(7)、中節骨(4)、末節骨、寬骨L、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、外側楔狀骨R、中間楔狀骨L、內側楔狀骨R、舟狀骨L·R、第1中足骨L、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L、第5中足骨L、第1基節骨L·R、基節骨(3)、末節骨、遊離齒
22	2	2	成人	不明	腓骨R
22	2	3	幼兒	不明	椎骨、腓骨L、遊離齒
23	1	1	幼兒	不明	後頭骨、下顎骨、軸椎、頸椎破片、尾骨、椎骨、肩甲骨L、上腕骨L、寬骨L·R、大腿骨R、脛骨L·R、中手/中足骨L·R、遊離齒
23	1	2	成年	M?	上顎骨破片、頸椎破片、椎骨(9)、肋骨L(2)·R、肩甲骨L·R、上腕骨L、橈骨L·R、小菱形骨L、有頭骨R、有鈎骨R、舟狀骨L、月狀骨L、三角骨R、第3中手骨L、基節骨、中節骨(3)、末節骨、腸骨R、脛骨L·R、距骨L·R、外側楔狀骨L、中間楔狀骨R、內側楔狀骨L·R、舟狀骨L·R、第1中足骨R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第5中足骨R、第1基節骨L·R、基節骨、中節骨、遊離齒
23	2	1	成年	F	頸椎(4)、胸椎(3)、腰椎、仙椎、椎骨(12)、胸骨體、肋骨L·R(3)、肩甲骨L·R、鎖骨R、上腕骨L·R、橈骨L、尺骨L·R、大菱形骨L·R、小菱形骨R、有頭骨L·R、有鈎骨L·R、舟狀骨R、三角骨L、第2中手骨R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、基節骨(5)、中節骨(4)、末節骨(3)、腸骨R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、踵骨L、距骨L·R、外側楔狀骨L·R、中間楔狀骨L·R、外側楔狀骨L·R、立方骨L·R、舟狀骨L·R、第1中足骨R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L·R、第5中足骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(6)、中節骨(2)、末節骨(3)、遊離齒
23	3	1	成人	不明	頭蓋骨破片、肋骨破片、上腕骨L·R、大菱形骨L、小菱形骨R、有頭骨L、第4中手骨R、中節骨、寬骨破片L·R、大腿骨L·R、腓骨R、外側楔狀骨R、內側楔狀骨R、立方骨L、舟狀骨R、第2中足骨R、第3中足骨L·R、第4中足骨L、第5中足骨R、第1基節骨L、基節骨、遊離齒
23	3	2	乳幼兒	不明	遊離齒
24	1	1	乳兒	不明	頭蓋骨、下顎骨、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、腸骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、遊離齒
24	1	2	乳兒	不明	頭蓋骨、下顎骨、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、腸骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、遊離齒
24	1	3	乳兒	不明	頭蓋骨、下顎骨、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、腸骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、遊離齒
24	1	一括	—	—	上顎骨破片、軸椎、仙骨、椎骨(61)、胸骨(3)、肋骨L(29)·R(24)、坐骨L·R、遊離齒
24	2	1	成年 ~熟年	M	頭蓋骨、下顎骨、舌骨、環椎、軸椎、腰椎(5)、仙骨、尾骨、胸骨、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、大菱形骨L·R、小菱形骨L·R、有頭骨L·R、有鈎骨L·R、舟狀骨L·R、月狀骨L·R、第1中手骨L·R、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、內側楔狀骨L·R、立方骨L·R、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L·R、第1基節骨L·R
24	2	2	老年	F	頭蓋骨、下顎骨、環椎、腰椎(4)、仙椎、胸骨、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、大菱形骨R、小菱形骨L、有頭骨R、有鈎骨R、舟狀骨R、月狀骨R、第1中手骨R、第2中手骨R、第3中手骨L·R、第4中手骨R、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、內側楔狀骨L、舟狀骨R、第1中足骨L、第2中足骨L·R、第3中足骨R、第4中足骨L·R、遊離齒
24	2	一括	—	—	頸椎(5)、胸椎(16)、椎骨(6)、肋骨L(21)·R(19)、三角骨L·R、豆狀骨L·R、第5中手骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(18)、中節骨(9)、末節骨(2)、外側楔狀骨L·R、中間楔狀骨L·R、第5中足骨L·R
24	3	1	老年	F	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、胸椎(12)、腰椎(5)、仙骨、尾骨、胸骨體、肋骨L(7)·R(7)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、大菱形骨L·R、小菱形骨L·R、有頭骨L·R、有鈎骨L·R、舟狀骨L、月狀骨L·R、三角骨L、第1中手骨L·R、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(6)、中節骨(8)、末節骨(5)、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、外側楔狀骨L·R、中間楔狀骨L·R、內側楔狀骨L·R、立方骨L·R、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L·R、第5中足骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(8)、中節骨(2)、末節骨(2)、遊離齒
24	4	1	乳幼兒	不明	頭蓋骨、下顎骨、椎骨(5)、肋骨破片、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、尺骨L·R、腸骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨
25	人骨	1	—	—	仙骨破片、寬骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨R、距骨R、中間楔狀骨R、立方骨R、第1中足骨R、第2中足骨L·R、第3中足骨R、第4中足骨L·R、第5中足骨L·R
27	1	1	若年	M	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(5)、胸椎(11)、腰椎、仙骨破片、椎骨(6)、胸骨、肋骨L(9)·R(4)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、大菱形骨L·R、小菱形骨L·R、有頭骨L·R、有鈎骨L·R、舟狀骨L·R、月狀骨L·R、三角骨L·R、第1中手骨L·R、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(6)、中節骨(6)、末節骨(6)、寬骨L+腸骨L、腸骨R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、外側楔狀骨L·R、中間楔狀骨L·R、內側楔狀骨L·R、立方骨L、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L·R、第5中足骨L·R、第1基節骨L、基節骨(5)、中節骨(2)

第75表 人骨一覽表4

墓 No.	藏骨器 No.	人骨 No.	年齡	性別	同定部位
27	2	1	成年	M	椎骨(4)、肋骨L、小菱形骨L·R、三角骨L、基節骨、中節骨(2)、末節骨(2)、大腿骨L·R、外側楔狀骨R、內側楔狀骨L、立方骨L·R、第1中足骨R、第4中足骨R、第1基節骨L/R、基節骨(2)、中節骨(4)、末節骨、指骨(10)、遊離齒
27	3	1	乳幼兒	不明	上腕骨L/R、橈骨L、指骨(3)、遊離齒
27	3	2	小兒	不明	遊離齒
27	4	1	熟年~老年	F	頭蓋骨、下顎骨、軸椎、頸椎、腰椎(2)、仙骨、椎骨、肋骨破片、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、小菱形骨R、豆狀骨L/R、第2中手骨R、第3中手骨L·R、第4中手骨L、基節骨(2)、中節骨(2)、末節骨(3)、寬骨臼+腸骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨R、脛骨L·R、腓骨L·R、距骨L、外側楔狀骨L、中間楔狀骨L、第1中足骨R、第3中足骨L、第5中足骨L、第1基節骨R、基節骨、中節骨、末節骨(4)、遊離齒
27	4	2	成人	M?	橈骨R、寬骨破片L/R、大腿骨L·R、脛骨L·R
27	4	3	未成人	不明	頭蓋骨破片、遊離齒
27	5	1	成人	不明	大腿骨L·R、脛骨L·R
27	5	2	成人	不明	大腿骨L、脛骨L·R
27	5	3	未成人	不明	尺骨L
27	5	一括	—	—	頭蓋骨破片、胸骨體破片、肩甲骨R、橈骨R、基節骨、中節骨(2)、末節骨(6)、遊離齒
27	6	1	成人	不明	頭蓋骨破片、頸椎、胸椎、腰椎(3)、椎骨(3)、肋骨R(2)、肩甲骨L、上腕骨L、橈骨L·R、寬骨臼L·R、腸骨L、脛骨L、腓骨L/R、距骨L·R、內側楔狀骨L、遊離齒
27	7	1	成人	不明	仙骨破片、椎骨(6)、寬骨R、大腿骨L·R、脛骨L/R、遊離齒
27	8	1	成人	M?	尺骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R
27	8	2	老年	F?	頭蓋骨、下顎骨、尺骨R、大腿骨L·R、脛骨R
27	8	一括	—	—	上腕骨L(2)·R(2)、橈骨R、基節骨(2)、腸骨R、踵骨R、距骨L、外側楔狀骨R、中間楔狀骨R、立方骨R、舟狀骨R、遊離齒
27	9	1	老年	F	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎、胸椎(7)、腰椎(5)、仙骨、胸骨、肋骨L(10)·R(9)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、大菱形骨R、小菱形骨L·R、有頭骨L·R、有鈎骨L·R、舟狀骨L·R、三角骨L·R、豆狀骨L·R、第1中手骨L、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨L、第1基節骨L·R、基節骨(8)、中節骨(8)、末節骨(7)、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、外側楔狀骨L·R、中間楔狀骨L·R、內側楔狀骨L·R、立方骨L·R、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L·R、第5中足骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(6)、中節骨(4)、末節骨(2)、指骨(2)
27	10	1	幼兒	不明	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(3)、胸椎(2)、腰椎(4)、仙骨(3)、椎骨(11)、胸骨、肋骨L(5)·R(11)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、第1中手骨L·R、中手骨L/R(8)、寬骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L、第1中足骨L·R、中足骨L/R(8)、指骨(15)
27	一次葬	1	老年	M	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(3)、椎骨、肋骨L·R(6)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨R、橈骨R、小菱形骨R、有鈎骨R、第1中手骨R
27	一次葬	2	老年	M	頭蓋骨、下顎骨、環椎、頸椎(2)、胸椎(3)、腰椎(4)、仙骨、椎骨、肋骨L(7)·R(7)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、有頭骨L、第1中手骨L·R、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨L·R、基節骨(7)、寬骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、立方骨L、舟狀骨L·R、第1中足骨R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L、第5中足骨L、第1基節骨L、基節骨、中節骨
27	埋土中	一括	—	—	胸椎(2)、腰椎(3)、仙骨破片、椎骨(3)、肋骨R、上腕骨L、橈骨L、尺骨L·R(2)、大菱形骨L、第1中手骨L、第2中手骨L·R、第4中手骨L、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、第1中足骨R、第2中足骨R、第3中足骨R、第4中足骨R、第5中足骨L·R
27	東側周 辺埋土	一括	—	—	腓骨L、中間楔狀骨L、第1中足骨L/R、第2中足骨L、第3中足骨L、基節骨、末節骨、遊離齒
28	1	1	不明	不明	部位不明破片、遊離齒
28	2	1	不明	不明	部位不明破片
28	3	1	成人	不明	椎骨(4)、大菱形骨L、基節骨(2)、中節骨(5)、末節骨(4)、大腿骨L/R、踵骨L、基節骨、中手/中足骨、遊離齒
28	4	1	老年	M	頭蓋骨、下顎骨、軸椎、胸椎(7)、腰椎(3)、仙骨、肋骨L(5)·R(10)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、舟狀骨L、第1中手骨L、第2中手骨L·R、第3中手骨R、腸骨+坐骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、內側楔狀骨L·R、舟狀骨L、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L·R、第5中足骨L·R、基節骨
32	1	1	成人	不明	軸椎、頸椎(3)、胸椎(3)、腰椎(3)、椎骨、上腕骨R、基節骨(2)、中節骨(3)、末節骨(2)、膝蓋骨L·R、踵骨L、距骨L、外側楔狀骨L、中間楔狀骨L·R、內側楔狀骨L·R、立方骨L·R、舟狀骨L/R、第1中足骨R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第5中足骨L、中足骨L/R(2)、第1基節骨R、基節骨、遊離齒
32	2	1	小兒	不明	頭蓋骨破片、椎骨、肋骨破片、鎖骨L·R、中節骨、寬骨臼L、腸骨+坐骨R、大腿骨L·R、腓骨R、中足骨L/R(3)、基節骨、遊離齒
32	3	1	成人	不明	頭蓋骨破片、椎骨、上腕骨L、尺骨L、寬骨臼+坐骨R、膝蓋骨L/R、腓骨R、距骨L·R、外側楔狀骨R、內側楔狀骨R、舟狀骨L、第1中足骨L·R、遊離齒
32	4	1	成人	不明	頭蓋骨破片、肩甲骨L、尺骨L·R、小菱形骨L、舟狀骨L、基節骨、寬骨臼L、大腿骨L、膝蓋骨L、腓骨R、舟狀骨R、第3中足骨R、基節骨
32	4	2	乳幼兒	不明	遊離齒
32	4	3	乳兒	不明	遊離齒
32	5	1	小兒	不明	頭蓋骨破片、椎骨(4)、肩甲骨L、小菱形骨R、中節骨(2)、踵骨R、遊離齒
33	1	1	成人	不明	頭蓋骨破片、尾椎、上腕骨L/R、橈骨L/R、尺骨L·R、踵骨L、距骨L、內側楔狀骨R、立方骨L、第1中足骨L·R、第2中足骨R、第4中足骨L、基節骨(3)、末節骨、遊離齒
33	2	1	成人	不明	仙骨破片、椎骨(4)、肋骨破片、肩甲骨L、寬骨破片、舟狀骨L·R、遊離齒
33	3	1、2	成人	—	大腿骨L(2)·R、脛骨L/R

第76表 人骨一覽表5

墓 No.	藏骨器 No.	人骨 No.	年齡	性別	同定部位
33	3	3、4	小兒	不明	後頭骨、椎骨破片、肋骨破片、肩甲骨R、橈骨L/R、尺骨L·R、坐骨L·R、大腿骨L、脛骨R、腓骨L/R
33	3	5、6	乳幼兒	不明	橈骨L(2)·R、遊離齒
33	4	1	成人	F	前頭骨、下顎骨、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、中節骨、寬骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R
33	5	1	成人	不明	椎骨、肋骨L·R(2)、肩甲骨R、鎖骨L·R、尺骨R、基節骨(4)、大腿骨L/R、腓骨L/R
33	6	1	成人	不明	肋骨破片、肩甲骨R、鎖骨R、腓骨L/R
33	7	1	成人	不明	側頭骨L·R、上顎骨R、椎骨、肋骨L·R(2)、肩甲骨R、基節骨、腸骨R、腓骨R、距骨L、第3中足骨R、遊離齒
33	8	1	成人	不明	後頭骨、上腕骨L、橈骨L、寬骨L、脛骨L·R、腓骨L/R(2)
33	埋土中	一括	—	—	側頭骨L、肋骨破片、肩甲骨L、鎖骨L、上腕骨R、橈骨L、尺骨L、寬骨R、大腿骨L/R、脛骨R、腓骨R、距骨L、第3中足骨L、遊離齒
35	1	1	成人	不明	上腕骨L·R、橈骨L、小菱形骨L·R、有鈎骨L·R、月狀骨L、三角骨L、基節骨(2)、中節骨、末節骨(4)、腓骨L/R、外側楔狀骨L、中間楔狀骨L、內側楔狀骨R、舟狀骨R、第4中足骨R、第1基節骨R、基節骨(3)、中節骨(4)、末節骨、遊離齒
35	2	1	成人	不明	仙骨、椎骨、肋骨破片、鎖骨R、尺骨R、有頭骨L、中節骨、末節骨(3)、外側楔狀骨L、舟狀骨R、第1基節骨R、基節骨、中節骨(2)、遊離齒
35	2	2	幼兒~小兒	不明	上顎骨、仙骨、椎骨、肩甲骨L、上腕骨L、橈骨R、尺骨L·R、腓骨L·R、中手/中足骨L/R、指骨、遊離齒
35	4	1	壯年	F	頭蓋骨破片、上顎骨R、環椎、軸椎、頸椎、胸椎(4)、腰椎(3)、仙骨、椎骨、胸骨丙、肋骨L(9)·R(8)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、有頭骨L·R、第1中手骨L·R、第2中手骨L、第4中手骨R、第5中手骨L、基節骨(7)、中手骨L/R、大腿骨L·R、膝蓋骨L、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L、外側楔狀骨R、內側楔狀骨R、立方骨L、舟狀骨L·R、第1中足骨L、第2中足骨L·R、第3中足骨L、第4中足骨L·R、第5中足骨L·R、第1基節骨L·R、遊離齒
35	5	1	成人	F	頭蓋骨破片、下顎骨、頸椎(5)、胸椎(6)、腰椎(3)、仙骨破片、尾椎、胸骨丙、肋骨L·R(5)、肩甲骨L、鎖骨R、上腕骨L、橈骨L、尺骨R、大菱形骨L·R、小菱形骨L·R、有頭骨L·R、有鈎骨L·R、舟狀骨L·R、三角骨L·R、豆狀骨R、第1中手骨L·R、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(8)、中節骨(6)、末節骨(6)、寬骨L·R、坐骨+恥骨L、腸骨R、大腿骨R、脛骨L、腓骨L、踵骨R、距骨L·R、外側楔狀骨L、中間楔狀骨L·R、內側楔狀骨L·R、立方骨L·R、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L·R、第5中足骨L·R、基節骨(7)、中節骨(2)、末節骨(4)、遊離齒
35	6	1	成人	不明	前頭骨、側頭骨R、上顎骨R、頸椎(4)、胸椎(4)、腰椎(4)、仙骨、椎骨(3)、胸骨丙、肋骨L(3)·R、肩甲骨L·R、鎖骨R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、有頭骨L·R、有鈎骨R、舟狀骨R、月狀骨R、第1中手骨L·R、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨L、第1基節骨L·R、基節骨(5)、中節骨(4)、末節骨(2)、寬骨L·R、腸骨L、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、外側楔狀骨R、中間楔狀骨R、內側楔狀骨L·R、立方骨L·R、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L·R、第5中足骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(4)、末節骨、遊離齒
35	7	1	成人	不明	中節骨(2)、寬骨L·R、坐骨L、基節骨(手/足)
35	8	1	未成人	不明	頭蓋骨破片
35	9	1	成人	不明	頸椎、胸椎、椎骨(2)、肋骨破片、鎖骨L、大菱形骨R、月狀骨L、三角骨R、第1中手骨R、第5中手骨L、基節骨、中節骨(2)、末節骨(3)、膝蓋骨R、第3中足骨L、第1基節骨L、基節骨(2)、中節骨(2)、遊離齒
35	10	1	小兒	不明	大腿骨L·R、腓骨L·R、遊離齒
35	11	1	小兒	不明	有頭骨R?、遊離齒
35	埋土中	一括	—	—	下顎骨、肋骨破片、尺骨L、寬骨L+腸骨L·R、大腿骨L(2)·R(2)、脛骨R、腓骨L·R、中手/中足骨L/R、遊離齒
36	墓庭埋土	一括	—	—	頭蓋骨破片
39	埋土中	一括①	成人	—	頭蓋骨破片、上腕骨R、橈骨L、大腿骨L、脛骨L·R、遊離齒
39	埋土中	一括②	未成人	—	頭蓋骨破片、橈骨R、遊離齒
42	埋土中	一括	—	—	頭頂骨+側頭骨L·R+後頭骨、頭頂骨R+側頭骨R+後頭骨、後頭骨、前頭骨破片(3)、側頭骨(4)、下顎骨、椎骨破片、肩甲骨L·R、上腕骨L(3)·R(2)、橈骨L(2)·R(3)、尺骨L(3)·R(2)、腸骨L、大腿骨L(4)·R(2)、脛骨L·R(3)、腓骨L·R·L/R(2)、指骨(3)
42	墓庭墓口近	一括	—	—	頭蓋骨破片、鎖骨L(2)·R、上腕骨R、橈骨L/R(2)、寬骨L/R、大腿骨L(2)·R(2)、脛骨L(2)
45	1	1	小兒	不明	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、椎骨、肋骨破片、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、腸骨L·R、坐骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、第1中足骨L
46	1	1	若年	不明	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、仙椎(2)、椎骨、肋骨L(3)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨、橈骨、尺骨、基節骨(3)、中節骨、中手骨L/R、寬骨L+腸骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L、距骨L·R、中間楔狀骨L·R、內側楔狀骨L、舟狀骨L·R、第1中足骨R、第3中足骨L、第5中足骨R、第1基節骨L、基節骨(3)、指骨(5)、遊離齒

第77表 人骨一覽表6

墓 No.	藏骨器 No.	人骨 No.	年齡	性別	同定部位
47	1	1	成年	M	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(5)、胸椎(3)、腰椎破片、仙骨破片、肋骨L(7)・R(10)、肩甲骨L・R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、大菱形骨L・R、小菱形骨L・R、有頭骨L、有鈎骨L、舟狀骨L・R、月狀骨L・R、第1中手骨R、第2中手骨L・R、第3中手骨L、第4中手骨L・R、第5中手骨L・R、第1基節骨L・R、基節骨(6)、中節骨(6)、末節骨(3)、寬骨臼+腸骨L・R、大腿骨L・R、膝蓋骨L、脛骨L・R、腓骨L・R、踵骨L・R、距骨L、外側楔狀骨R、中間楔狀骨L、內側楔狀骨L、立方骨L、舟狀骨L・R、第1中足骨L・R、第2中足骨L・R、第3中足骨R、第4中足骨R、第5中足骨L、基節骨(3)、末節骨、中手/中足骨L/R、指骨(2)
47	1	2	成人	不明	橈骨L
47	2	1	熟年	M	頭蓋骨、舌骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(2)、胸椎(5)、腰椎(3)、仙骨、尾骨、胸骨、肋骨L(12)・R(12)、肩甲骨L・R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、大菱形骨L・R、小菱形骨L、有頭骨L・R、有鈎骨L・R、舟狀骨L・R、月狀骨R、三角骨L・R、第1中手骨L、第2中手骨L、第3中手骨L・R、第4中手骨L・R、第5中手骨L・R、第1基節骨L・R、基節骨(7)、中節骨(6)、末節骨(5)、寬骨L・R、大腿骨L・R、膝蓋骨L・R、脛骨L・R、腓骨L・R、踵骨L・R、距骨L・R、外側楔狀骨L・R、中間楔狀骨L・R、內側楔狀骨L・R、立方骨L・R、舟狀骨L・R、第1中足骨L・R、第2中足骨L・R、第3中足骨R、第4中足骨L・R、第5中足骨L・R、第1基節骨L・R、基節骨(7)、中節骨(4)、末節骨(3)
47	3	1	老年	M	頭蓋骨、下顎骨、環椎、仙骨、胸骨、肋骨L・R、肩甲骨L・R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、寬骨L・R、大腿骨L・R、膝蓋骨L、脛骨L・R、腓骨L・R、踵骨R、距骨L・R、第1中足骨R、第2中足骨L・R、第3中足骨L、第4中足骨L・R、第5中足骨L・R
47	3	2	熟年	F	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、仙骨、肋骨L・R、肩甲骨L・R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、腸骨+坐骨L・R、大腿骨L・R、膝蓋骨L、脛骨L・R、腓骨L・R、踵骨L・R、距骨L・R、第1中足骨L・R、第2中足骨L・R、第3中足骨L・R、第4中足骨L・R、第5中足骨L・R
47	3	3	幼兒	不明	側頭骨L、上顎骨、頭蓋骨破片、下顎骨、環椎、胸椎、椎骨(17)、肋骨破片、肩甲骨破片、鎖骨L、上腕骨L・R、腸骨+坐骨L・R、大腿骨L・R、脛骨L・R、腓骨L・R、遊離齒
47	3	一括	—	—	頸椎(7)、胸椎(12)、腰椎(5)、肋骨L(14)・R(17)、有頭骨L、有鈎骨L、舟狀骨L・R、三角骨L・R、第1中手骨R、第2中手骨L・R、第3中手骨L、第4中手骨R、基節骨(6)、中節骨(4)、中間楔狀骨、內側楔狀骨L(2)・R、立方骨L・R、舟狀骨L(2)・R(2)、基節骨(11)、末節骨(手/足・12)
47	4	1	成年~熟年	F	側頭骨、上顎骨、下顎骨、舌骨、環椎、軸椎、頸椎(5)、胸椎(11)、腰椎(5)、仙骨、肋骨L(10)・R(11)、肩甲骨L・R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、大菱形骨L・R、小菱形骨L・R、有頭骨L・R、有鈎骨L・R、舟狀骨L・R、月狀骨L・R、三角骨L・R、第1中手骨L・R、第4中手骨R、第5中手骨L、基節骨(5)、中節骨(3)、末節骨(5)、寬骨L・R、大腿骨L・R、膝蓋骨L・R、脛骨L・R、腓骨L・R、踵骨L・R、距骨L・R、外側楔狀骨L・R、中間楔狀骨L・R、內側楔狀骨L・R、立方骨L・R、舟狀骨L・R、第1中足骨L・R、第2中足骨L・R、第3中足骨R、第4中足骨L・R、第5中足骨L・R、第1基節骨L・R、基節骨(5)、中節骨(2)、末節骨(2)
47	4	2	幼兒~小兒	不明	椎骨、腸骨L/R、指骨(手/足)、遊離齒
48	1	1	—	F	鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、膝蓋骨L・R、踵骨L・R、距骨R
48	1	一括	—	—	頭頂骨R、側頭骨R、後頭骨L、下顎骨、肋骨破片、肩甲骨L・R、有頭骨R、有鈎骨R、舟狀骨L、月狀骨R、第3中手骨L、基節骨(3)、大腿骨L・R、脛骨L・R、腓骨L・R、外側楔狀骨R、中間楔狀骨R、立方骨L、舟狀骨L、第1中足骨L・R、第2中足骨L・R、第3中足骨L・R、第4中足骨L・R、第5中足骨R、第1基節骨L・R、基節骨、遊離齒
48	2	1	老年	M	頭頂骨R、側頭骨R、後頭骨R、上顎骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(5)、胸椎(12)、腰椎(5)、仙骨、尾骨、胸骨、肋骨L(11)・R(12)、肩甲骨L・R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、大菱形骨L・R、小菱形骨L・R、有頭骨L・R、有鈎骨L・R、舟狀骨L・R、月狀骨L・R、三角骨L・R、豆狀骨L・R、第1中手骨L・R、第2中手骨L・R、第3中手骨L・R、第4中手骨L・R、第5中手骨L・R、第1基節骨L・R、基節骨(6)、中節骨(6)、末節骨(7)、寬骨L・R、大腿骨L・R、膝蓋骨L・R、脛骨L・R、腓骨L・R、踵骨L・R、距骨L・R、外側楔狀骨L・R、中間楔狀骨L・R、內側楔狀骨L・R、立方骨L・R、舟狀骨L・R、第1中足骨L・R、第2中足骨L・R、第3中足骨L・R、第4中足骨L・R、第5中足骨L・R、第1基節骨L・R、基節骨(6)、中節骨(5)、末節骨(2)、遊離齒
48	3	1	成人	F	環椎、胸椎、腰椎、胸骨丙、肩甲骨R、鎖骨L、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、舟狀骨R、第1中手骨L、第2中手骨R、第3中手骨L・R、第4中手骨R、第5中手骨L・R、第1基節骨R、基節骨(3)、中節骨(2)、末節骨、坐骨L・R、腓骨L・R、距骨L・R、內側楔狀骨L、舟狀骨R、第1中足骨L、第2中足骨L・R、第3中足骨L・R、第1基節骨L・R、基節骨(3)、指骨(2)
48	4	1	成人	不明	頭蓋骨破片、椎骨(5)、第2中手骨R、末節骨(2)、距骨L・R
48	5	1	老年	M	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(4)、胸椎(8)、腰椎(5)、仙骨、肋骨L(11)・R(7)、肩甲骨L・R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、有頭骨R、第1中手骨L・R、第2中手骨L・R、第3中手骨L・R、第4中手骨L・R、第5中手骨L、基節骨(2)、寬骨臼+腸骨L、寬骨臼+腸骨+坐骨R、大腿骨L・R、膝蓋骨L、脛骨L・R、腓骨R、踵骨R、距骨R、外側楔狀骨R、中間楔狀骨R、內側楔狀骨R、立方骨R、舟狀骨R、第1中足骨R、第2中足骨R、第3中足骨R、第4中足骨R、第5中足骨R、第1基節骨R
48	6	1	老年	F	上顎骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(5)、胸椎(4)、仙骨破片、椎骨(9)、肋骨L(3)・R(3)、肩甲骨L・R、鎖骨L、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、有頭骨R、舟狀骨L、月狀骨R、第1中手骨R、第5中手骨R、第1基節骨L、基節骨(2)、中手骨L/R(3)、寬骨L・R、大腿骨L・R、膝蓋骨L・R、脛骨L・R、腓骨L・R、踵骨L・R、距骨L・R、外側楔狀骨L、中間楔狀骨L、內側楔狀骨R、舟狀骨L・R、第1中足骨L・R、第2中足骨L、第3中足骨L・R、第4中足骨L・R、第5中足骨L・R、第1基節骨L・R、基節骨(2)、中節骨(3)、末節骨、遊離齒
49	1	1	成年	F	頭蓋骨、下顎骨、椎骨(2)、肋骨破片、肩甲骨L・R、鎖骨L・R、上腕骨L・R、橈骨L・R、尺骨L・R、有頭骨L・R、三角骨R、基節骨(3)、中手/中足L/R、寬骨臼+腸骨+坐骨L、寬骨臼R、膝蓋骨L・R、脛骨L・R、腓骨L・R、距骨L・R、外側楔狀骨L、距骨L・R、中間楔狀骨R、內側楔狀骨L・R、第1中足骨L/R、第2中足骨R、第3中足骨L・R、遊離齒
49	1	2	幼兒	不明	頭頂骨、後頭骨、上顎骨R、遊離齒

第78表 人骨一覽表7

墓 No.	藏骨器 No.	人骨 No.	年齡	性別	同定部位
49	2	1	若年	不明	前頭骨、頭頂骨、後頭骨、側頭骨、上顎骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(2)、胸椎(12)、腰椎(5)、仙骨、胸骨丙、肋骨破片、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、舟狀骨L·R、第1中手骨L·R、第2中手骨L·R、基節骨(4)、中節骨(8)、末節骨、中手骨L/R(5)、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、外側楔狀骨L·R、內側楔狀骨R、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨L、第4中足骨L、基節骨、中節骨(2)、中足骨L/R
49	2	2	未成人	不明	後頭骨、側頭骨L·R
49	3	1	成年	M	前頭骨、側頭骨R、頰骨R、下顎骨、肩甲骨破片、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、寬骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、第1中足骨R
49	3	2	成年~ 熱年	F	前頭骨、頭頂骨、後頭骨、側頭骨、上顎骨、下顎骨、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、寬骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、第1中足骨R
49	3	3	乳幼兒	不明	上腕骨L·R、尺骨L/R、大腿骨L、脛骨L·R
49	3	一括	—	—	環椎(2)、軸椎、頸椎、胸椎(2)、腰椎(2)、椎骨(4)、肋骨(7)·R(11)、第1中手骨L·R、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨R、第5中手骨L·R、第1基節骨L、基節骨(3)、指骨、大腿骨L/R、脛骨L·R、踵骨L(2)·R、距骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L(2)·R(2)、第4中足骨L、第5中足骨L(2)·R(2)
49	埋土中	一括	—	—	頭蓋骨破片、上腕骨R、第1中足骨R、第4中足骨R
50	埋土中	1	—	—	頭蓋骨破片、寬骨L、大腿骨R
54	1	1	不明	不明	四肢骨破片
57	1	1	成年	F	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(5)、胸椎(11)、腰椎(4)、仙骨、尾骨、胸骨、肋骨L(12)·R(10)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、大菱形骨L、小菱形骨L、有頭骨L、有鈎骨L·R、舟狀骨L·R、三角骨L、第1中手骨L·R、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨L·R、第1基節骨L、基節骨(7)、中節骨(4)、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、外側楔狀骨L·R、中間楔狀骨L·R、內側楔狀骨L·R、立方骨L·R、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L·R、第5中足骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(5)、末節骨(2)
57	1	2	乳兒	不明	頰骨L·R、上顎骨L·R、下顎骨L、椎骨破片、肋骨L(5)·R(5)、肩甲骨破片、上腕骨L·R、尺骨L·R、指骨、腸骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、遊離齒
57	2	1	熱年~ 老年	F	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(4)、胸椎(11)、腰椎(4)、仙骨、尾骨、胸骨、肋骨L(12)·R(12)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、大菱形骨L、小菱形骨L、有頭骨L·R、有鈎骨L·R、舟狀骨L·R、月狀骨L、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(8)、中節骨(4)、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、外側楔狀骨R、中間楔狀骨R、內側楔狀骨L、立方骨、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L·R、第5中足骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(8)
57	2	2	小兒	不明	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(4)、胸椎(10)、腰椎(3)、仙椎(4)、椎骨(2)、胸骨、肋骨L(7)·R(6)、肩甲骨L、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、第1中手骨L、基節骨(3)、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨R、脛骨L·R、腓骨L·R、距骨L·R、立方骨L、第1中足骨L、指骨(10)
57	3	1	乳幼兒	不明	頭蓋骨、下顎骨、軸椎、椎骨(25)、肋骨L(11)·R(11)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、第1中手骨L·R、腸骨L、寬骨R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、中手/中足L/R()、指骨()
57	4	1	幼兒	不明	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、椎骨(17)、胸骨、肋骨L(7)·R(10)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、基節骨(3)、中節骨(手/足)(4)、末節骨(手/足)(2)、寬骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、第1基節骨L·R
57	5	1	乳幼兒	不明	頭蓋骨、下顎骨、軸椎、椎骨(8)、肋骨破片、肩甲骨L、鎖骨R、上腕骨L·R、橈骨L、腸骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、遊離齒
57	6	1	小兒	不明	頭蓋骨、下顎骨、仙椎(2)、椎骨(26)、胸骨、肋骨L(7)·R(4)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、寬骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、中手/中足骨L/R()、指骨()
57	7	1	熱年~ 老年	M	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、仙骨、胸骨、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、大菱形骨L、小菱形骨L、有頭骨L·R、有鈎骨L·R、舟狀骨L·R、月狀骨L·R、三角骨L·R、第1中手骨L·R、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨R、第1基節骨R、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、內側楔狀骨L·R、立方骨L·R、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨R、第5中足骨L·R、第1基節骨L
57	7	2	熱年	F	頭蓋骨破片、下顎骨、環椎、軸椎、仙骨、胸骨、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、大菱形骨L、小菱形骨L、有頭骨L·R、有鈎骨L·R、舟狀骨L·R、月狀骨L·R、三角骨L·R、第1中手骨L·R、第2中手骨L·R、第3中手骨R、第4中手骨L·R、第5中手骨R、第1基節骨L·R、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、內側楔狀骨L·R、立方骨L·R、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨R、第3中足骨L·R、第4中足骨L、第5中足骨L·R、第1基節骨L·R
57	7	一括	—	—	頸椎(10)、胸椎(24)、腰椎(9)、肋骨L(22)·R(21)、外側楔狀骨L·R(2)、中間楔狀骨L·R(2)、基節骨(9)、中節骨(3)、末節骨(6)、基節骨(12)、中節骨(11)、末節骨(11)
57	8	1	成年	M	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(5)、胸椎(12)、腰椎(5)、仙骨、胸骨丙、肋骨L(10)·R(9)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、第1中手骨L、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨L·R、第1基節骨L、基節骨(6)、中節骨(3)、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、內側楔狀骨R、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨L·R、第5中足骨
57	8	2	成人	F※	頭蓋骨破片、上顎骨、下顎骨、環椎、軸椎、椎骨、第1中手骨L、基節骨(2)、膝蓋骨R
57	9	1	小兒	不明	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、仙椎破片、椎骨(27)、胸骨、肋骨L(11)·R(12)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、寬骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、第1中足骨L·R、指骨(19)
57	10	1	乳兒	不明	頭頂骨、後頭骨、側頭骨L·R、上顎骨R、下顎骨、仙椎、椎骨(2)、胸骨、肋骨破片、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、寬骨L·R、大腿骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、遊離齒
57	一次葬	1	熱年~ 老年	M	頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎(5)、胸椎(5)、腰椎(5)、仙椎(5)、胸骨、肋骨L·R(9)、肩甲骨L·R、鎖骨L·R、上腕骨L·R、橈骨L·R、尺骨L·R、大菱形骨L、有頭骨L、有鈎骨L·R、舟狀骨L、月狀骨L、三角骨L、第1中手骨L·R、第2中手骨L·R、第3中手骨L·R、第4中手骨L·R、第5中手骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(8)、中節骨(4)、末節骨(2)、寬骨L·R、大腿骨L·R、膝蓋骨L·R、脛骨L·R、腓骨L·R、踵骨L·R、距骨L·R、外側楔狀骨L·R、中間楔狀骨L·R、內側楔狀骨L·R、立方骨L·R、舟狀骨L·R、第1中足骨L·R、第2中足骨L·R、第3中足骨L·R、第4中足骨R、第5中足骨L·R、第1基節骨L·R、基節骨(2)、末節骨、遊離齒
不明	不明	不明	—	—	頭蓋骨、下顎骨

凡例) 齒種記号: 残存齒, ○: 齒槽開放, ×: 齒槽閉鎖, /: 齒槽破損,
 △: 齒根のみ残存, (): 未萌出, []: 萌出中, [×]: 閉鎖中,
 網掛: 齶齒, 空白: 欠失・未形成

第79表 上顎骨及び下顎骨の齒列残存状況1

墓No.	地点	人骨No.	残存状況															
			R								L							
1	1	1				/	/	/	○	○	○	○	/	/	/			
1	4	一括	×	×	×	/	/	×	×	×						/	/	/
2	一次葬	1	×	×	×	/	/	/	/	/	○	○	C	P'	×	×	×	×
			[×]	×	M ₁	○	○	○	○	○	○	○	○	×	△	M ₁	×	×
4	2	一括			/	○	○	/	/									
8	一次葬	1	/	/	×	△	×	C	×	I'	/	/	○	×	×	×	×	×
			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	[×]	×	×	[×]
9	1	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
9	1	2	/	/	/	/	/	×	×	×	×	×	×	×	×	/	/	/
9	1	3									/	/						
11	3	1									(I ₁)	(I ₂)	/	/	/			
11	5	1	[×]	[×]	[×]	[×]	[×]	[×]	[×]	×	×	×	×	×	×			
14	2	1									○	○	C	P'	P'	M'	M'	○
14	3	一括①		○	×	×	[×]	/	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
14	3	一括②		[×]	[×]	[×]	[×]	/	/	/	/	/	○	○				
14	4	1	/	/	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	/	/
			×	○	M ₁	P ₂	P ₁	C	×	×	×	×	○	×	P ₂	M ₁	×	×
14	4	2	M ₃	○	M ₁	P ₂	P ₁	○	○	○	○	○	○	○	○	M ₁	M ₂	M ₃
14	5	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
14	5	2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
14	5	3	(M ³)	[M ²]	M ¹	[P ²]	○	○	○	○	I ¹	○	[C]	○	○	M ¹	M ²	/
			(M ₃)	[M ₂]	M ₁	m ₂	[P ₁]	[C]	I ₂	I ₁	○	I ₂	○	[P ₁]	m ₂	M ₁		
													(P ₂)					
14	5	一括①									×	×	×	×	×	×	×	×
14	5	一括②	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
14	6	1	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	○	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	/	/
			M ₃	M ₂	M ₁	○	○	○	○	I ₁	I ₁	I ₂	C	P ₁	P ₂	M ₁	M ₂	M ₃
14	6	2	×	×	M ¹	P ²	○	○	I ²	I ¹	I ¹	○	C	P ¹	P ²	M ¹	×	×
			M ₃	M ₂	M ₁	○	○	C	I ₂	○	I ₁	○	○	P ₁	○	M ₁	M ₂	M ₃
14	7	1	×	×	×	○	○	C	○	○	○	○	○	C	○	/		
14	7	1	[×]	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×

凡例) 齒種記号: 残存齒, ○: 齒槽開放, ×: 齒槽閉鎖, /: 齒槽破損,
 △: 齒根のみ残存, (): 未萌出, []: 萌出中, [×]: 閉鎖中,
 網掛: 齶齒, 空白: 欠失・未形成

第80表 上顎骨及び下顎骨の齒列残存状況2

墓No.	地点	人骨No.	残存状況															
			R								L							
14	8	1	×	○	M ¹	P ²	P ¹	C	○	○	I ¹	○	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	×
14	8	2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
			×	×	×	P ₂	P ₁	C	I ₂	○	○	I ₂	C	P ₁	P ₂	×	×	×
14	埋土中	1	M ₃	○	M ₁	P ₂	P ₁	○	○	○	○	○	○	P ₁	○	○	○	○
15	埋土中	1	○	M ₂	○	P ₂	○	C	○	×	×	[×]	○	P ₁	/	/	/	/
15	埋土中	2																
16	埋土中	1	/	M ²	M ¹	P ²	P ¹	○	○	I ¹	I ¹	○	C	P ₁	P ²	M ¹	/	/
			×	M ₂	M ₁	P ₂	○	C	I ₂	I ₁	○	○	○	○	P ₂	M ₁	M ₂	×
22	1	1	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	C	×	×	×	×	×
			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
22	2	1				/	/	C	I ²	I ¹	I ¹							×
						[×]	○	△	/	/	/	/	/	/	/	/	/	[×]
24	1	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	(c)	○	○	/		
				○	○	m ₁	(c)	(i ₂)	○	(i ₁)	(i ₂)	(c)	(m ₁)	○	○			
24	1	2																
				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
24	1	3																
				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
24	2	1	×	×	○	P ²	P ¹	C	I ²	×	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	×
			M ₃	M ₂	M ₁	P ₂	P ₁	C	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	C	P ₁	P ₂	M ₁	M ₂	M ₃
24	2	2	×	×	×				/	[×]	[×]	[×]	[×]	[×]	×	×	×	×
24	3	1	/	/	/	/	/	/	/	/	×	/	/	/	/	/	/	/
			M ₃	M ₂	×	×	×	×	×	×	×	/	/	/	/	/	/	/
24	4	1		(m ²)	m ¹	c	i ²	i ¹	i ¹	i ²	i ¹	i ²	c	m ¹	(m ²)	(M ¹)		
			(M ₁)	(m ₂)	m ₁	c	○	i ₁	i ₁	i ₂	i ₁	i ₂	○	m ₁	(m ₂)	(M ₁)		
						(C)	(I ₂)	(I ₁)	(I ₁)	(I ₂)			(C)					
27	1	1		M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	○	M ¹	○	
				M ₂	M ₁	P ₂	P ₁	C	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	C	P ₁	P ₂	M ₁	M ₂	
27	4	1	×	×	○	P ₂	P ₁	×	○	○	○	○	○	○	P ₂	×	×	×
27	8	2		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
27	9	1	×	×	×	P ₂	×	×	/	×	○	×	×	×	×	×	×	×
27	10	1		(M ²)	(M ¹)	m ²	m ¹	c	i ²	(I ¹)	(I ¹)	i ²	c	m ¹	m ²	(M ¹)	(M ²)	
			(M ₂)	(M ₁)	m ₂	m ₁	c	○	○	○	i ₁	i ₂	c	m ₁	m ₂	(M ₁)	(M ₂)	
						(C)		(I ₁)	(I ₁)	(I ₁)			(C)					
27	一次葬	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
			×	×	×	×	×	×	C	○	○	×	×	C	×	×	×	×
27	一次葬	2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
28	4	1	/	M ₂	○	○	P ₁	C	○	○	○	×	○	P ₁	P ₂	×	×	×
											○	○	C	P ₁	○	M ₁	M ₂	M ₃
33	7	1	/	/	M ¹	P ²	P ¹	/	/	/								

凡例) 歯種記号: 残存歯, ○: 歯槽開放, ×: 歯槽閉鎖, /: 歯槽破損,
 △: 歯根のみ残存, (): 未萌出, []: 萌出中, [×]: 閉鎖中,
 網掛: 齶歯, 空白: 欠失・未形成

第82表 上顎骨及び下顎骨の歯列残存状況4

墓No.	地点	人骨No.	残存状況																							
			R							L																
57	2	2	(M ²)	M ¹	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
			(M ₂)	M ₁	[P ₂]	○	(C)	○	○	○	○	○	○	(C)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
57	3	1	○	(m ²)	[m ¹]	[c]	i ²	○	i ¹	i ²	[c]	[m ¹]	(m ²)	(M ¹)	(M ₁)	(m ₂)	[m ₁]	(c)	(M ₂)	(M ₁)	(M ₁)	(M ₂)	(M ₁)	(M ₁)		
57	4	1	(M ¹)	[m ²]	m ¹	○	○	○	○	i ²	○	m ¹	[m ²]	(M ¹)	(M ₁)	[m ₂]	m ₁	(c)	(M ₂)	(M ₁)	(M ₁)	(M ₂)	(M ₁)	(M ₁)		
57	5	1	(M ₁)	[m ₂]	m ₁	○	i ₂	i ₁	i ₁	i ₂	○	m ₁	[m ₂]	(M ₁)	(M ₁)	[m ₂]	m ₁	(c)	(M ₂)	(M ₁)	(M ₁)	(M ₂)	(M ₁)	(M ₁)		
57	6	1	(○)	(M ²)	M ¹	[P ²]	[P ¹]	c	i ²	i ¹	i ¹	i ²	c	m ¹	m ²	M ¹	(M ²)	(○)	(M ₂)	(M ₁)	(M ₂)	(M ₁)	(M ₂)	(M ₁)		
			(M ₂)	M ₁	[P ₂]	[P ₁]	c	i ₂	i ₁	i ₁	i ₂	(C)	[P ₁]	m ₂	M ₁	(M ₂)	(M ₂)	(C)	(M ₁)	(M ₂)	(M ₁)	(M ₂)	(M ₁)	(M ₂)		
57	7	1	×	M ²	×	×	○	/	/	○	/	○	○	P ¹	○	[×]	[×]	○	M ₃	M ₂	×	×	×	×		
			M ₃	M ₂	×	○	○	○	×	×	×	×	○	P ₂	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
57	7	2	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
57	8	1	M ³	M ²	M ¹	△	○	○	○	○	○	○	○	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³	M ₃	M ₂	M ₁	M ₂	M ₁	○		
			M ₃	M ₂	M ₁	P ₂	○	○	i ₂	○	i ₁	○	c	P ₁	P ₂	M ₁	M ₂	M ₃	M ₃	M ₂	M ₁	M ₂	M ₁	○		
57	8	2												○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	
														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	
57	9	1	○	(M ¹)	m ²	m ¹	c	i ²	(I ¹)	(I ¹)	(I ²)	c	m ¹	m ²	(M ¹)	○	(M ₁)	(M ₁)	(M ₁)	(M ₁)	(M ₁)	(M ₁)	(M ₁)	○		
			○	(M ₁)	m ₂	m ₁	c	i ₂	i ₁	(I ₁)	(I ₂)	c	m ₁	m ₂	(M ₁)	○	(M ₁)	(M ₁)	(M ₁)	(M ₁)	(M ₁)	(M ₁)	(M ₁)	○		
57	10	1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
					(m ₂)	○	(c)	(i ₂)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
57	一次葬	1	/	×	×	[×]	[×]	○	○	[×]	[×]	[×]	[×]	/	○	c	×	×	×	[×]	○	○	○	○	○	
			M ₃	[×]	[×]	[×]	[×]	[×]	[×]	[×]	[×]	[×]	[×]	/	○	c	×	×	×	[×]	○	○	○	○	○	○
不明	不明	不明																								
			M ₃	M ₂	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○											

第83表 骨に見られる変異等の観察表1

墓 No.	蔵骨器 No.	人骨 No.	部位	左右	変異種別	観察所見
1 脇 (13)	1	1	頸椎	—	骨棘	椎体腹縁に骨棘形成
			胸椎	—	骨棘	椎体腹縁に骨棘形成
			第1基節骨 (足)	L	骨棘	近位端に骨棘形成
2	一次葬	1	鎖骨	L・R	肥大	胸骨関節面側の骨体が上下に肥大
			橈骨	L	変形	外側面の一部に網目状の凹み
			寛骨	L・R	前耳状溝	比較的軽度の妊娠痕
8	一次葬	1	後頭骨	—	隆起	強位度の外後頭隆起の発達
			肩甲骨	L	変形	関節窩に一部網目状の凹凸
			第5中手骨	L	骨増殖	近位側の骨体の一部に骨増殖
9	2	1	腓骨	L	骨増殖	骨折痕
11	6	1	寛骨	L	変形	耳状面に変形
			脛骨	—	骨増殖	骨体に骨増殖
			外側楔状骨	R	骨棘	関節面に骨棘形成
14	1	一括	上腕骨	R	変形?	関節面に骨体変形
14	2	1	舟状骨 (足)	R	変形	骨体変形
14	2	1	上腕骨	L	変形	小結節稜に突起状の飛び出し
14	3	一括	胸椎	—	骨棘	椎体腹縁に骨棘形成
			第1中手骨	L	骨棘	関節に骨棘形成
			第2中手骨	L	骨棘	関節に骨棘形成
14	4	1	腰椎	—	骨棘	椎体腹縁に骨棘形成
			仙椎	—	骨棘	第1仙椎椎体腹縁に骨棘形成
14	5	2	脛骨	L	骨増殖	骨体下半外側を中心に骨増殖
			腓骨	L	骨増殖	上記脛骨に対応する位置に骨増殖
14	5	一括	腰椎	—	骨棘	椎体腹縁に骨棘形成
			中手骨	不明	変形	骨体の2カ所に凹み
14	6	1	鎖骨	R	変形	肩峰端側骨体下面に骨増殖および胸骨端側下面に炎症によるものと思しき凹み
14	6	2	寛骨	L・R	前耳状溝	極めて強度の深さ・幅を持つ溝状痕
14	6	一括	第4中手骨	R	変形	病変?
14	7	1	腓骨	L	変形	遠位端近くに骨折痕?
			椎骨	—	骨棘	椎体に骨棘形成
14	7	一括	第1基節骨 (足)	L	変形	外側に屈曲
			中節骨・末節骨 (足)	不明	癒合	1対の中節と末節が癒合
14	8	1	前頭骨	—	癒合異常	前頭縫合が未癒合のまま
14	8	2	脛骨	R	骨増殖	骨体上部外側に炎症痕と思しき骨増殖
			腓骨	R	骨増殖	骨体全体に骨増殖による変形
14	8	一括	腰椎	—	骨棘	3点の椎体腹縁ないし側縁に骨棘形成
14	埋土中	1	胸椎	—	変形	椎体側面に凹み
22	1	1	鎖骨	L	骨棘	骨体胸骨関節面側に鉤状の骨棘
			鎖骨	R	骨増殖	骨体の一部が膨張
			寛骨	L	前耳状溝	幅の狭い溝
			腰椎	—	骨棘	2点の椎体腹縁に骨棘形成
22	2	1	椎骨	—	骨棘	腰椎?に著しい骨棘形成
			腓骨	R	骨折痕	骨体中央やや下部に骨増殖による膨張、骨折痕
23	2	1	腸骨	R	前耳状溝	やや深めの溝を呈する
24	2	1	鎖骨	R	変形	肋鎖靭帯圧痕部に凹み
			腰椎	—	骨棘	椎体腹縁に比較的強度の骨棘形成
24	2	2	腰椎	—	変形	2点の椎体が板状に退縮・他の2点にも変異
			大腿骨	R	骨増殖	骨体上部背面の筋粗面が骨増殖
24	2	一括	脛骨	R	変形	ヒラメ筋線部が陥没
			頸椎	—	骨棘	椎体に骨棘形成
24	3	1	肋骨破片	不明	変形	肋骨体の複数個所に孔
			腰椎	—	変形	2点の椎体腹縁に変形
27	1	1	寛骨	L・R	前耳状溝	比較的幅が細く深さのある溝
			頭蓋骨	—	変形	前頭骨・頭頂骨の表面のみ著しい不整
27	4	1	腰椎	—	骨棘	椎体腹縁に強度の骨棘形成
			寛骨	L・R	前耳状溝	比較的深さのある明瞭な溝
27	9	1	腰椎	—	骨棘	椎体腹縁に骨棘形成
			寛骨	L・R	前耳状溝	幅は狭いが深さがある明瞭な溝
27	一次葬	1	鎖骨	L	骨増殖	骨体中央が膨張
			頸椎	—	骨棘	椎体側縁に骨棘形成
			胸椎	—	骨棘	椎体腹縁に骨棘形成
			腰椎	—	骨棘	椎体腹縁に骨棘形成
27	一次葬	2	尺骨	R	骨棘	肘頭に突起状の棘が形成
			腰椎	—	骨棘	椎体腹縁に骨棘形成
28	4	1	寛骨	L	変形	寛骨臼底部が網目状に変形
32	4	1	膝蓋骨	L	骨棘	骨棘形成

第84表 骨に見られる変異等の観察表2

墓 No.	蔵骨器 No.	人骨 No.	部位	左右	変異種別	観察所見
35	4	1	上腕骨	L	変形	近位端が著しく変形
47	1	1	頭蓋骨	—	変形	プレグマ周辺が凹む
47	2	1	腰椎	—	骨棘	2点の椎体腹縁に骨棘形成
47	3	2	頭蓋骨	—	早期癒合?	冠状縫合のみ癒合が進行 矢状縫合が陥没 頭頂~後頭骨にかけて小孔
			第5中足骨	R	変形	近位端が篩状に変形
47	3	一括	頸椎	—	骨棘	突起関節面に骨棘形成
			基節骨(手)	不明	変形	4点の遠位端がやや変形
			中節骨(手)	不明	骨棘	1点の近位端に骨棘形成
			基節骨(足)	不明	変形	1点の近位端・2点の遠位端が変形
47	4	1	頭頂骨	—	変形?	平坦化している
48	2	1	腰椎	—	骨増殖	棘突起が剥離および骨増殖
48	3	1	腸骨	R	前耳状溝	比較的広い幅を持つ溝
48	5	1	腰椎	—	骨棘	椎体腹縁に若干の骨棘形成
48	6	1	腸骨	L・R	前耳状溝	幅が広く明瞭な溝
			脛骨	L	骨増殖	残存している骨体全部が膨張
			腓骨	L	骨増殖	近位端近くを除く骨体が膨張
			中手/中足骨	不明	変形?	近位端に変形?
49	1	1	寛骨	L	前耳状溝	欠損の為、左のみに僅かに確認される
			脛骨	R	骨棘	近位側骨体後面に骨棘形成
49	1	2	前頭骨	L・R	クリブラオルビタリア	比較的軽度の小孔群
49	2	1	前頭骨	L・R	クリブラオルビタリア	重度の小孔群
49	3	1	下顎骨	L	変形	下顎体内側M ₃ 下位置に凹み
49	3	2	鎖骨	R	強度の発達	肋鎖靭帯圧痕が強度に発達
57	1	1	下顎角	L・R	強度の発達	下顎角の発達が強度
			M	L	特殊摩耗	全体的にそれ程咬耗が進んでいないが、左の
			M ₁	L	特殊摩耗	上下M ₁ の摩耗が激しい
			腰椎	—	骨棘	腹面側の椎体幅が退縮及び骨棘形成
			橈骨	R	変形	遠位端上部内側に凹み
57	2	1	寛骨	L・R	前耳状溝	比較的微弱な痕跡
			腰椎	—	骨棘	椎体腹縁に骨棘形成
57	2	2	前頭骨	—	癒合異常	眉弓間に未癒合で残存
			前頭骨+頭頂骨	—	癒合異常	冠状縫合早期癒合?
57	3	1	頬骨	R	変異	外側表面が網目状
57	4	1	頭頂骨	R	クリブラクラニイ	ラムダ縫合付近に小孔が密集
57	6	1	前頭骨	—	癒合異常	眼窩間に前頭縫合が一部残存
			前頭骨	L・R	クリブラオルビタリア	比較的密度の高い小孔群
			後頭骨	L	クリブラクラニイ	ラムダ縫合付近に小孔が密集
			胸椎	—	変形	椎体腹面に溝状の凹み
			第1中手骨	R	変形	近位端付近の骨体に孔が貫通
57	7	1	橈骨	L	変形	遠位端に病変?
			尺骨	L	変形	遠位端に病変?
			手根骨	L・R	癒合	有頭・有鉤・舟状・月状・三角骨が癒合
			第2中手骨・小菱形骨	L	癒合	両者が癒合
			第3中手骨	R	骨増殖	近位端が骨増殖して変形
57	7	2	第4中手骨	R	骨増殖	近位端が骨増殖して変形
			寛骨	R	骨増殖	寛骨臼に骨増殖
			大腿骨	R	骨増殖	大腿骨頭に骨増殖
			脛骨	R	骨増殖	遠位端関節面が骨増殖により変形
			腓骨	R	骨増殖	外顆関節面に骨増殖
			距骨	R	骨増殖	上面に篩上の小孔と骨増殖
57	7	一括	椎骨	—	骨棘	椎体腹縁に骨棘形成
57	8	1	鎖骨	R	変形	肋鎖靭帯圧痕に凹み
57	8	2	全て	—	火葬骨	被熱による変形
57	9	1	上腕骨	L・R	骨増殖	近位側骨幹に骨増殖
57	一次葬	1	頸椎	—	骨棘	椎体腹縁に骨棘形成
			胸椎	—	骨棘	椎体腹縁にわずかに骨棘形成
			腰椎	—	骨棘	椎体腹面に骨棘形成
			脛骨	R	骨棘	ヒラメ筋線に骨棘形成

第85表 齶歯一覧表1

墓No.	蔵骨器 No.	人骨 No.	歯種	左右	位置	所見
14	1	一括	C (上顎)	R	頬側面	—
			M ²	R	遠心面	—
			M ³ ?	L	咬合面	—
			M ³ ?	R	頬側・近心・遠心面	—
14	3	一括	C (下顎)	L	頬側面	—
14	5	3	m ₂	R	咬合面	径1mm未満の小孔
14	6	2	M ¹	L	近心面	いずれも歯根面齶蝕が認められ、M ₂ が最も強度に浸食されている。
			M ₁	L	遠心面	
			M ₂	L	近心・頬側面	
			M ₃	L・R	頬側面	
14	8	2	M ₁	R	頬側面	歯根の大部分を齶蝕で焼失
22	2	1	I ¹	L・R	唇側	歯根上部を齶蝕
			M ¹	R	近心・遠心面	両面の歯根上部に齶蝕
			M ²	R	近心・遠心面	両面の歯根上部に齶蝕
24	2	1	I ²	L	唇側面	歯冠に径1mm以下の小孔
			P ¹	R	頬側面	歯冠下部のエナメル質を齶蝕
			M ²	L	遠心面	歯冠下部を大幅に齶蝕
			M ₁	L	頬側面	1mm未満の小孔
			M ₁	R	咬合面	1~2mm程度の小孔
			M ₂	R	頬側面	歯冠から歯根にかけて齶蝕
			M ₃	L	咬合面	径1mm程度の小孔
24	2	2	P ²	R	遠心面	—
24	3	1	P (下顎)	不明	近心/遠心面	—
			I ²	R	頬側面	—
			M ¹	L	遠心・近心・舌側面	—
			M ¹	R	近心・舌側面	—
			M ²	L	遠心・咬合面	—
24	4	1	M ²	R	遠心・頬側面	—
			i ¹	L	唇側面	歯冠下部に溝状の齶蝕
			i ¹	R	唇側・遠心面	歯冠に小孔
			i ²	L	唇側面	歯冠上部1/3程度を齶蝕
			i ²	R	唇側・舌側面	歯冠中下部に溝状の齶蝕
			c (上顎)	L	頬側・舌側面	咬合面に2mm程度の孔
			c (上顎)	R	頬側面	歯冠に小孔
			m ¹	L	咬合・頬側面	咬合面の2/3程度を齶蝕
m ¹	R	咬合・近心面	咬合面に1mm以下の小孔			
27	4	1	P ₂	L	舌側面	—
27	9	1	P ₂	R	歯冠	齶蝕により歯冠全体消失
			C (上顎)	L	唇側面	—
27	10	1	C (下顎)	R	唇側面	—
			i ²	L・R	唇側面	歯冠のエナメル質の大半が齶蝕
			c (上顎)	L	咬合面	歯冠の大部分が齶蝕で消失
			c (上顎)	R	唇側・遠心面	歯冠にそれぞれ小孔
			m ¹	L・R	近心・遠心面	それぞれ隣歯との接触部に小孔
			m ²	L	近心・遠心面	隣歯との接触部に小孔
			m ²	R	近心面	隣歯との接触部に小孔
			i ₂	L・R	唇側面	歯冠下部が齶蝕
			c (下顎)	L・R	唇側~遠心面	歯冠下半が齶蝕
			m ₁	L	近心・遠心・頬側面	隣歯との接触部及び頬側に小孔
			m ₁	R	近心~頬側・遠心面	頬側を中心に溝状に齶蝕
			m ₂	L	近心~舌側面	小孔状の齶蝕
27	一次葬	1	C (下顎)	R	唇側面	—
28	4	1	M ₂	L	側面	—
			M ₃	L	頬側面	—
			M ₂	R	遠心面	—
32	1	1	M ₂	L	舌側面	—
35	2	2	i ¹	L・R	近心・遠心面	—
			i ²	不明	全体的	—
			i ₂	L・R	全体的	—
35	4	1	c (下顎)	L・R	全体的	—
35	5	1	M (下顎)	R	頬側面	—
			I ¹	L	近心面	—
			P ₁	R	頬側面	—
			M ₂	L	頬側面	—
35	9	1	I ¹	R	近心面	—
			I ¹	R	舌側面	—

第86表 齶歯一覧表2

墓No.	蔵骨器No.	人骨No.	歯種	左右	位置	所見
45	1	1	m ¹	L	近心面	歯冠に径3mm程度の孔
			m ²	R	咬合面	径1mm以下の小孔
46	1	1	M ₂	L	舌側面	歯冠に1mm以下の小孔
47	1	1	I ²	L	近心?舌側?面	—
47	2	1	P ₁	L・R	頬側面	歯冠から歯根にかけて齶蝕
			P ₂	L	頬側面	歯冠から歯根にかけて齶蝕
			M ₁	L・R	舌側面	歯根上部を大きく齶蝕
			M ₂	L・R	舌側面	歯根上部を径1~2mm齶蝕
			M ₃	L	歯冠全体	歯冠が全て齶蝕により消失
47	3	1	P ¹	R	近心面	歯冠下部に孔
			M ₃	L	頬側面	エナメル質を残し頬側歯冠歯根を大きく齶蝕
47	3	2	I ¹	L	近心面	歯冠下部に孔
			P ₂	L	遠心面	歯根上部に孔
			M ₁	L	近心・遠心面	両面の歯根上部に孔
			M ₂	L	近心面	歯根上部に孔
			M ₂	R	近心・頬側面	近心から頬側にかけて歯根上部を齶蝕
48	2	1	I ¹	R	咬合面	歯冠内部を齶蝕
			I ²	R	咬合面	歯冠内部を齶蝕
			C (上顎)	L	近心面	歯根上部に径3mm程の孔
			M ₃	R	咬合・遠心~頬側・近心面	咬合面に小孔・歯根上部に溝状の齶蝕
			M ¹	L	遠心面	歯根上部に径5mmの孔
48	5	1	P ₁	R	近心面	歯根上部に小孔
			P ₂	R	遠心面	歯冠に2mm程度の孔
			M ₁	R	近心面	歯根上部に径4mm・3mmの楕円状孔
49	2	1	I ¹	L	近心面	歯冠下部に小孔
			I ¹	R	近心・遠心面	近心歯冠上部・遠心歯冠下部に小孔
57	1	1	M ²	L・R	咬合面	中央に小孔
57	2	1	I ₂	L	唇側面	歯冠下部に小孔
			P ₂	L	遠心面	歯根上部に孔
57	2	2	M ²	R	咬合面	歯冠がほぼ全て齶蝕により消失
			M ₂	R	咬合面	歯冠がほぼ全て齶蝕により消失
57	5	1	i ₁	L・R	唇側面	歯冠唇側面のエナメル質が大きく齶蝕
			i ₂	L・R	唇側面	歯冠唇側面のエナメル質が齶蝕
			m ₁	L	咬合・頬側面	咬合面2カ所の孔及び頬側エナメル質の齶蝕
			m ₁	R	咬合面	2カ所に小孔
57	6	1	I ¹	R	遠心面	歯冠に小孔
			I ²	R	唇側面	歯冠に小孔
			c (上顎)	L	全体的	歯冠全体を齶蝕
			c (上顎)	R	近心・唇側面	歯冠表面を齶蝕
			m ¹	L	咬合面	歯冠全体を齶蝕
			m ²	L	咬合面・頬側面	咬合面全体齶蝕・歯冠頬側面を溝状に齶蝕
			M ¹	L・R	咬合面	咬合面の中心に小孔
			I ₁	L	遠心面	歯冠に小孔
			I ₂	L・R	唇側面	歯冠に小孔
			c (下顎)	R	唇側面	歯冠最下端に小孔
			m ₂	L	咬合面	歯冠全体を齶蝕
57	7	1	M ₁	L・R	咬合面	歯冠がエナメル質以外ほぼ齶蝕
			P ¹	L	咬合面	歯冠が齶蝕によりほぼ消失
			P ₂	L	近心・遠心面	歯冠下部に孔
57	9	1	M ₃	R	咬合面	歯冠がほぼ全て齶蝕により消失
			c (上顎)	L・R	舌側面	小孔状の齶蝕が2箇所ずつ
			m ¹	L・R	咬合面	咬合面の大半が齶蝕
			m ²	L・R	咬合面	小孔状の齶蝕
			m ₁	L・R	咬合面	左はエナメル質以外の歯冠部が齶蝕
57	一次葬	1	m ₂	L・R	咬合面	歯冠がエナメル質以外ほぼ齶蝕
57		1	M ₃	R	近心面	歯冠下部に孔

第87表 下顎犬歯に観察されるエナメル質減形成一覧表1

墓No.	蔵骨器No.	人骨No.	LR	出現数	類型	歯冠最下端からの距離(mm)	ストレス受容推定年齢(歳)	備考
2	埋土中	1	R	2	線状 線状	3.1 2.0	4.5~5.0 5.0~5.5	遊離歯
4	5	1	R	1以上	線状	不可	不明	遊離歯、歯冠形成中
11	4	一括	L	2	線状 不明	7.3 3.3	2.5~3.0 4.5~5.0	遊離歯
14	1	3	L	1	線状	不可	不明	遊離歯、歯冠形成中
14	3	一括①	L	2以上	線状	不可	不明	遊離歯、齶蝕により計測不可
14	5	3	R	2	線状 小窩状	6.5 2.3	3.0~3.5 5.0~5.5	未萌出
14	8	1	L	2	線状 線状	3.3 2.0	4.5~5.0 5.0~5.5	遊離歯、縦にも線状の溝が見られる
14	8	2	L	3	線状 小窩状 小窩状	3.1 1.9 0.6	4.5~5.0 5.5前後 6.0~6.5	
15	埋土中	1	R	2	線状 小窩状	3.6 2.2	4.5~5.0 5.0~5.5	
16	埋土中	一括	R	2	線状 線状	3.4 1.8	4.5~5.0 5.5~6.0	
24	2	1	L	4	線状 線状 線状 線状	7.2 5.2 3.7 2.5	2.5~3.0 3.5~4.0 4.5前後 5.0~5.5	残存歯
27	3	2	L	1	線状	不可	不明	遊離歯、歯冠形成中
27	4	3①	L	2以上	線状	不可	不明	遊離歯、歯冠形成中
27	4	3②	L	2以上	線状	不可	不明	遊離歯、歯冠形成中
27	5	一括	L	5	線状 線状 小窩状 線状 線状	4.9 3.4 2.4~3.4 2.4 1.5	3.5~4.0 4.5~5.0 4.5~5.5 5.0~5.5 5.5~6.0	遊離歯
27	一次葬	1	L	5	線状 線状 線状 線状 線状	7.4 5.5 4.9 3.5 2.5	2.5~3.0 3.5~4.0 3.5~4.0 4.5~5.0 5.0~5.5	残存歯
35	5	1	R	3	線状 線状 小窩状	5.9 4.5 1.6	3.0~3.5 4.0~4.5 5.5~6.0	遊離歯
35	10	1	L	6	線状 線状 線状 線状 線状 線状	7.1 6.3 5.4 3.6 2.4 1.5	2.5~3.0 3.0~3.5 3.5~4.0 4.5~5.0 5.0~5.5 5.5~6.0	遊離歯
35	埋土中	一括	L	6	線状 線状 線状 線状 線状 線状	8.5 6.5 4.7 3.7 2.3 1.0	2.0前後 3.0~3.5 4.0前後 4.5~5.0 5.0~5.5 6.0前後	歯根未形成
47	2	1	L	5	線状 線状 線状 線状 線状	5.5 4.6 3.1 1.9 1.0	3.5~4.0 4.0~4.5 4.5~5.0 5.5前後 6.0前後	

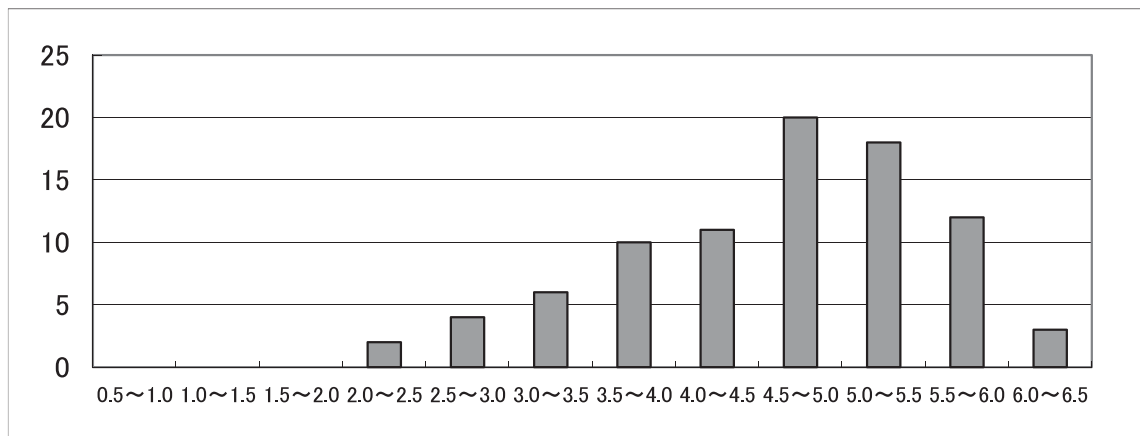
※類型・計測・ストレス受容年齢推定は山本1987に従っている

第88表 下顎犬歯に観察されるエナメル質減形成一覧表2

墓No.	蔵骨器No.	人骨No.	左右	出現数	類型	歯冠最下端からの距離(mm)	ストレス受容推定年齢(歳)	備考
47	3	2	L	3	線状 線状 線状	3.9 3.0 1.9	4.0~4.5 4.5~5.0 5.5前後	残存歯
48	1	一括	R	2以上	線状 線状	不可	不明	遊離歯、歯冠形成中
48	2	1	L	4	線状 線状 線状 線状	4.0 3.0 1.8 1.0	4.0~4.5 4.5~5.0 5.5~6.0 6.0前後	
48	5	1	R	2	線状 線状	2.0 1.2	5.0~5.5 5.5~6.0	
48	6	1	L	3	線状 線状 線状	3.4 1.7 0.5	4.5~5.0 5.5~6.0 6.0~6.5	遊離歯
49	1	1	R	2	線状 小窩状	3.5 2.2	4.5~5.0 5.0~5.5	
49	2	1	L	2	小窩状 線状	4.6~2.2 2.2	4.0~5.5 5.0~5.5	
49	3	2	R	2	線状 線状	5.1 4.0	3.5~4.0 4.0~4.5	
57	1	1	L	4	線状 線状 線状 線状	5.6 4.0 2.9 1.9	3.5~4.0 4.0~4.5 5.0前後 5.5前後	
57	2	2	R	3	線状 線状 線状	4.7 3.6 1.1	4.0前後 4.5~5.0 5.5~6.0	
57	7	1	L	5	線状 線状 線状 線状 小窩状	5.7 5.1 4.1 3.1 1.4	3.5前後 3.5~4.0 4.0~4.5 4.5~5.0 5.5~6.0	残存歯
57	8	1	L	3	線状 線状 線状	7.9 6.0 4.4	2.0~2.5 3.0~3.5 4.0~4.5	
57	一次葬	—	L	3	線状 線状 線状	4.4 2.2 0.9	4.0~4.5 5.0~5.5 6.0前後	中央の線の上下に縦方向の線状溝が入る

※類型・計測・ストレス受容年齢推定は山本1987に従っている

第89表 エナメル質減形成出現位置に基づくストレス受容推定年齢分布表



第7章 総括

前田・経塚近世墓群の経塚子の方原地区 A 丘陵で行った発掘調査で検出された 61 基の墓の調査成果について、それぞれの墓ごとに遺構や遺物の詳細について報告を行った。最後に、それぞれの成果をもとに下記の項目において総括を行い、本書のまとめとしたい。

1. 遺跡の立地と墓口方位について

経塚子の方原地区 A 丘陵は、浦添市経塚の南端に位置し、南に接する那覇市と隣接する小字である。A 丘陵は東西に細長く伸びる丘陵で、土質は、細粒砂岩（方言名：ニービ）が主体であるが、部分的には第三紀泥岩層（方言名：クチャ）を挟み互層となっていた。本丘陵に所在する墓は、このような丘陵に横穴を掘りこんで造られた掘込墓（方言名：フィンチャー）と、それを基本に改修を施して造られたと考えられる亀甲墓が確認された。横穴墓が丘陵の上下段に幾層にもつくられている形態は、周辺に所在する「前田・経塚近世墓群」の他の地区の様相と同様である。全体を通して、泥岩層が厚く堆積している箇所には墓は所在せず、細粒砂岩の層に多く所在していることから、この細粒砂岩層が墓を造るのに適していたと考えられる。また、この傾向は同遺跡の他の地区でも同様である（浦添市教育委員会 2013）。

墓口方位については、本調査地区については全体的に北向きが多い。しかし、これについては地形的な要因であると考えられる。本地区は東西に伸びる丘陵の北側斜面であり、丘陵の北側斜面に横穴を掘り込んだ場合には、必然的に墓口は北向きになる。同じ丘陵の南側斜面の一部についても過去に調査を行ったが、その時には墓口は南向きが多かった（浦添市教育委員会 2011）。そのときに検出された墓は、今回の調査で検出された墓より比較的新しい墓が多く、明治・大正・昭和期のものがほとんどであった。このことから、墓地としての利用は丘陵の北側斜面において早く始まり、近代になると南側斜面にまで広がる可能性が想定されるが、南側斜面については調査範囲が一部であるため断言はできない。

2. 遺構の特徴と墓域の形成について

今回の調査で確認された遺構は、東側地区で確認された二基の亀甲墓を除いて全てが横穴式の掘込墓であった。遺構の形態については、概ねこれまで調査されてきたものと同様のタイプが多い。また、上下段にわたって造営されることも、これまで確認されていた様相と同様である（第 1 表参照）。その規模については、西側地区が比較的小規模な墓が多く、墓室内に棚が形成されるものが少ないのに対して、東側地区の特に東よりの一帯については、亀甲墓や掘込墓でも比較的規模の大きなものが多く、墓室内に棚が造られるものが多い傾向が確認された。

遺構の時期については、蔵骨器などから判断すると、西側地区では 004 号墓、008 号墓、011 号墓、014 号墓、016 号墓、020 号墓、023 号墓、東側地区では 032 号墓、048 号墓などの遺構で、上限が概ね 1700 年代の中頃から 1800 年代初頭の資料が確認される。1700 年代の前半に比定出来る資料は確認さ

れていない。つまり、1700年代中頃以降に調査区の全域に点在する形で墓域の形成が始まったと考えられる。その後、その間を埋める形で墓が造営され続け徐々に墓が群をなす状況になったと考えられる。

東側地区の墓については、033号墓や036号墓、039号墓などのように近現代に改築されたと考えられるものも多く、西側地区よりも墓地として機能していた時期がより長いものが多いと考えられる。東側地区の墓には、大型の墓を中心に開発に伴い移転が完了し、結果として空き墓となっているものが多いこともそのこと裏付ける。西側地区については、地質の影響かいつの時期かに、崩落によりそのほとんどが埋没したものと考えられる。中でも、001号墓、002号墓、027号墓、057号墓のように戦前まで機能していたと考えられる墓もあるが、その間を縫って戦時中に造営された壕と思われる遺構も検出されており、それらの墓もほとんどは壕とともに沖縄戦の前後で崩落し埋没したと考えられる。

3. 遺物の特徴と年代観について

今回の調査では、多くの蔵骨器をはじめとした遺物が出土した。遺物の全体的な傾向として、時代性は、概ね1700年代以降から近現代のものが出土している。そのうち特徴をいくつか抽出してみたい。

まず、蔵骨器については、ほぼ陶製の甕形であることが特徴である。今回出土した甕形の蔵骨器をみると、比較的古いものはボージャ形で、安里編年のⅢ類もしくはⅤ類の資料が最も古手のものである。これらについては、主に1700年代中頃から1800年代初頭にかけて流通したものと考えられている（安里・新里 2006）。また、今回の出土資料の多くはマンガン釉甕形であり、これらについては、1700年代後半から1800年代にかけて流通し、近代以降は主流になる資料である（安里 1997）。これらの各時期の資料が網羅的に出土していることから、上記の時期には継続的に墓が機能していたことが明らかである。また、上記のことを裏付ける銘書も多く確認されていることから、この時期の蔵骨器の編年研究に寄与できる資料も多いと考えられる。特に、ボージャ形の終末期のタイプもしくはマンガン釉甕形の定型化する前のものと考えられる資料がいくつか確認されており、これらについては今後の型式学的研究における基礎資料として活用することができるものと考えられる。

今回の調査では、蔵骨器以外にも副葬品と考えられる多くの遺物が検出されている。通常墓については、数世代間にわたり追葬が行われるため、遺物の年代観に幅がある傾向があるが、今回の調査では埋没墓が多かったためか、墓単位では比較的年代観にまとまりがみられた。また、002号、008号、027号、057号墓で一次葬人骨に伴う共伴遺物や035号墓の墓庭土坑（SK01）から一括遺物が確認できたことは特筆される成果である。今回出土した遺物の産地については、陶器（蔵骨器を含む）のほとんどは、沖縄産のもので壺屋焼がほとんどである。数点は本土産磁器などもみられるものの、その量は相対的に少ない。

4. 一次葬人骨からみえる葬法について

今回の調査区では、埋没墓から多くの蔵骨器や一次葬人骨が検出された。このことから、基本的には一次葬を行い、洗骨後に蔵骨器に納めるという葬法を行っていたことがわかる。今回の調査成果から、特に一次葬の形態について注目してみたい。今回の調査では、002号墓・008号墓・027号墓・

057号墓から洗骨前の一次葬人骨が埋没した状況で確認された。これらは全て墓室内のシルヒラシに安置されており、洗骨後の蔵骨器を安置する空間と同じ場所で一次葬が行われていたことがわかる。002号墓については、蔵骨器が確認されていないが、墓室内に棚が形成されていることから、おそらく洗骨後には蔵骨器に納められて棚に安置されただろうと推測される。比較的状态が良い、002号墓、008号墓、057号墓の人骨の四隅付近に石が配置されていることから、これらは木棺の台石であると考えられ、木棺に手足を折り畳まれた状態で仰向けに安置されていたものと考えられる。008号墓以外は墓口方向に直交する方位に安置されていた。

また、今回の調査では、一次葬人骨に伴う形で多くの副葬品を確認することができた。002号墓では頭骨の横に陶器製の徳利が安置され、足袋の金具であるこはぜが出土していることから、足袋を履かせた状態で安置されたものと考えられる。また、008号墓では、002号墓と同様に頭骨横に陶製の徳利が置かれ、頭部に簪、腹部付近にキセルが伴っていることから、これらを副葬する形で安置されたことがわかる。027号についても頭骨の横に磁器製の小杯とガラス製の瓶がセットで出土していることから、これらを人骨に副葬したものと考えられる。また、027号墓の洗骨後の骨を納めた蔵骨器4からは指輪が出土しており、これらも副葬されたものと考えられる。057号墓からも、キセルや陶器の瓶や水注などが人骨に伴って出土している。特に057号墓の水注は、普通の製品よりも一回り小さいもので、墓に副葬することを目的に造られた製品である可能性がある。また、035号墓からは、墓庭の土坑(SK01)より木でつくられた鏡や櫛の模造品と思われるものも出土している。

上記の墓については、遺物から若干の年代差があると考えられるが、頭骨の横に徳利や瓶を配置することや、簪やキセルなどが共通すること、また模造品と思われる製品を副葬する点からは、葬法における特定の形式があったと考えることができる。

5. まとめ

最後に、今回の調査地区で確認された墓群全体の評価を行い、上記の事項をふまえまとめとしたい。今回、経塚子の方原A丘陵の調査を行った結果、これまでに実施した前田・経塚近世墓群の調査成果と多くの共通点が認められることから、一連の墓群であることが確認された。この地区は、近世から近代にかけて士族層が最も多く居住する首里に近い地域であることから、その影響が多く認められることが想定されたが、蔵骨器の銘書の分析により、首里士族と百姓の墓が併存している様相や、上級士族や王族の側室など様々な階層の墓があることが確認されたことで、これまでより具体的な様相が明らかになった点は特筆される成果である。今後、居住域と墓域の関係やそこに関わった人々の具体的な検討する上で貴重な成果となろう。

また、今回の調査区は、埋没墓が多く遺物の残存状況が良好な墓が多かったことも特徴である。このことから、1700年代中頃から戦前までの陶製の甕形蔵骨器が網羅的に確認されたことや、一次葬人骨も四基の墓で確認することができた点では、当時の葬法を考える上で重要な情報となりえるものである。これらは、遺物の考古学的な研究のみならず、当時の墓制・葬制を考える上で多くの学問分野にもフィードバックできる貴重な事例であると考えられる。また、蔵骨器の中や一次葬時の多くの人骨が良好な状態で検出されたことから、それらについて分析を行い多くの形質的なデータを得ることができた。これらのデータは近世から近代を通じた人々の形質を知るための貴重なデータとして今後

の研究に寄与できるものと考えられる。

これらの成果は、今後の前田・経塚近世墓群の成果を集約していく中での比較資料として重要な意味を持つとともに、資料が少ない琉球・沖縄における近世から近代・現代に至るまでの墓制・葬制の変遷を考える上でも重要な成果である。経塚子の方原 A 丘陵の下半部については、現在資料整理中である。同丘陵における諸特徴の抽出については、それらの成果をあわせて行う必要がある。今後の課題としたい。

〈引用・参考文献〉

安里進 1997 「伊祖の入れ御拝領墓の厨子甕と被葬者-近世墓の考古学的調査による家族復元-」 『伊祖の入れ御拝領墓の厨子甕と被葬者-近世墓の考古学的調査による家族復元-』 浦添市文化財調査研究報告書第 25 集

安里進・新里まゆみ 2006 「比嘉門中墓の家族史 - 家族の数だけ歴史がある - 」 『比嘉門中墓の家族史 比嘉門中墓の調査概要』 浦添市文化財調査研究報告書 浦添市教育委員会

仁王浩司 2009 「墓から出土する古典焼」 『壺屋焼物博物館紀要』

浦添市教育委員会 2011 『前田・経塚近世墓群 2』

浦添市教育委員会 2013 『前田・経塚近世墓群 3』

写真図版



1 調査区西側1地区（東から）



2 調査区西側1・2地区（西から）



3 調査区東側（北から）

図版1 遺跡全景



1 001号墓遺物検出状況



2 001号墓脇墓1 (013号墓) 遺物検出状況



3 001号墓脇墓2 (018号墓)

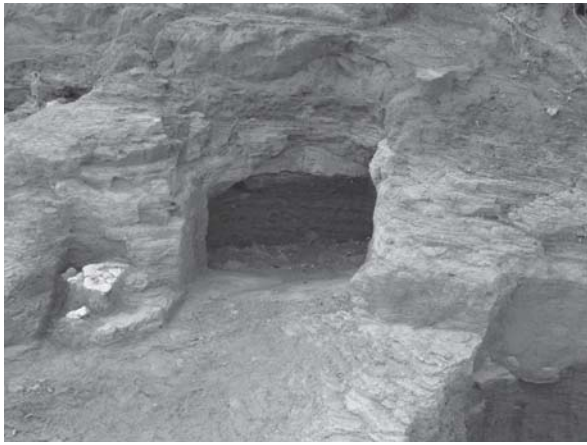


4 002号脇墓1 (019号墓)

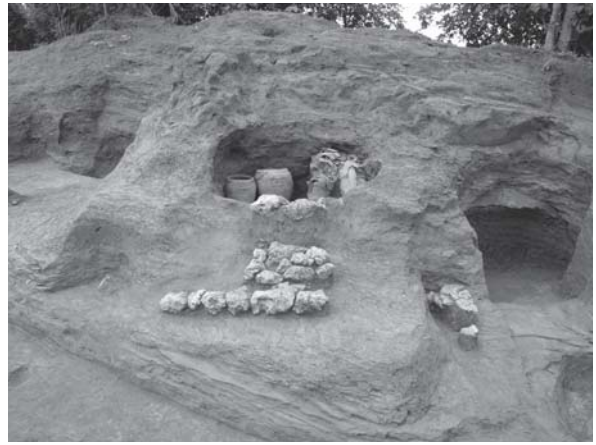


5 002号一次葬人骨検出状況

図版2 001号墓・002号墓遺構



1 003号墓検出状況



2 004号墓検出状況1



3 004号遺物検出状況



4 005号墓検出状況

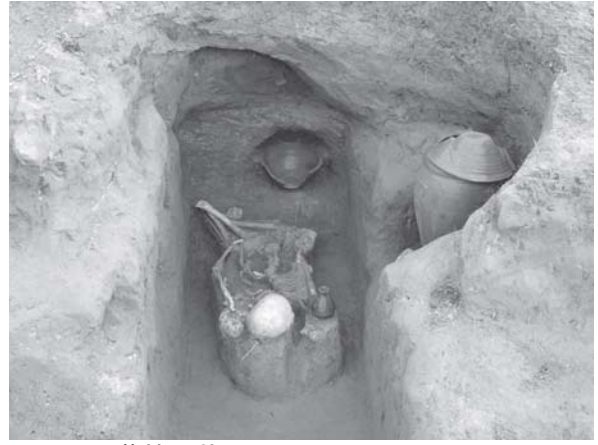


5 006号墓検出状況

図版3 003号墓から006号墓遺構



1 007号墓検出状況



2 008号墓検出状況1



3 008号遺物検出状況2



4 009号墓検出状況1

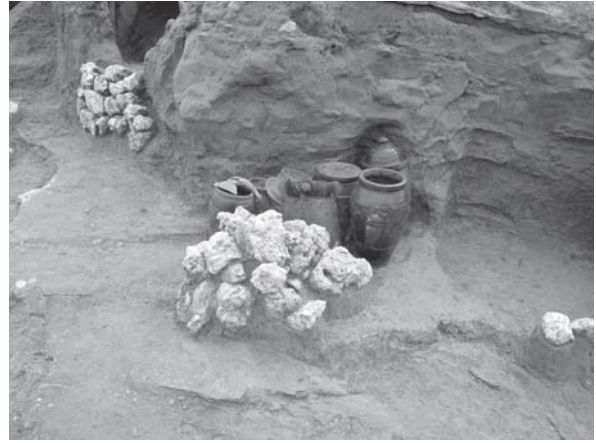


5 009号墓検出状況2

図版4 007号墓から009号墓遺構



1 010号墓検出状況



2 011号墓検出状況1



3 011号墓検出状況2



4 012号墓検出状況



5 014号墓検出状況

図版5 010号墓から014号墓遺構



1 015号墓検出状況1



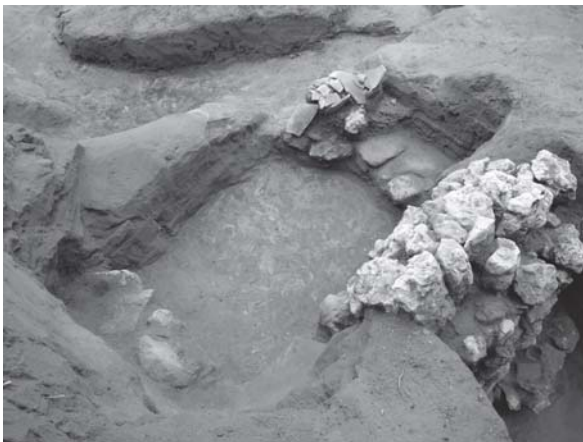
2 015号墓検出状況2



3 016号墓検出状況



4 017号墓検出状況



6 020号墓検出状況



6 022号墓検出状況



7 023号墓検出状況



8 024号墓検出状況

図版6 015号墓から024号墓遺構



1 025号墓検出状況1



2 025号墓検出状況2



3 026号墓検出状況



4 027号墓検出状況1



5 027号墓検出状況2

図版7 025号墓から027号墓遺構



1 027号墓検出状況3



2 027号墓検出状況4

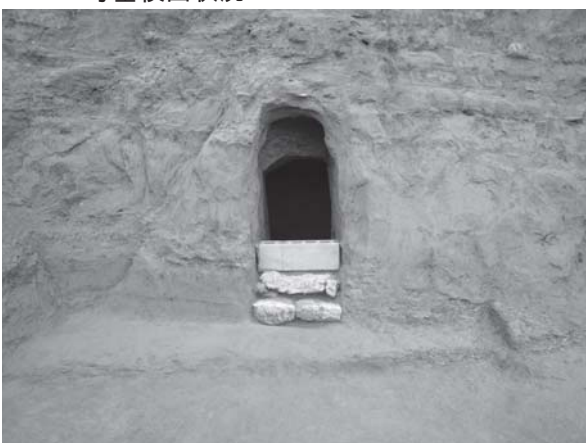
図版8 027号墓遺構



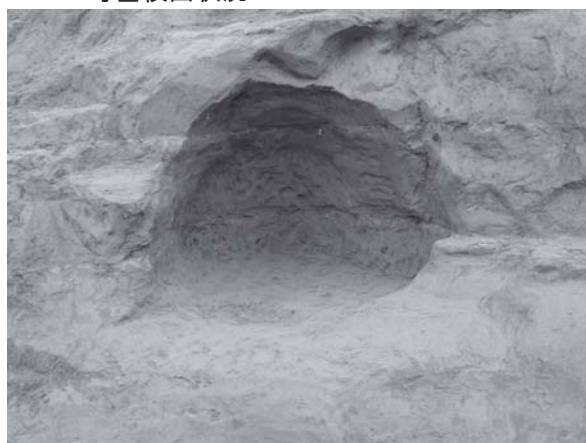
1 028号墓検出状況1



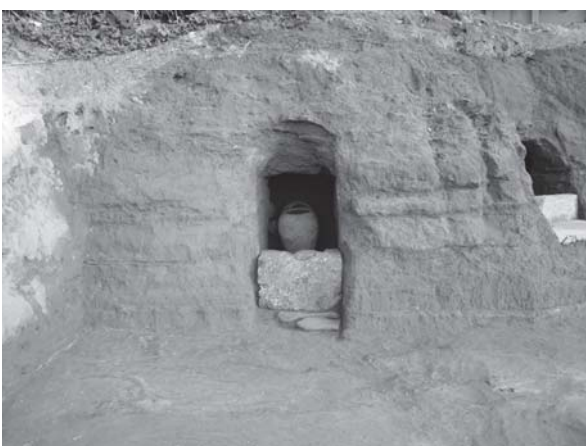
2 028号墓検出状況2



3 030号墓検出状況



4 031号墓検出状況



5 032号墓検出状況1



6 032号墓検出状況2



7 033号墓検出状況1



8 033号墓検出状況2

図版9 028号墓から033号墓遺構



1 034号墓検出状況1



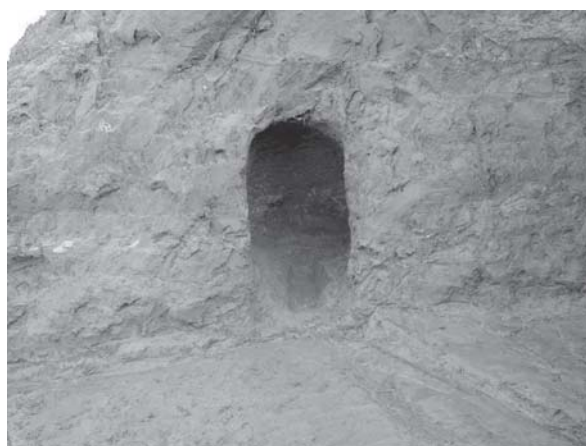
2 034号墓検出状況2



3 035号墓検出状況1



4 035号墓検出状況2



5 035号墓脇墓 (021号墓) 検出状況

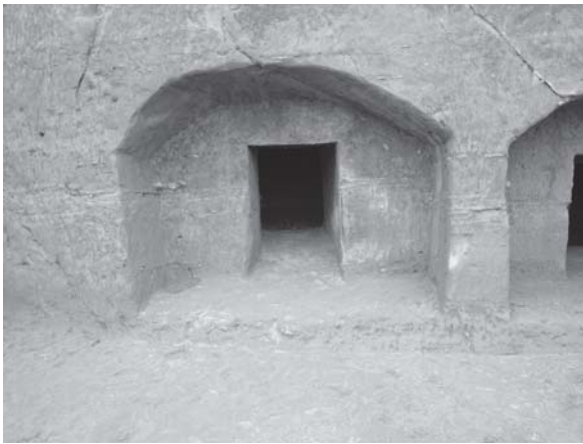
図版10 034号墓・035号墓遺構



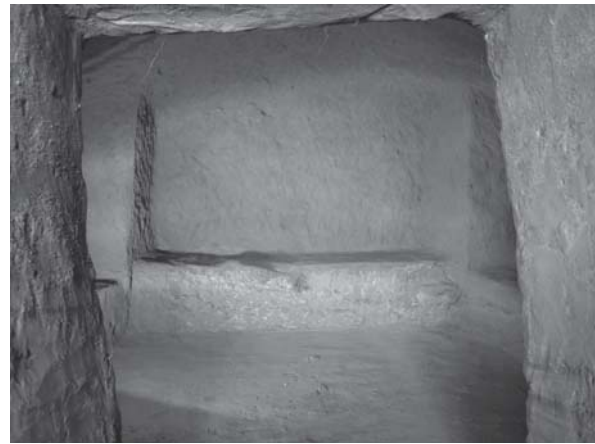
1 036号墓検出状況



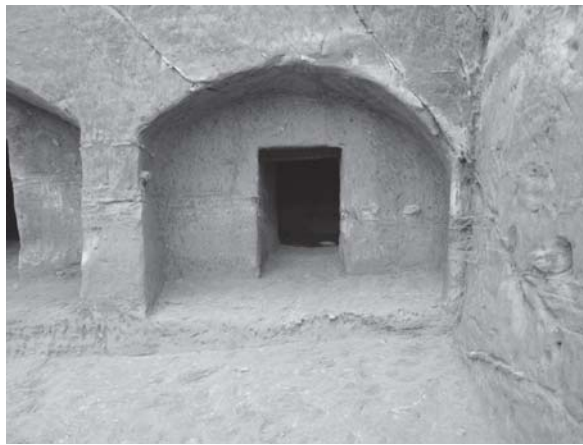
2 036号墓下の壕入口検出状況



3 037号墓検出状況1



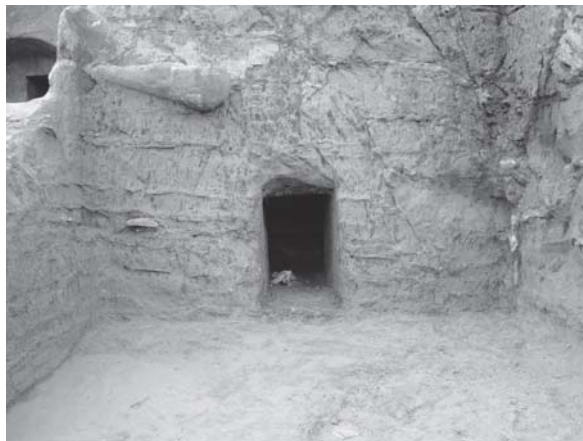
4 037号墓検出状況2



5 038号墓検出状況1



6 039号墓検出状況



7 040号墓検出状況1



8 040号墓検出状況2

図版11 036号墓から040号墓遺構



1 041号墓周辺検出状況



2 041号墓検出状況



3 042号墓検出状況



4 042号墓脇墓（029号墓）検出状況



5 043号墓検出状況



6 044号墓検出状況

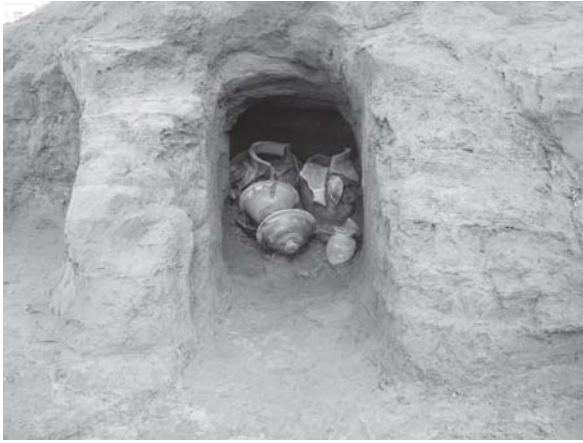


7 045号墓検出状況



8 046号墓検出状況

図版12 041号墓から046号墓遺構



1 047号墓検出状況



2 048号墓検出状況



3 049号墓検出状況



4 050号墓検出状況



5 051号墓検出状況1



6 051号墓検出状況2



7 051号墓脇墓 (053号墓) 検出状況



8 052号墓検出状況 (左: 042号墓, 右052号墓)

図版13 047号墓から052号墓遺構



1 054号墓検出状況1



2 054号墓検出状況2



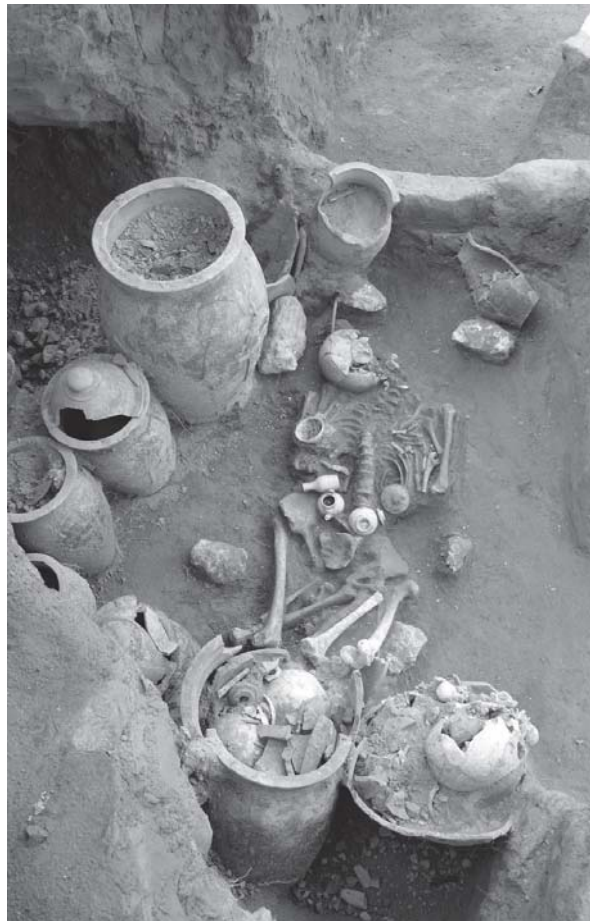
3 055号墓検出状況



4 056号墓検出状況



5 057号墓検出状況1



6 057号墓検出状況2

図版14 054号墓から057号墓遺構



1 057号墓検出状況3



2 058号墓検出状況



3 059号墓検出状況



4 060号墓検出状況



5 061号墓検出状況

図版15 057号墓から061号墓遺構



1-裏



3-裏



5



1



3



2



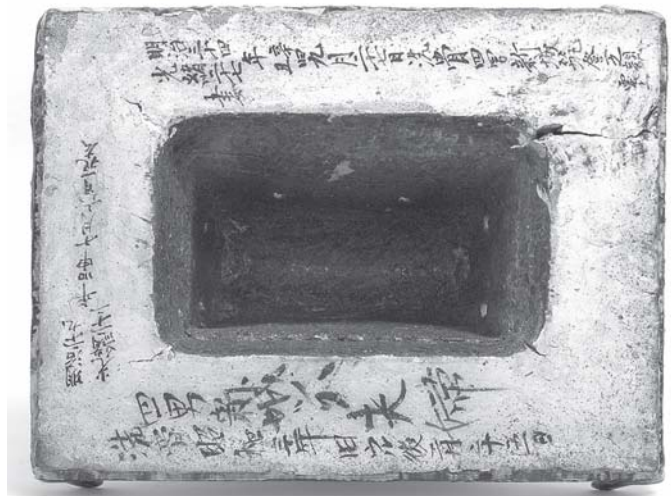
4



6



10



5-裏



11



7



8



9

图版16 001号墓遺物・脇墓1 (013号墓) 遺物



图版17 002号墓·004号墓遺物



图版18 008号墓·009号墓遺物



50-裏



52-裏



54-裏



50



52



54



51



53



55



56



58



60



57



59



61

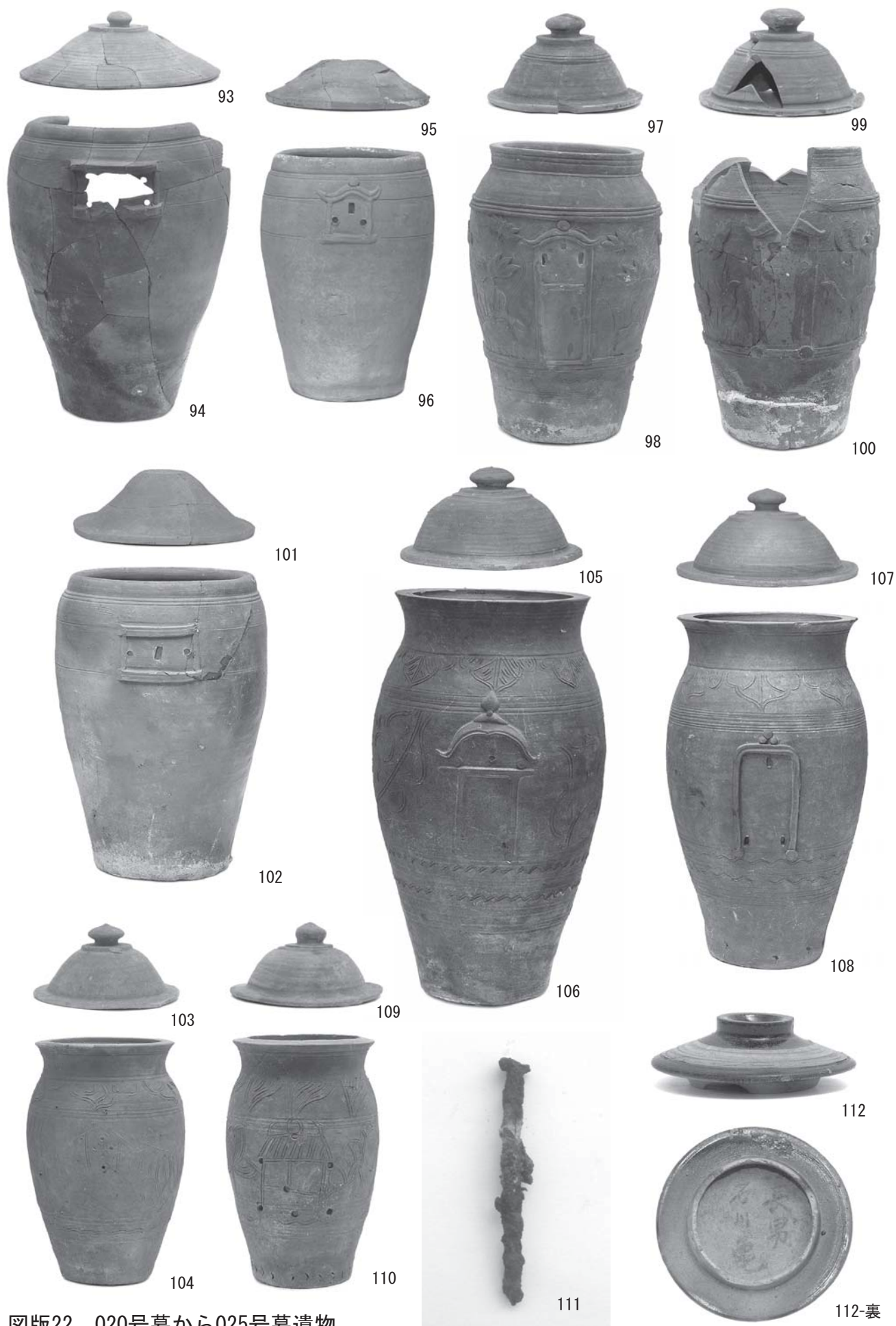
图版19 011号墓遺物



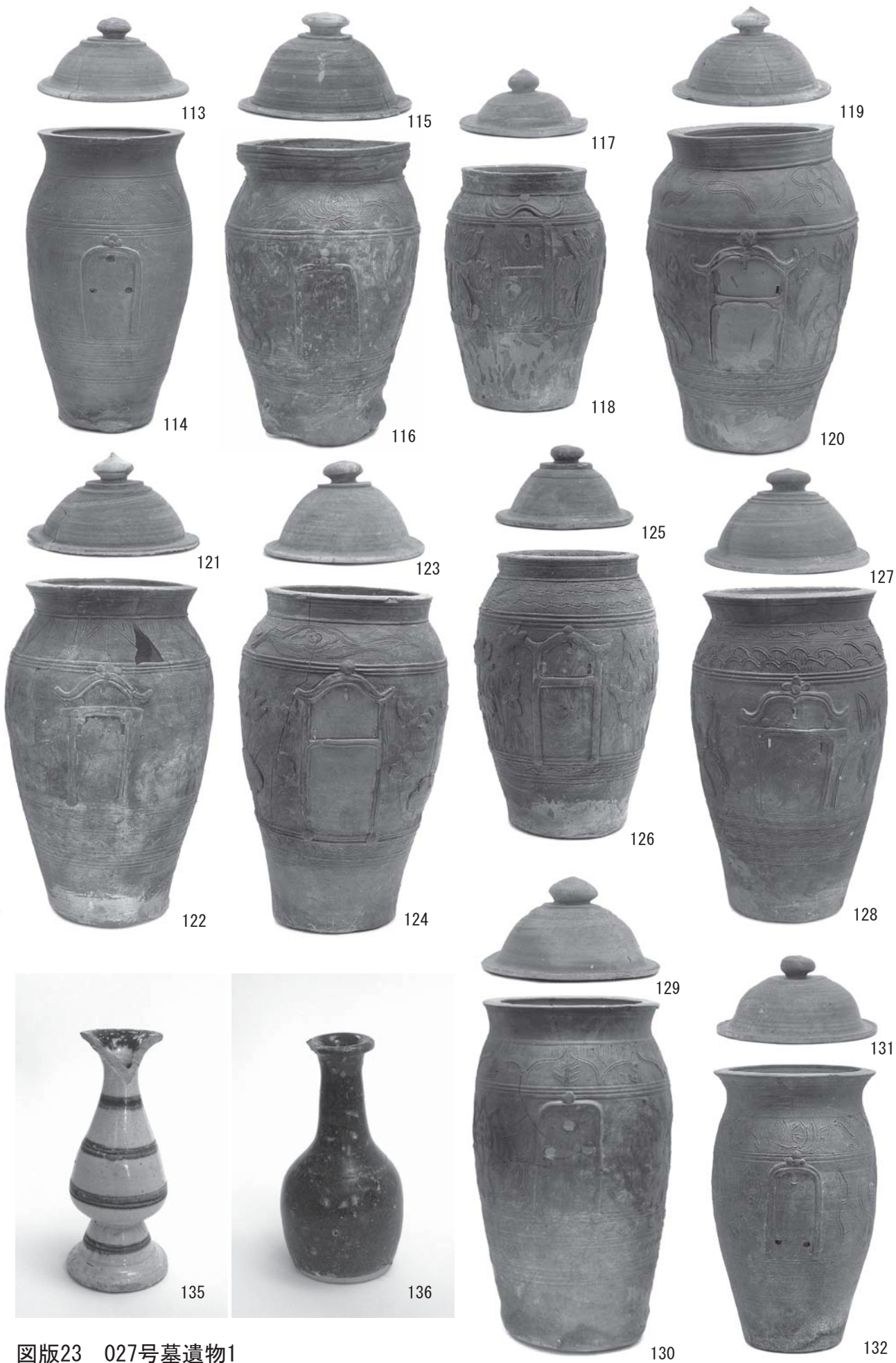
图版20 014号墓遺物



图版21 015号墓·016号墓遺物



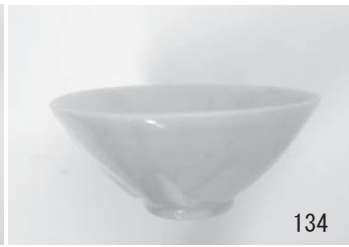
図版22 020号墓から025号墓遺物



图版23 027号墓遺物1



133



134



139-頭部

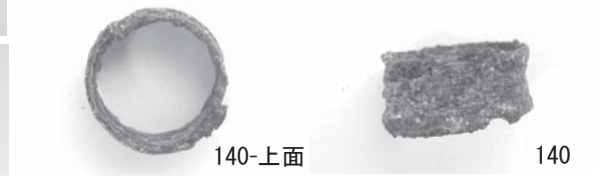
139



137

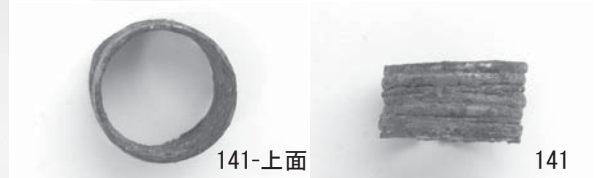


138



140-上面

140



141-上面

141



142-上面

142



143-上面

143



144



145



147



148



146



149



150



151



152



153

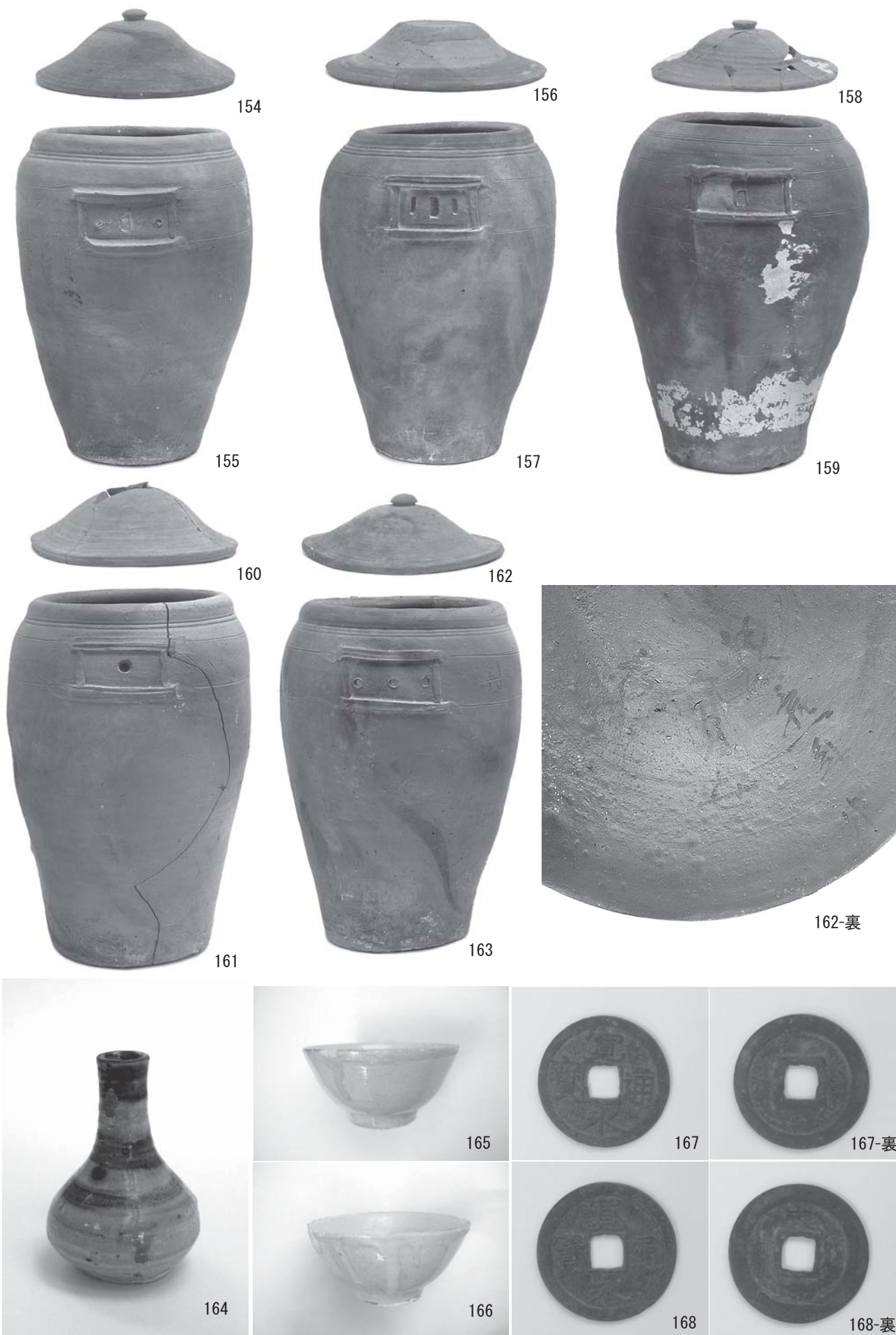


写真a

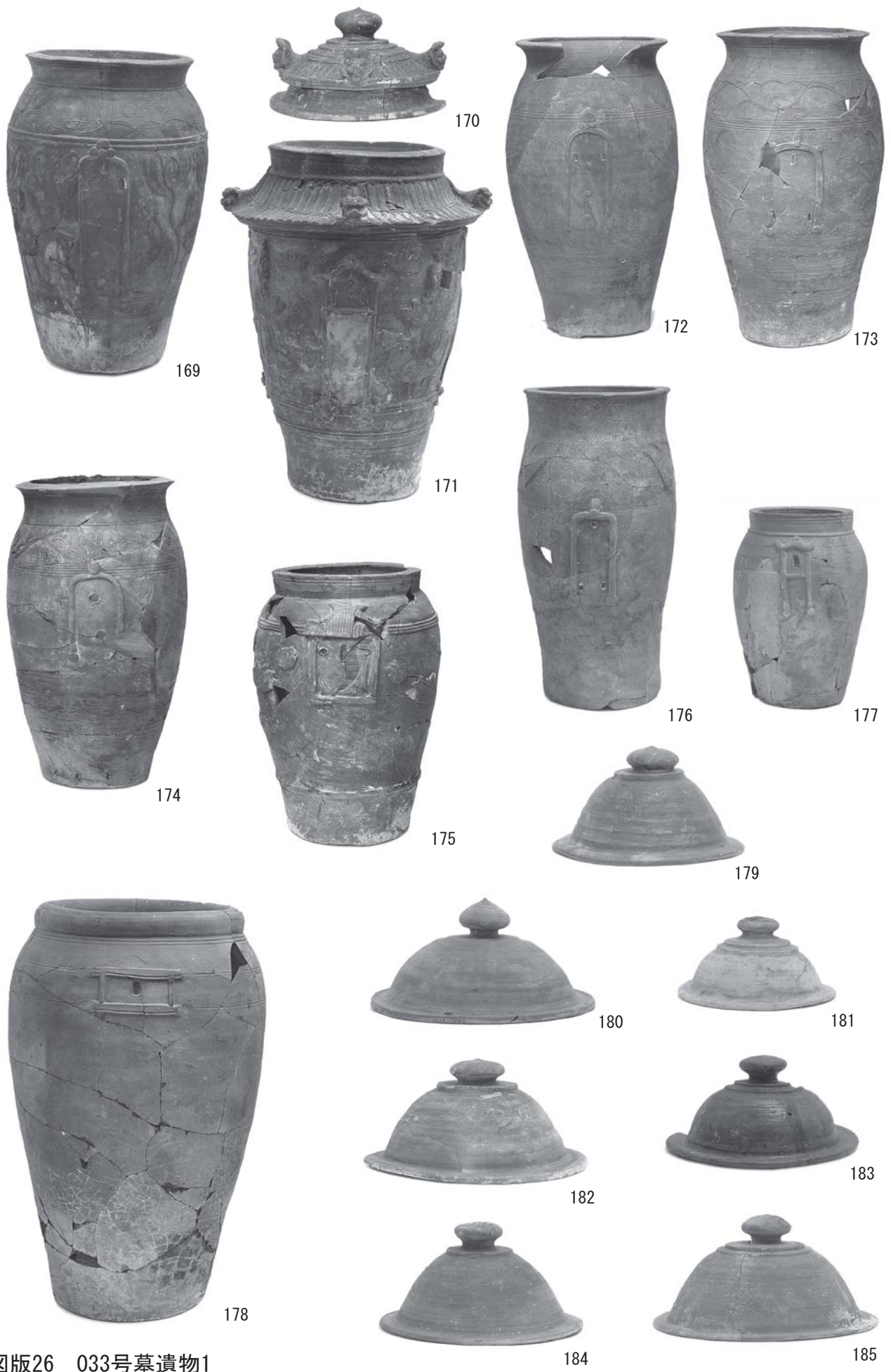


写真b

図版24 027号墓遺物2・028号墓遺物



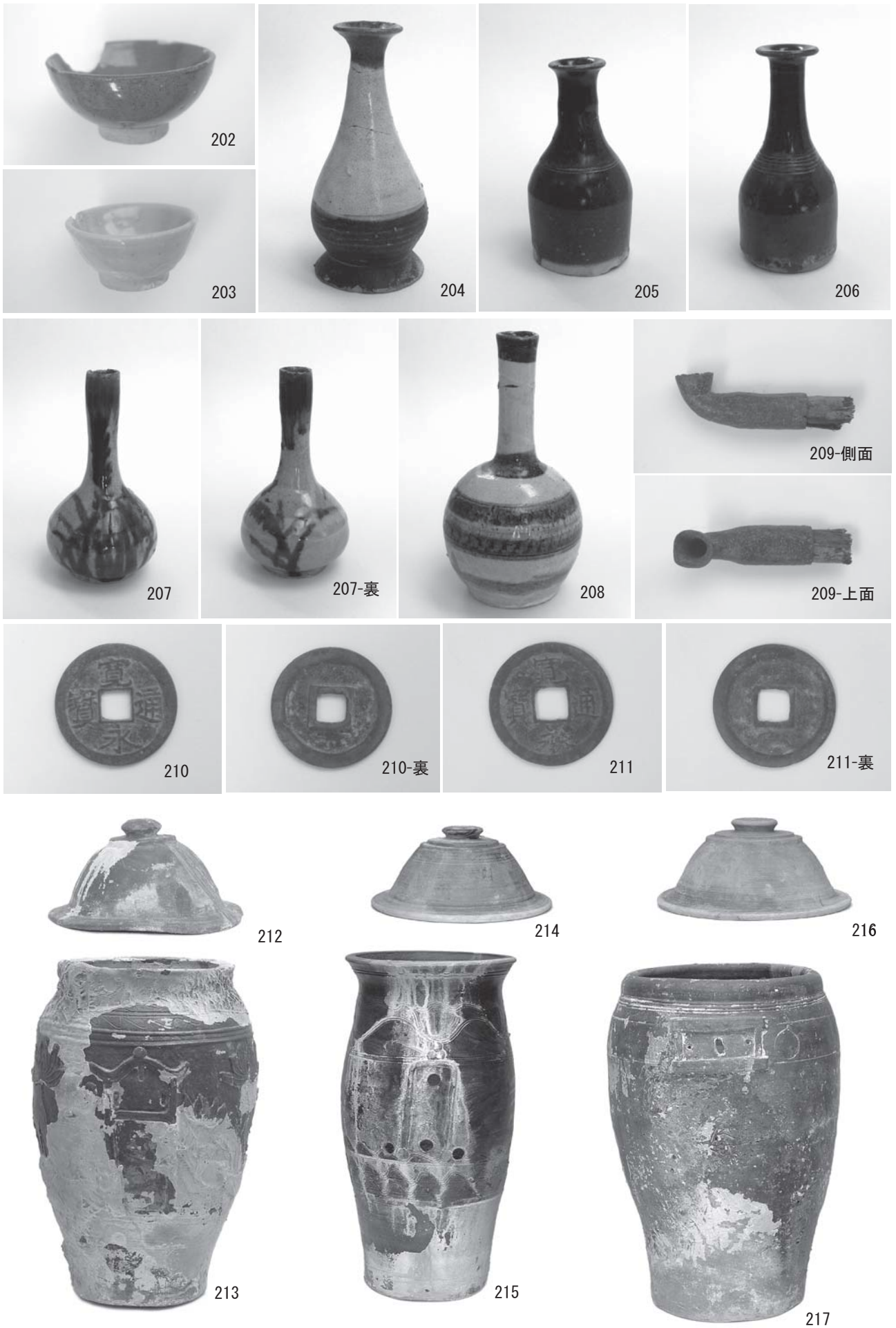
图版25 032号墓遺物



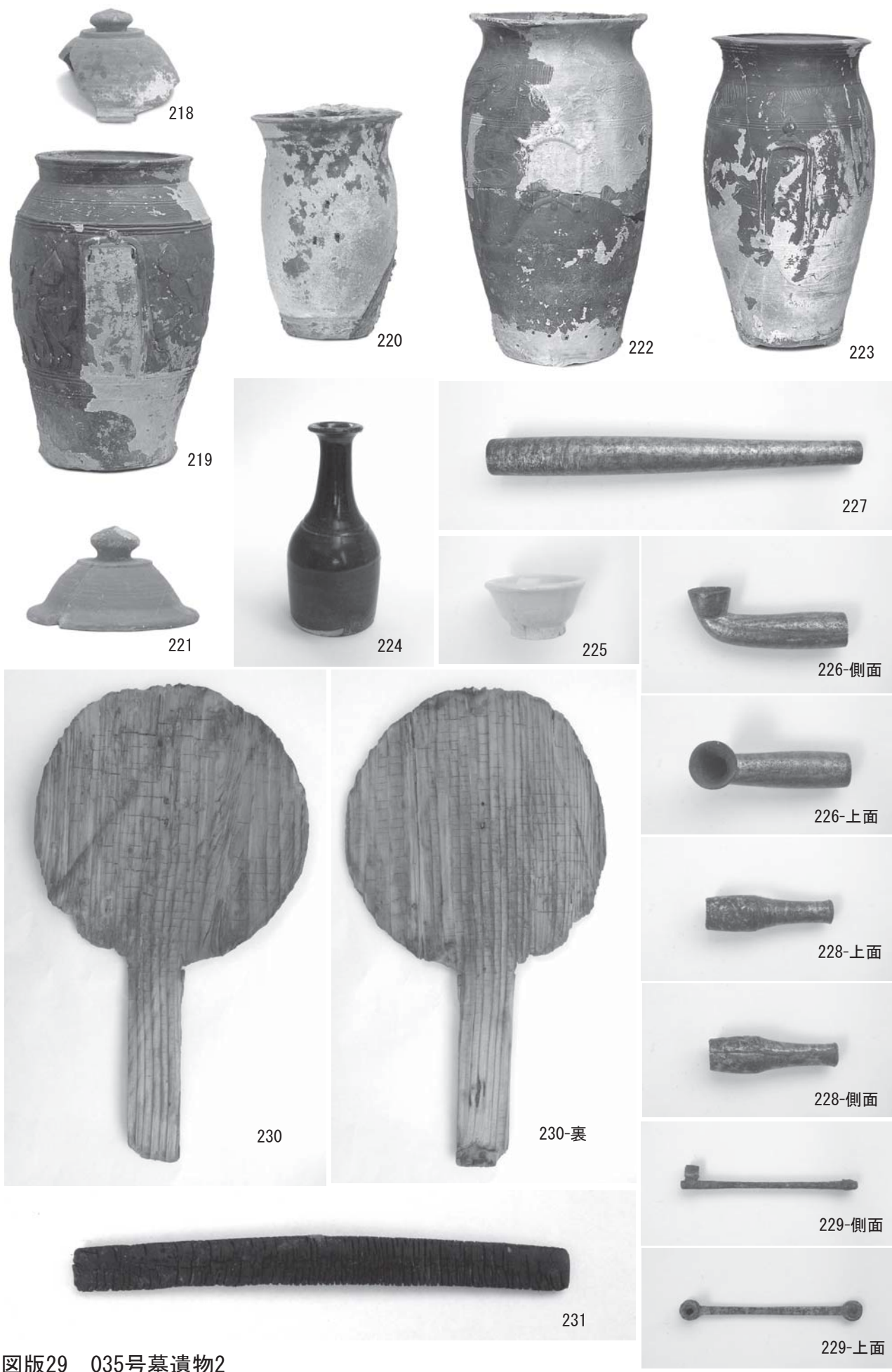
图版26 033号墓遺物1



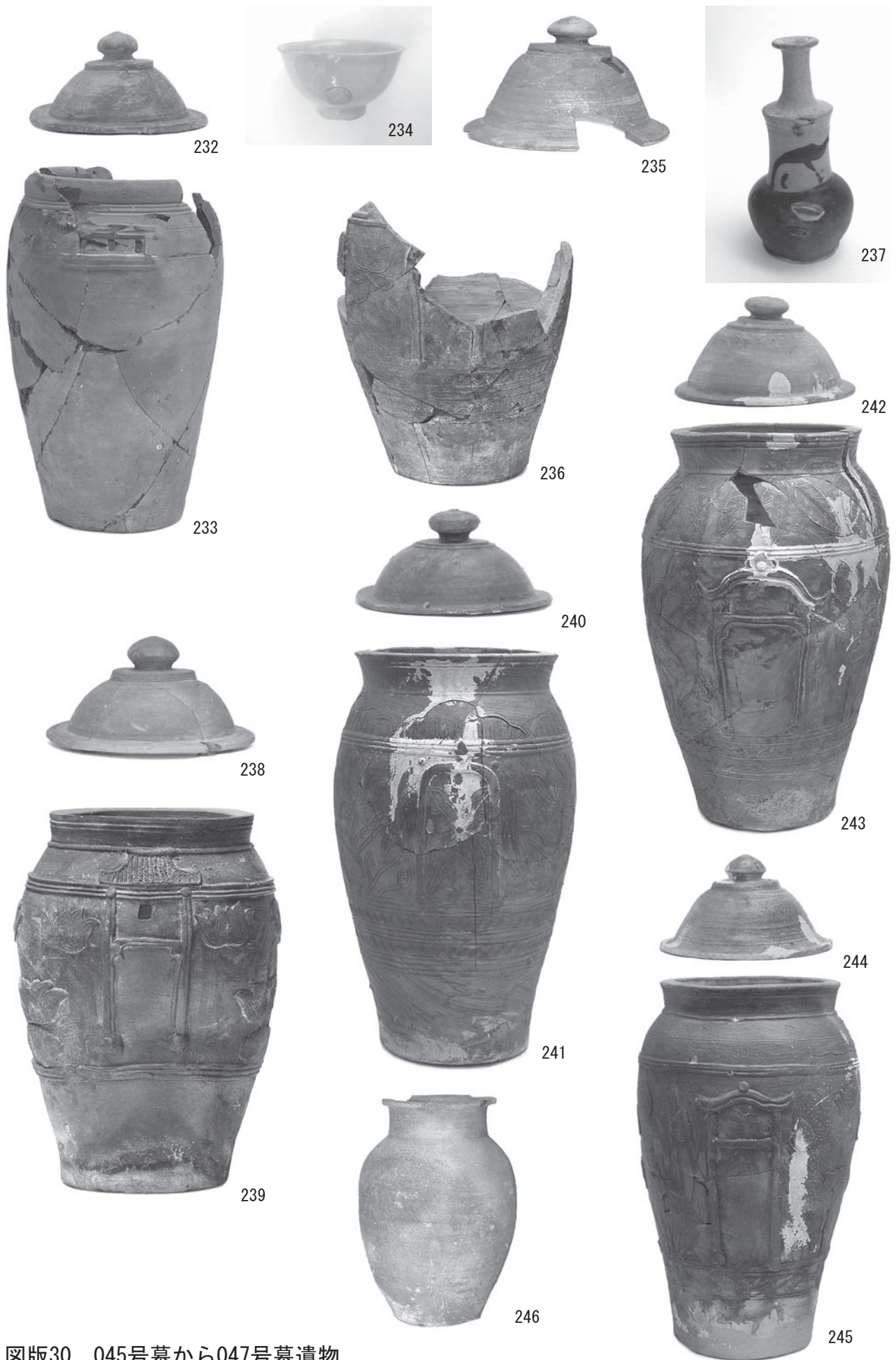
图版27 033号墓遺物2



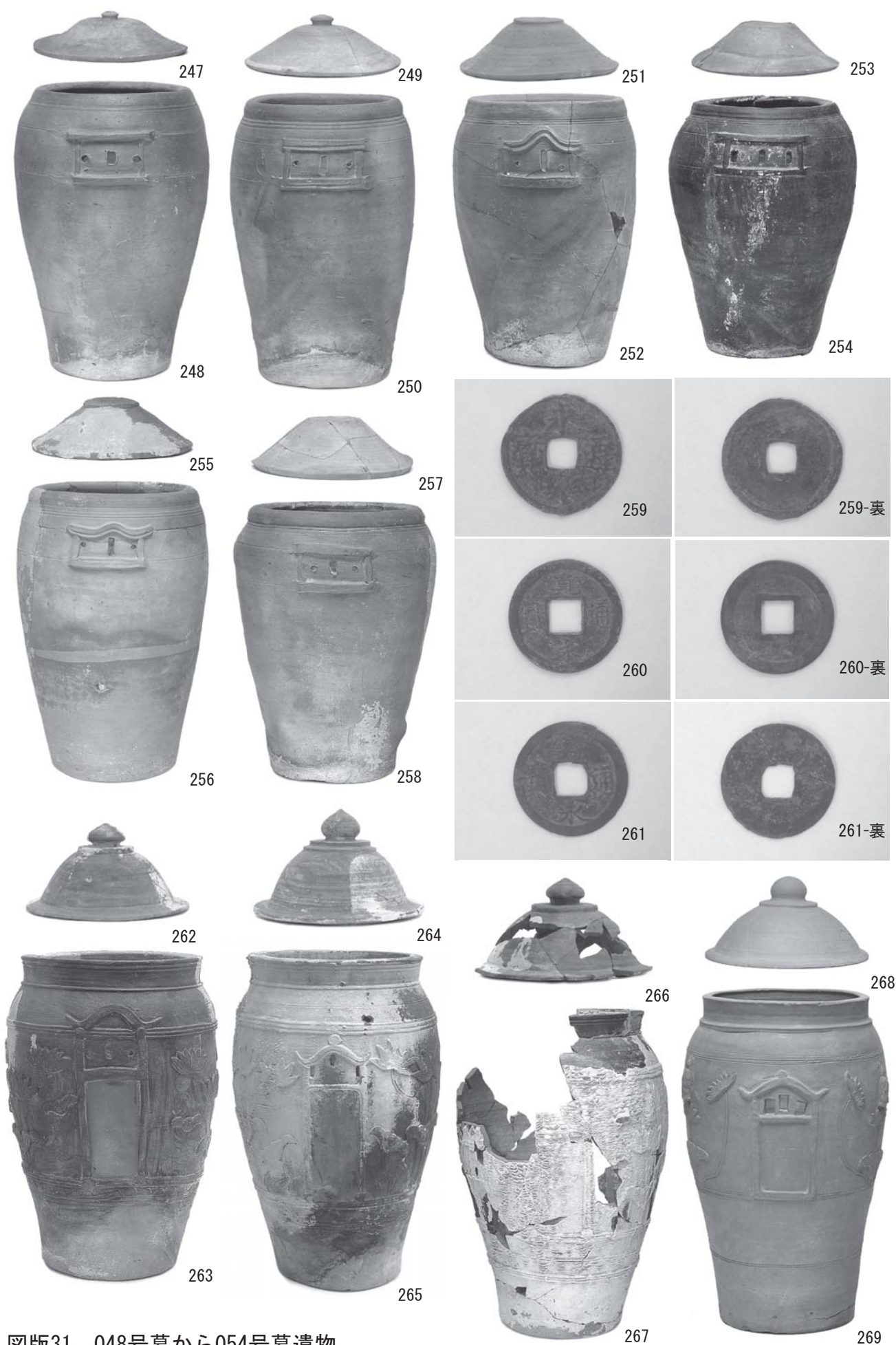
图版28 033号墓遺物3・035号墓遺物1



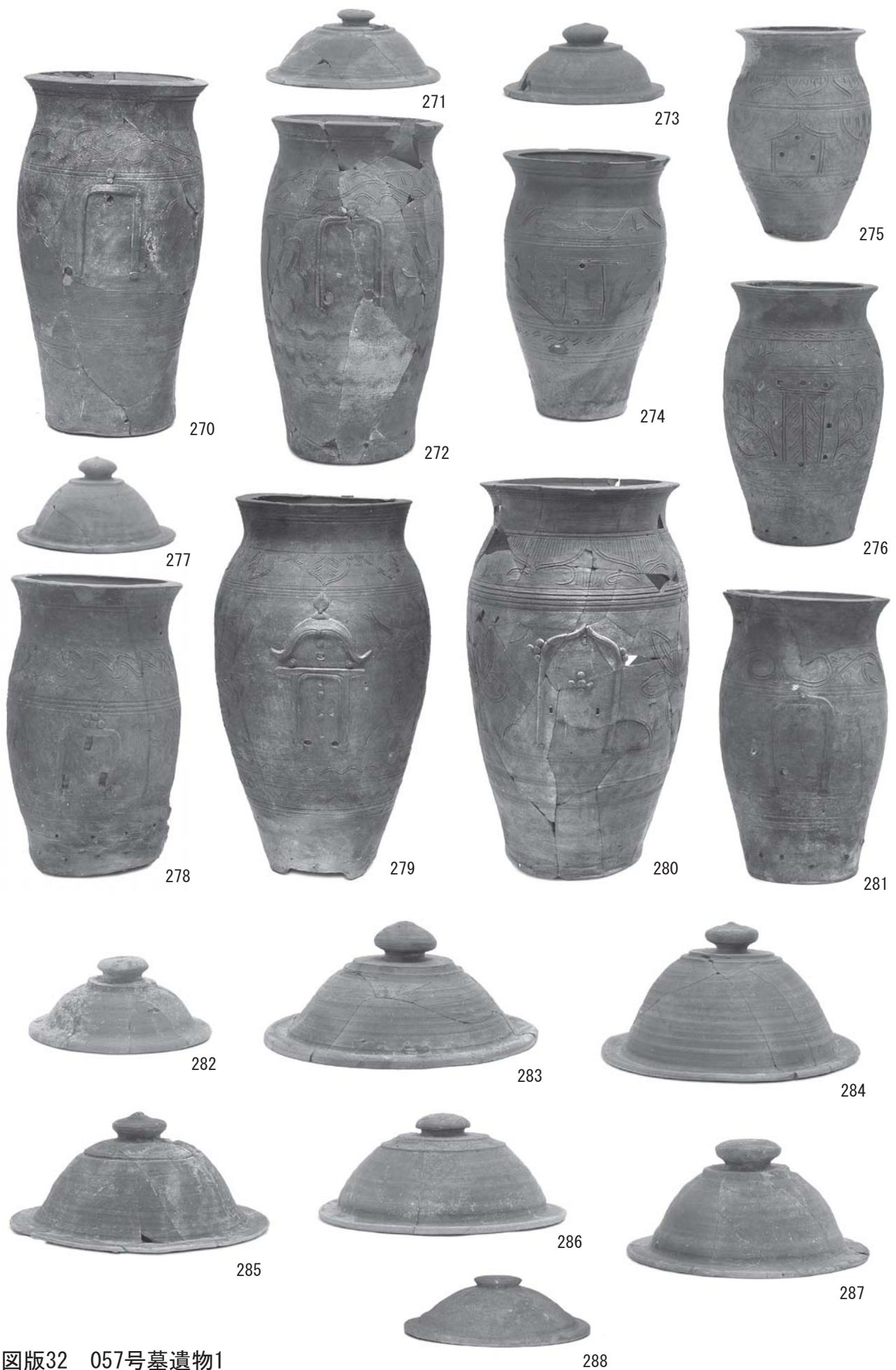
図版29 035号墓遺物2



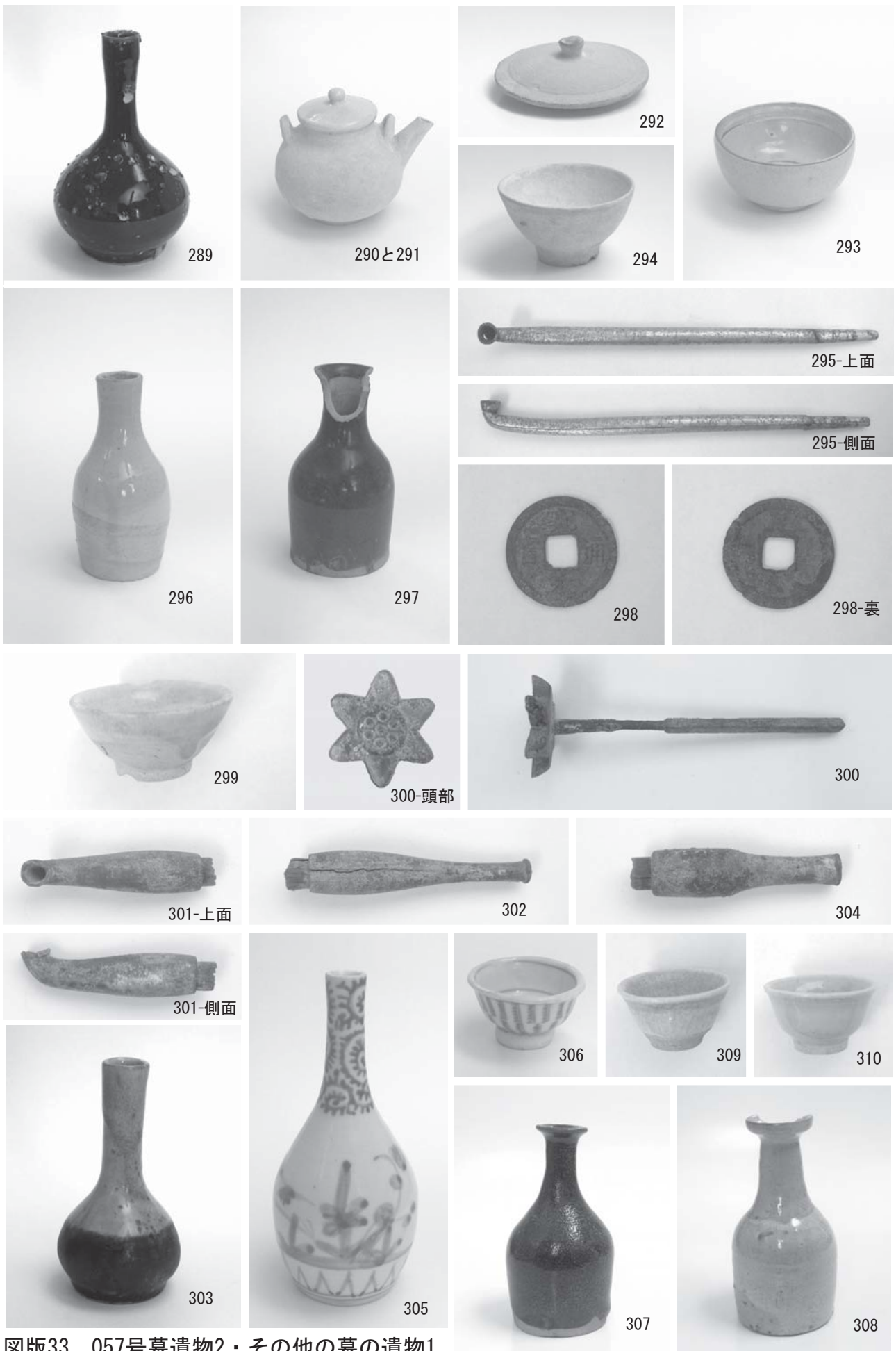
図版30 045号墓から047号墓遺物



図版31 048号墓から054号墓遺物



图版32 057号墓遺物1



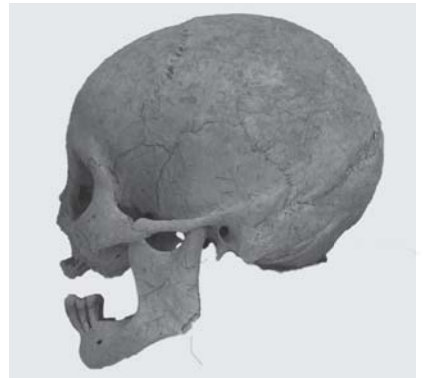
図版33 057号墓遺物2・その他の墓の遺物1



図版34 その他の墓の遺物2



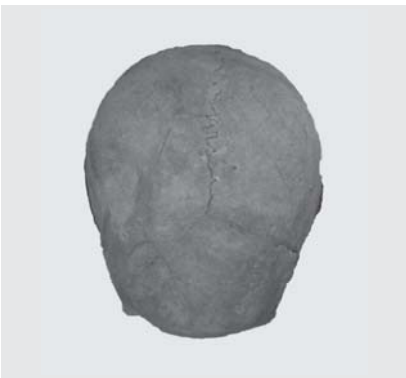
014 号墓 - 藏骨器 4-No. 1 人骨



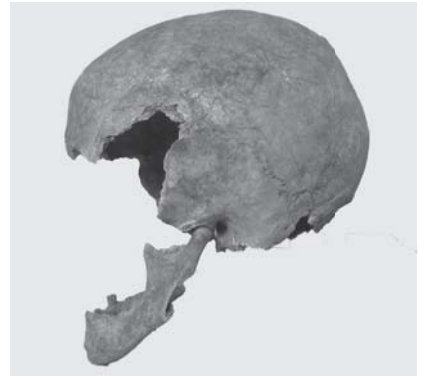
014 号墓 - 藏骨器 8-No. 2 人骨



024 号墓 - 藏骨器 2-No. 1 人骨



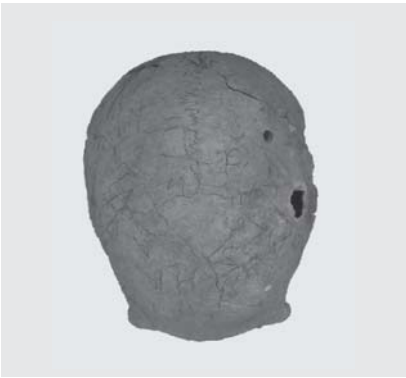
027 号墓 - 藏骨器 4-No. 1 人骨



027号墓 - 藏骨器 9-No. 1 人骨



027号墓 - 藏骨器 10-No. 1 人骨



027号墓 - 一次葬 -No. 1 人骨



027号墓 - 一次葬 -No. 2 人骨



045 号墓 - 藏骨器 1-No. 1 人骨



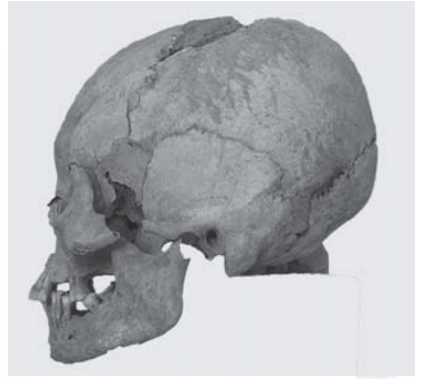
047 号墓 - 藏骨器 2-No. 1 人骨



047 号墓 - 藏骨器 3-No. 1 人骨



047 号墓 - 藏骨器 3-No. 2 人骨



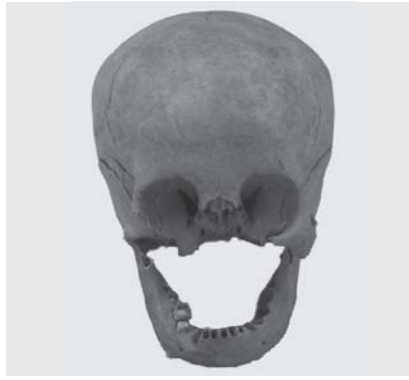
047 号墓 - 藏骨器 4-No. 1 人骨



048 号墓 - 藏骨器 5-No. 1 人骨



057 号墓 - 藏骨器 1-No. 1 人骨



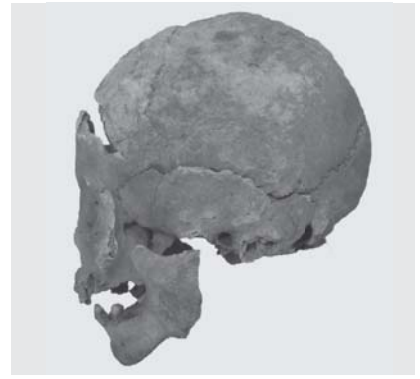
057号墓 - 藏骨器 2-No. 2 人骨



057号墓 - 藏骨器 4-No. 1 人骨



057号墓 - 藏骨器 6-No. 1 人骨



057号墓 - 藏骨器 7-No. 1 人骨



057号墓 - 藏骨器 9-No. 1 人骨

報告書抄録

ふりがな	まえだきょうづかきんせいぼぐん きょうづかねのかたばる A きゅうりょう							
書名	前田・経塚近世墓群 4 経塚子の方原 A 丘陵 (1)							
副書名	浦添南第一土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名	浦添市文化財調査報告書							
編著者名	安斎英介 菅原広史 鈴木悠 上原千明 玉那覇有登							
編集機関	浦添市教育委員会							
所在地	〒901-2501 沖縄県浦添市安波茶一丁目1番1号 Tel:098-876-1234							
発行年月日	平成 25 (2013) 年 3 月 29 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘 面積	発掘原因
		市町 村	遺跡 番号					
<small>まえだ きょうづかきんせい ぼぐん 墓群</small> <small>きょうづかね かたばる A 丘陵</small>	<small>おきなわけん 沖縄県</small> <small>うらそえしあぎ 浦添市字</small> <small>きょうづかこあざね 経塚小字子</small> <small>かたばる の方原</small>	47208	—	26° 14' 01"	127 ° 43' 29"	平成 20 年 度 20081104 ～ 20081223	2,000 m ²	記録保存 調査
	種別	主な年代		主な遺構		主な遺物		特記事項
	墓	近世～近代		墓 61 基		蔵骨器、副葬品、 人骨		
要約	<p>浦添市前田と経塚に所在する砂岩の丘陵地には、近世から近代にかけて 1,000 基を超える墓が造営されており、それらの遺跡を総称して、前田・経塚近世墓群とよんでいる。本発掘調査では、近世から近代にかけて造営されたと考えられる 61 基の墓が出土した。また、それらの墓からは、墓に葬られた人骨や蔵骨器、副葬品と思われる各種の遺物が出土した。今回の調査成果で得られた蔵骨器の型式や銘書などから、近世から近代にかけての遺構群であると考えられる。今回の調査成果は、前田・経塚近世墓群の性格のみならず、文献資料が少ない近世から近代における琉球・沖縄の葬墓制を考える上で貴重な成果であり、その時期の琉球・沖縄人の形質的特徴を考える上でも重要な成果である。</p>							

浦添市文化財調査報告書

前田・経塚近世墓群 4 経塚子の方原 A 丘陵 (1)

浦添市南第一土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告書

2013 (平成 25) 年 3 月 29 日発行

編集・発行 浦添市教育委員会

〒901-2501 沖縄県浦添市安波茶一丁目 1 番 1 号

TEL: 098-876-1234 FAX: 098-878-1487

印刷・製本 有限会社 ダイヤプリント 浦添営業所

〒901-2127 沖縄県浦添市屋富祖二丁目 24 番 10 号

TEL: 098-879-9303 FAX: 098-852-3008